

水橋池田館遺跡 水橋池田館Ⅱ遺跡 発掘調査報告 水橋中村遺跡

— 県営農地整備事業水橋三郷北地区に伴う
埋蔵文化財発掘報告 —

2020年

水橋池田館遺跡 水橋池田館Ⅱ遺跡 発掘調査報告 水橋中村遺跡

— 県営農地整備事業水橋三郷北地区に伴う
埋蔵文化財発掘報告 —

2020年

公益財団法人 富山県文化振興財団
埋 藏 文 化 財 調 査 課

序

本書は、県営農地整備事業に先立ち、平成30年度、令和元年度に実施した水橋池田館遺跡、水橋池田館Ⅱ遺跡、水橋中村遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。

これらの遺跡は、富山市街地の東、常願寺川と白岩川に挟まれた低地部に位置し、白岩川の堤防越しに立山連峰の雄大なパノラマを望むことができる田園地帯にあります。

水橋池田館遺跡は、二つの川の洪水氾濫原に点在する微高地上に立地し、中世末から近世にかけての二重に巡る堀をもつ方形居館や井戸、土坑がみつかるなど、貴重な発見となりました。

こうした発掘調査の成果が、文字の記録に現れることのない人々の生活をひもとく一助となり、地域の歴史と文化財の理解に役立てば幸いです。

本書をまとめるにあたり、ご協力とご指導を頂きました関係機関および関係諸氏に厚く感謝申し上げます。

令和2年3月

公益財團法人 富山県文化振興財団
埋 藏 文 化 財 調 査 課

例　　言

- 1 本書は富山市水橋池田町地内に所在する水橋池田館遺跡、同水橋池田館地内に所在する水橋池田館II遺跡、同水橋中村地内に所在する水橋中村遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は富山県からの委託を受け、公益財団法人富山県文化振興財団が行った。
- 本遺跡の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記のとおりである。
- 調査期間 平成30（2018）年8月6日～11月2日
- 令和元（2019）年10月1日～10月24日
- 整理期間 令和元（2019）年11月1日～令和2（2020）年3月27日
- 3 調査に関する全ての資料、出土遺物は、本書刊行後、富山県埋蔵文化財センターで保管する。
- 4 遺跡の略号は市町村番号に遺跡名を統一し、水橋池田館遺跡を「01M I」、水橋池田館II遺跡を「01M I 2」、水橋中村遺跡を「01MN K」とし、遺物の注記には略号を用いた。
- 5 本書の編集・執筆は金三津道子が担当した。石材については下仁田町自然史館長・明治大学黒耀石研究センター客員教授中村由克氏のご教授を得た。自然科学分析については専門機関に委託し、その成果を収録した。
- 6 本書で使用している遺構の略号は以下のとおりである。
- SD：溝、SE：井戸、SK：土坑、SP：柱穴、SX：その他
- 7 遺構番号は遺構の種類に関わらず連番とした。
- 8 本書で示す方位は全て真北、標高は海拔高である。
- 9 挿図の縮尺は下記を基本とし、各図の下に縮尺率を示す。
- 遺構　溝・井戸・土坑・柱穴：1/40
- 遺物　土器・陶磁器：1/3、木製品・石製品：1/3、木製品：1/3、1/4、金属製品：1/1
- 10 土層及び遺構埋土、土器胎土の色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を参照した。
- 11 遺物は種類に関わらず連番を付し、本文・挿図・一覧表・写真図版中の遺物番号は全て一致する。
- 12 本文・挿図で扱った遺構・遺物は、一覧表に掲載している。遺構一覧・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。
- ①遺構の埋土に切り合い関係がある場合は、切り合い欄に新>古のように記号で示す。
- ②遺構の規模の（ ）内は現存長を表す。
- ③土器法量の（ ）内は復元長を表す。残存部が少なく、計測不能なものは空欄とした。
- ④石製品法量の（ ）内は現存長を表す。
- ⑤重量はg単位で示す。計測は大きさによって台秤と電子秤を使い分けた。
- 13 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大なご教示・ご協力を得た。記して謝意を表します。（敬称略、五十音順）
- 水橋三郷土地改良区、富山県教育委員会、富山県埋蔵文化財センター、富山市埋蔵文化財センター

目 次

第Ⅰ章 調査の経過.....	1
1 調査に至る経緯.....	1
2 発掘作業の経過と方法.....	2
3 整理作業の経過と方法.....	4
第Ⅱ章 位置と環境.....	5
1 地理的環境.....	5
2 歴史的環境.....	5
第Ⅲ章 水橋池田館遺跡.....	9
1 概要.....	9
2 層序.....	9
3 遺構.....	9
4 遺物.....	18
5 自然科学分析.....	22
6 総括.....	25
第Ⅳ章 水橋池田館Ⅱ遺跡.....	68
1 概要.....	68
2 層序.....	68
第Ⅴ章 水橋中村遺跡.....	73
1 概要.....	73
2 層序.....	73
報告書抄録	

挿図目次

第1図	調査遺跡位置図	第16～23図	水橋池田館遺跡 遺構実測図
第2図	調査位置図	第24図	水橋池田館遺跡 復元図
第3図	地形と周辺遺跡	第25～33図	水橋池田館遺跡 遺物実測図
第4図	水橋池田館遺跡 調査地区位置図	第34・35図	水橋池田館Ⅱ遺跡 遺構実測図
第5～14図	水橋池田館遺跡 遺構実測図	第36図	水橋池田館Ⅱ遺跡 遺構実測図・調査地区位置図
第15図	水橋池田館遺跡 遺構全体図	第37図	水橋中村遺跡 遺構実測図・調査地区位置図

表目次

第1表	既往の調査一覧	第11表	水橋池田館遺跡 井戸一覧
第2表	調査一覧	第12表	水橋池田館遺跡 溝一覧
第3表	調査・整理体制	第13表	水橋池田館遺跡 土器・陶磁器一覧
第4表	周辺遺跡一覧	第14表	水橋池田館遺跡 木製品一覧
第5表	水橋池田館遺跡 基本層序	第15表	水橋池田館遺跡 石製品一覧
第6表	水橋池田館遺跡 出土木製品の樹種同定結果	第16表	水橋池田館遺跡 金属製品一覧
第7表	水橋池田館遺跡 出土木製品の樹種同定結果一覧	第17表	水橋池田館Ⅱ遺跡 基本層序
第8表	水橋池田館遺跡 遺物組成一覧	第18表	水橋池田館Ⅱ遺跡 調査地区一覧
第9表	水橋池田館遺跡 調査地区一覧	第19表	水橋中村遺跡 基本層序
第10表	水橋池田館遺跡 土坑一覧	第20表	水橋中村遺跡 調査地区一覧

写真図版目次

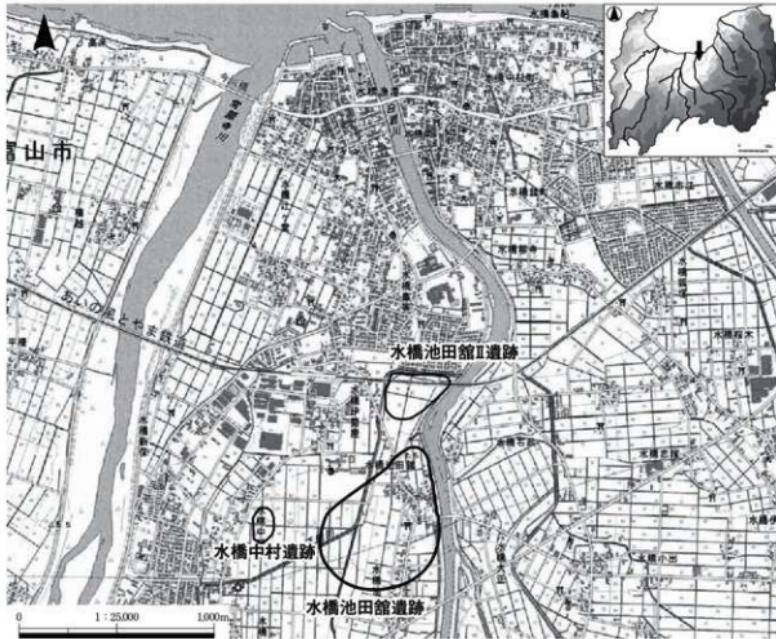
図版1	航空写真（1946・2007年撮影）	図版15	水橋池田館Ⅱ遺跡
図版2～8	水橋池田館遺跡	図版16	水橋中村遺跡
図版9～14	水橋池田館遺跡 出土遺物		

第Ⅰ章 調査の経過

1 調査に至る経緯

(1) 調査の契機

県営農地整備事業が計画された富山市水橋三郷北地区周辺では、複数の埋蔵文化財包蔵地が周知されており、平成29(2017)年10月、富山県教育委員会（以下、県教委）が試掘調査を実施した。その結果を受け、平成23(2011)年11月の富山県教育委員会通知「埋蔵文化財の発掘調査における対応方針」に基づき、県営農地整備事業水橋三郷北地区における水橋池田館遺跡、水橋池田館II遺跡、水橋中村遺跡の本発掘調査を、富山県農林水産部（以下、富山県）から公益財団法人富山県文化振興財団（以下、財団）が受託することとなった。平成30(2018)年度から2カ年にわたり、県教委により保護措置が必要と判断された水路および農道工事部分について本発掘調査を実施した。平成30年度は水橋池田館遺跡の一部1470.6m²、令和元(2019)年度は、水橋池田館遺跡98.7m²、水橋池田館II遺跡144.6m²、水橋中村遺跡50.6m²の3遺跡293.9m²の本発掘調査を実施している。



第1図 調査遺跡位置図 (1/25,000)

(2) 既往の調査

水橋池田館遺跡は、常願寺川と白岩川に挟まれた低地部300,000m²に広がる古墳時代～中世の遺跡である。常願寺川右岸、白岩川流域には多くの埋蔵文化財包蔵地があり、水橋池田館遺跡もその中の一つとして周知されている。水橋三郷北地区における県営農地整備事業に先立ち、平成29(2017)年度に県教委による試掘調査が実施されている。遺跡東側の一部で遺構・遺物が確認され、13,306m²について保護措置が必要と判断された。

第1表 既往の調査一覧

遺跡名	年度	調査主体	種類	調査対象面積	調査面積	文献
水橋池田館遺跡	H29	富山県教育委員会	試掘	4.3ha	373.1m ²	1

文献1：富山県埋蔵文化財センター 2019『富山県埋蔵文化財センター年報 平成29年度』

2 発掘作業の経過と方法

(1) 調査の経過と方法

調査の作業工程及びその方法・内容は、平成16(2004)年10月に文化庁から示された『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）』に則って進めた。

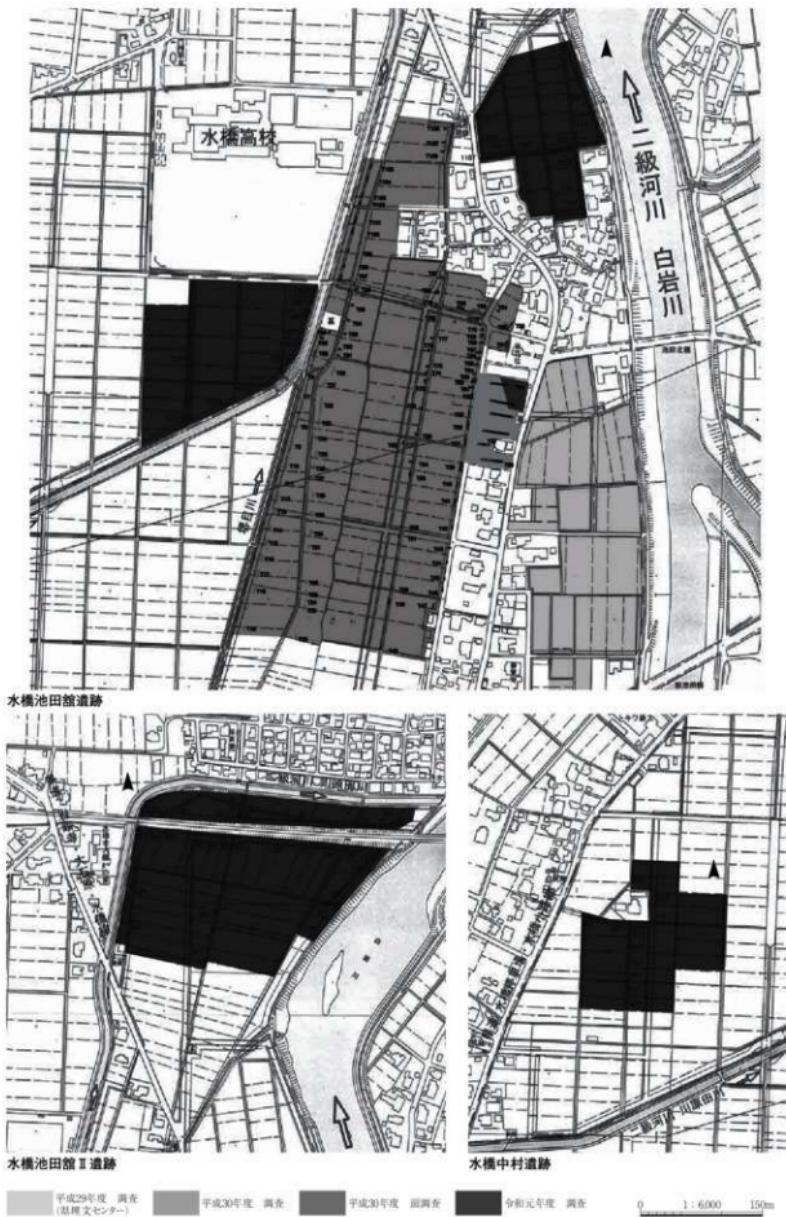
水橋池田館遺跡の面調査地区については、調査地区の形に合わせた任意のグリッドを設定し、国土地標（世界測地系：平面直角座標系第7系）のX81721.152Y12240.134をX0Y0の基点とした。南北方向をX軸、東西方向をY軸とし、グリッドは2m方眼を基本とした。各グリッド名は北東角のX軸Y軸の座標で呼称した。

試掘調査結果を基に、表土や盛土の除去は、調査員立ち会いのもと重機により行い、遺物包含層と遺構埋土はスコップや移植ゴテ等を用いて人力で掘削した。小規模な遺構については、半截し、大型の遺構については適宜アゼを設定して掘削し、埋土の状況を観察、記録した。

遺構の記録は、断面図を1/20の縮尺で実測し、遺構によっては1/10の縮尺で遺物出土状況図や平面図を作成した。各遺構の断面はデジタルカメラで撮影した。遺物出土状況や個別の遺構写真、プロック写真はブローニー判（6×7）カメラを、調査地区全景写真については4×5判カメラをそれぞれ併用した。また、調査地区全域の遺構平面図作成は、外部に委託した。

第2表 調査一覧

道 跡	期 間	実施	調査対象 面 積	調査面積	担当者	検出遺構	出土遺物
水橋池田館遺跡	平成30年度	8月6日～8月21日	6日	385.8m ²	金三津道子 町田 實一	土坑・溝・田河道	土師器・須恵器・青磁・越中瀬戸・近世陶磁器
		9月18日～10月19日	19日	13ha		井戸・柱穴・土坑・溝・竪	弦生・土器・土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・青磁・白磁・越中瀬戸・近世陶磁器・木製品・石製品・金属製品
		10月22日～11月2日	8日	284.8m ²		土坑・溝・竪・田河道	弦生・土器・土師器・須恵器・近世陶磁器・木製品
	令和元年度	10月9日～10月18日	45日	5.1ha	98.7m ²	全三津道子 青山 晃	越中瀬戸・近世陶磁器
水橋池田館II遺跡		10月1日～10月9日	45日	5.7ha	144.6m ²		竪坑遺構・田河道
水橋中村遺跡		10月21日～10月24日	3日	21ha	506m ²		近世磁器



第2図 調査地区位置図 (1/6,000)

3 整理作業の経過と方法

出土遺物は、埋蔵文化財調査事務所において洗浄・注記・仕分けを行った。木製品・石製品・金属製品については整理台帳を作成した。調査概要については『埋蔵文化財年報』(平成30年度)として発刊しており、令和元年度の調査については令和2年6月刊行予定の『埋蔵文化財年報』(令和元年度)に掲載予定である。

報告書作成にむけての室内整理作業は、平成30年度に遺物実測、令和元年度に遺物写真撮影、遺構・遺物の挿図及び写真図版作成、自然科学分析、原稿執筆、編集及び印刷と校正を行った。遺物の接合・実測は調査員が行い、遺物実測図、遺構実測図、写真は各台帳を作成して整理し、パソコンコンピューターを使用してデータ入力を行った。遺構・遺物のデータは観察表として掲載している。遺構・遺物の挿図作成は調査員が行い、一部を派遣オペレーターがデジタルデータ化して印刷原稿とした。遺物の写真撮影は4×5判カメラを用いて調査員が行った。自然科学分析は、専門機関に委託し、成果報告を掲載した。

第3表 調査・整理体制

実施年度	調査事業担当		
	総括	総務	担当
平成30年度 (2018)	課長 烏田 美佐子	主査 青山 晃	主査 金三津 道子 町田 賢一
令和元年度 (2019)	課長 烏田 美佐子	主査 青山 晃	主査 金三津 道子 青山 晃

第Ⅱ章 位置と環境

1 地理的環境

水橋池田館遺跡、水橋池田館Ⅱ遺跡、水橋中村遺跡は、富山市街地の北東約10kmの富山市水橋池田町・水橋池田館・水橋中村地内に所在する。遺跡は、富山県のほぼ中央部を占める富山平野の東部を流れる常願寺川右岸に立地し、常願寺川と白岩川に挟まれた低地部に位置する。常願寺川により形成された扇状地下流の氾濫平野で、北方2kmには日本海が広がる。常願寺川は、かつて東に屈曲し水橋伊勢屋、水橋池田館付近で白岩川と合流し、河口までは水橋川と呼ばれていた。明治24(1891)年の大洪水を期に國から派遣された技術者ヨハネス・デ・レーケにより、白岩川と分離され、現在のようにまっすぐ日本海に流れ形に改修された。遺跡は、この改修前の河道蛇行部のすぐ南側、白岩川との合流点付近に位置する。水橋池田館遺跡外の標高は4~6mを測り、常願寺川及び白岩川の間に点在する自然堤防上からその後背湿地にかけて広がる。

2 歴史的環境

水橋池田館遺跡外が位置する常願寺川右岸地域では、常願寺川などの河川により形成された段丘・扇状地・平野に多くの遺跡が所在している。特に白岩川流域では濃密な分布がみられる。

旧石器～繩文時代中期までの遺跡は白岩川上流部、常願寺川右岸河岸段丘上に位置し、吉峰遺跡、白岩藪ノ上遺跡などがある。繩文時代後期～晩期には、中～下流域でも遺跡が確認される。水橋金広・中馬場遺跡では建物を伴った集落が形成され、石冠やヒスイ垂玉などが出土している。

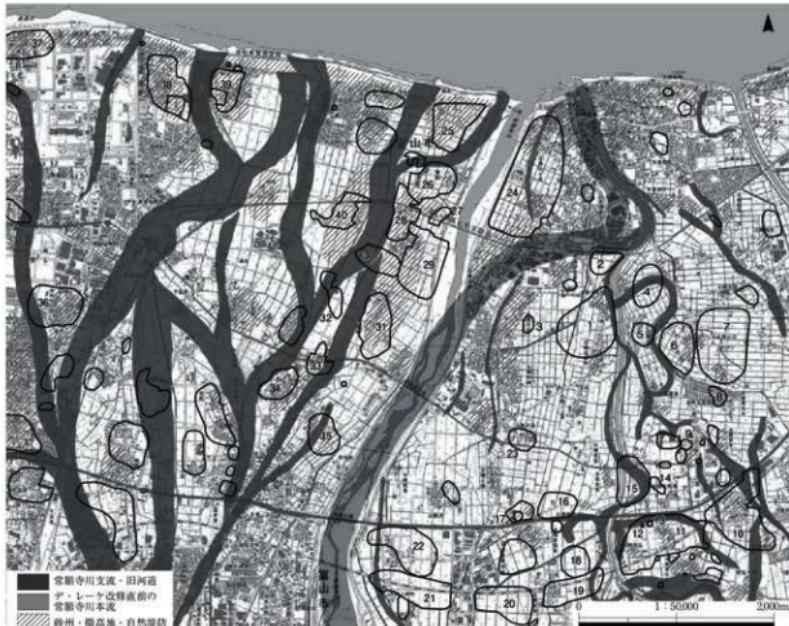
弥生時代の中～下流域では中期以降、遺構・遺物が確認されはじめ、後期～終末期にかけて多くの遺跡が展開する。新堀西遺跡は、弥生時代後期～古墳時代前期の遺跡で、後期の集落を二重に囲う環濠とみられる溝や、終末期～古墳時代にかけての建物群などを持つ長期的な集落遺跡である。

古墳時代の白岩川流域では、前方後方墳の竹内天神堂古墳、円墳の稚子塚古墳・清水堂大塚古墳・若王子塚古墳、方墳の宮塚古墳など数多くの古墳が造営され、県内平野部では稀な古墳群を形成する。

古代では古代北陸道に設置された「水橋駅」の推定地とされる水橋荒町・辻ヶ堂遺跡が常願寺川河口付近に所在する。白岩川流域では、「里正」木簡が出土した辻遺跡、東大寺丈部莊や大蘇莊の比定地が存在し、律令期の重要施設の存在が想定される。この他に遺跡周辺には、水橋二杉遺跡、水橋光寺遺跡などの集落遺跡や、道路遺構が確認された水橋金広・中馬場遺跡などがある。

中世の常願寺川・白岩川流域では常願寺川左岸に日方江遺跡、大村遺跡、新庄城、常願寺川右岸、白岩川流域に小出城跡、仏生寺城跡、竹内館跡、鶯野城など多くの城館が分布する。これらの城館は街道沿いなどの交通の要衝に面し、戦国期には軍事上の拠点となっていた。

近世には、天正13(1585)年以降、明治まで加賀藩領となった。豊かな水資源を利用した水田耕作が営まれ、河川を利用した水運や漁撈活動も盛んに行われていた。また、白岩川上流の山地縁辺では古代末以降、須恵器生産が行われ、中世末～近世には越中瀬戸焼きの生産が盛行した。水橋金広・中馬場遺跡など白岩川流域の遺跡では、越中瀬戸焼きが高い割合で出土することから、陸路や白岩川の水運を利用して生産地から製品を運び、消費地へと供給されていたものと想定されている。



第3図 地形と周辺遺跡 (1/50,000)

第4表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	種類	時代	No.	遺跡名	種類	時代
1	水橋池田堀	集落	縄文、古墳、奈良、平安、中世	22	水橋二秒	集落	縄文(後～晚)、弥生(中～終)、奈良、平安、中世、近世
2	水橋池田堀Ⅱ	散布地	奈良、平安、中世	23	水橋の場	散布地	奈良、平安、中世
3	水橋中村	散布地	奈良、平安	24	水橋荒町・江ヶ堂	集落、官道	縄文(中～晚)、弥生、古墳(前～後)、白鳳、奈良、平安、中世、近世
4	水橋石段	散布地	縄文(地)、奈良、平安、中世	25	高来	集落	縄文(晚)、奈良、平安、近世
5	水橋大正	散布地	平安、中世、近世	26	横越	集落	縄文(晚)、奈良、平安、中世、近世
6	小出城跡	集落、城柵	古墳(後～晚)、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世	27	横越水塹	集落	中世
7	水橋小山	散布地	縄文(後)、奈良、平安、中世	28	浜黒崎野田・平曠	集落	縄文(前～地)、弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世
8	水橋寺光寺	集落	縄文、弥生(後)、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世	29	平曠丸田	集落、散布地	縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世、近世
9	水橋石削面	組?	中世?	30	野中新長幅	集落	縄文(後)、弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世
10	田伏・佐野背	散布地	縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世、近世	31	宮条南	集落	縄文(後～晚)、弥生(中)、古墳(前)、平安、平成、近世
11	水橋金合・中馬場	集落、古墳、組	古墳、弥生(後～終)、古墳、奈良、平安、中世、近世	32	高高鳥浦	集落	縄文(晚)、弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世
12	宮塙古墳	古墳	古墳	33	針原中町1	集落	縄文(後)、弥生(中)、古墳、奈良、平安、中世、近世
13	若王子塙古墳	古墳	古墳、中世、近世	34	針原中町Ⅱ	集落	縄文(晚)、弥生、古墳(組)、奈良、平安、中世、近世
14	水橋北馬場	散布地	平安、中世、近世	35	宮城	散布地	奈良、平安、中世、近世
15	金尾	散布地	縄文(後～晚)、弥生(中～後)、古墳(前)、奈良、平安、中世	36	糸田大室	集落	縄文、弥生、奈良、平安、中世、近世
16	金尾新	散布地	縄文(晚)、奈良、平安	37	岩瀬天神	集落	縄文(中～晚)、弥生(後)、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世
17	中野	集落	縄文(後～晚)、弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世	38	大村	集落	弥生(後)、奈良、平安、中世、近世
18	葛野城	城柵	中世	39	大村城跡	城柵	中世
19	新堀東	散布地	弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世	40	日方江城跡	集落	縄文(後～晚)、弥生(後)、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世
20	新堀西	集落	弥生、古墳、古墳、中世	41	浜黒崎悪地	城柵	中世
21	水橋入部	散布地	弥生～古墳、古代、中世、近世				

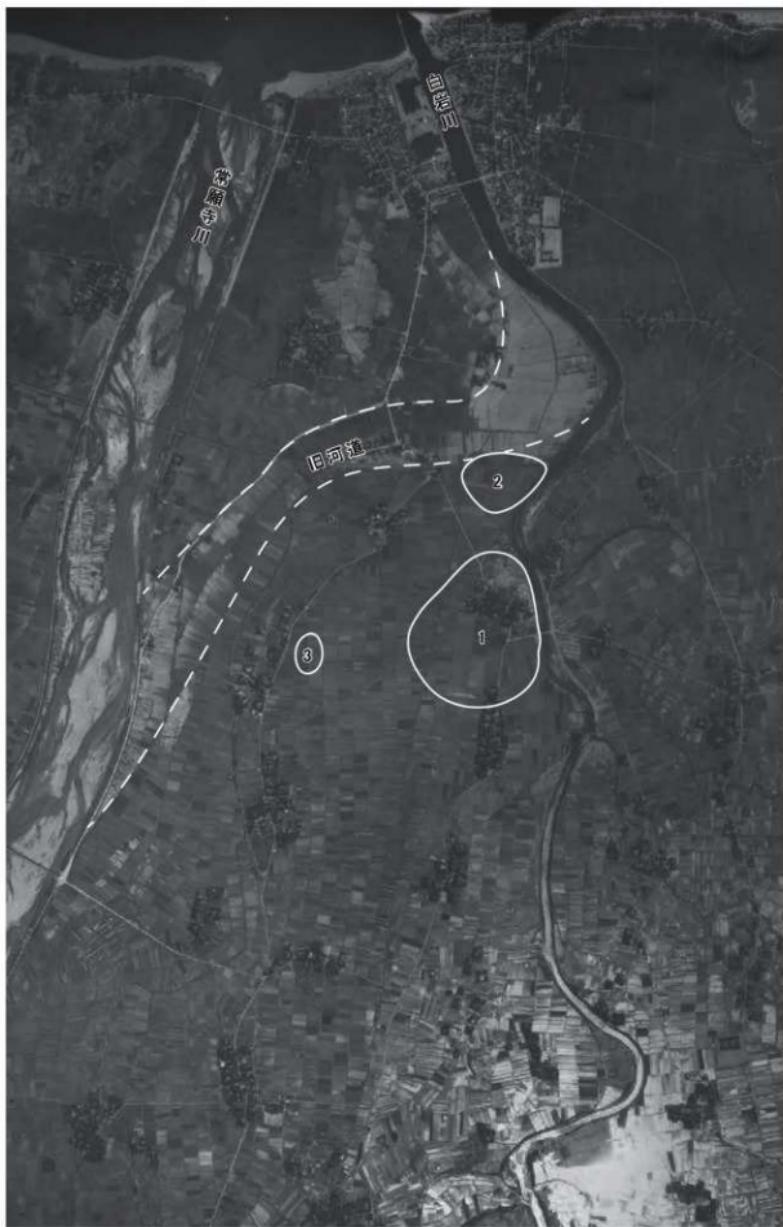


写真1 遺跡周辺航空写真（1953年 米軍撮影）

1. 水橋池田館遺跡 2. 水橋池田館II遺跡 3. 水橋中村遺跡

参考文献

- 鹿島昌也・安達志津 2003「中世の館から豊漁を祈る近世集落へ 水橋金広・中馬場遺跡平成14年度調査から」『大境』第24号 富山考古学会
- (公財)富山県文化振興財団 2013「上梅沢遺跡 水橋金広・中馬場遺跡 新堀西遺跡発掘調査報告－北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告VI－」
- (公財)富山県文化振興財団 2017「平櫻龜田遺跡発掘調査報告－県営農地整備事業平櫻地区に伴う埋蔵文化財発掘報告I－」
- (公財)富山県文化振興財団 2018「平櫻龜田遺跡 浜黒崎野田・平櫻遺跡 横越水岸遺跡 横越遺跡発掘調査報告－県営農地整備事業平櫻地区に伴う埋蔵文化財発掘報告II－」
- 国土交通省北陸地方整備局・国土交通省国土土地院 2006「古地理で探る越中・加賀の変遷」
- 高岡 勝 2014「戰国期における新庄城と武将の群像」『富山市考古資料館紀要』第33号 富山市考古資料館
- 高瀬重雄ほか 1994「富山県の地名」日本歴史地名体系16 平凡社
- 武田健次郎 1998「富山平野における道路群の展開」『富山考古学研究』創刊号 (財)富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 富山県 1983「富山県史」通史編IV 近世 下
- 富山县 1992「10万分1富山県地質図説明書」
- 富山市 1987「富山市史」通史<上巻>
- 富山市教育委員会 1999「富山市水橋荒町遺跡発掘調査概要II」
- 富山市教育委員会 2001「富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会 2002「富山市 水橋荒町・辻ヶ堂遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会 2005「富山市 水橋荒町・辻ヶ堂遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会 2006「富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書II」
- 富山市教育委員会 2007「富山市小出城跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会 2009「富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会 2010「富山市米田大覚遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会 2013「富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図
- 深井甚三・糸原 寛 2001「ふるさと富山歴史館」富山新聞社
- 藤井昭二ほか 2011「常願寺川扇状地の形成と災害についての2、3の知見」『立山カルデラ砂防博物館研究紀要』第12号 立山カルデラ砂防博物館

第Ⅲ章 水橋池田館遺跡

1 概 要

水橋池田館遺跡は、常願寺川と白岩川に挟まれた低地部に位置し、県立水橋高校の南東側300,000m²の広大な遺跡である。調査は平成30年度・令和元年度の2カ年実施し、水路・道路工事部分を対象とし、一部県教委により保護措置が必要と判断された範囲について面調査を実施した。水路・道路工事部分の調査地区は130の小区にわかれしており、平成30年度に1～108地区、令和元年度に109～130地区の調査を行った。現況は水田・畑で、標高は3.5～4.5mを測り、ほぼ平坦な地形である。

遺構は溝26条、堀2条、井戸14基、土坑95基を検出した。このうち、日吉社南側の面調査地区で検出した遺構は溝15条、堀2条、井戸14基、土坑77基で、遺構の時期は中世後半～近世である。

2 層 序

基本層序は概ねⅠ層：灰黄褐色・暗オリーブ褐色砂質シルト、にぶい黄褐色砂質土～砂質シルト（表土・耕作土）、Ⅱ層：黄褐色・暗灰黄色砂質土～砂質シルト、黒褐色シルト（盛土）、Ⅲ層：黄褐色砂質土（地山・遺構検出面）、Ⅳ層：黄褐色砂質土、にぶい黄褐色砂（洪水層）、Ⅴ層：褐灰色砂質土、オリーブ褐色砂、褐色粗砂（洪水層）、Ⅵ層：暗オリーブ灰色砂（旧河道埋土）、Ⅶ層：黒色砂質土、オリーブ黑色砂質シルト（ビート層）、Ⅷ層：灰色粘土（ビート層）となる。

Ⅲ層は現池田館集落周辺の白岩川の自然堤防上を中心に堆積する。109～120地区は、白岩川の蛇行部西岸に立地し、V層の褐色粗砂やシルトと粗砂の互層が盛土下に厚く堆積しており、国土地理院の土地地形分類図や米軍撮影航空写真によると白岩川の旧河道にあたる。遺跡西側はⅡ層下に竪状や溝状の水紋のある砂層が堆積し、洪水や旧河道などのある程度水流のある環境下にあったと考えられる。遺跡中央部および南側は、Ⅱ層直下に植物遺体や酸化鉄を多く含むⅦ層が厚く、遺跡東側の微高地を取り巻くようにアシ・ヨシなどの繁茂する湿地状の地形が広がるとみられる。

3 遺 構

（1）溝

1号溝（SD 1、第22図、図版3）

西側にむかひL字状に屈曲する溝で、約2.50m東側をSD 2が併走する。面調査地区では北辺9m、東辺26mの範囲で確認した。幅3.50～3.90m、深さ0.39～0.74mを測る。断面は逆台形状を呈し、底面は平坦である。埋土は黒褐色シルトを基調とし、面調査地区南壁の土層堆積をみると、地山であるⅢ層がブロック状に混じる土層（12・14層）があり、一部掘り直しをしていると考えられる。SD 1は4・59・61地区でその延長部分が確認でき、東西約50m、南北約35mの方形に巡る区画溝で、屋敷地を二重に開む堀の内堀にあたると考える。出土遺物は青磁（12）、越中瀬戸（72）、伊万里小片、近世陶器（139）がある。出土遺物はSD 2と比べて少ないが、時期的な差は認められず、SD 1とSD 2は同時期に存在していたと思われる。

水橋池田館遺跡基本層序

表土	腐土	高山	浅水带	深水带	丘陵带	平原带	湿地带	沼泽带
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX

2号溝（SD 2、第22図、図版3）

SD 1の東側を併走する溝で、面調査地区で北辺17m、東辺33mの範囲で確認した。4・5・58・62地区で延長部分を確認でき、東西約65m、南北約57mの方形に巡る。SD 1の外側を巡る外堀と考える。幅2.00～2.70m、深さ0.46～0.74m。東辺の東側肩は尖走り状、面調査地区南壁付近は土橋状に一段浅くなる。北東角付近の東側肩には直径10～20cmの礫や立木がみられ、護岸などの施設があつた可能性がある。北東角付近は深くなっている、北からSX79が流れ込む。出土遺物は土師器、須恵器（3）、青磁（6）、白磁（13）、中世土師器（14～23）、珠洲（44・45・50・56・59・67・68・70・71）、瓦質土器、越前、越中瀬戸（73・77～83・90～92・110・121～125・132・133・137）、唐津（142）がある。土師器、須恵器は周辺からの流れ込みと考えられ、中世後半～近世を主体とする。中世土師器や珠洲は埋土下位の黒褐色粘土質シルト層から、遺物の大半をしめる越中瀬戸は埋土上位の暗褐色シルト層から出土しており、SD 2は17世紀中頃には堀として機能しなくなり、埋没したとみられる。

3号溝（SD 3、第22図、図版4）

SD 2東側に位置する南北溝で、調査地区南側へ続く。SD 4・SD 5・SD 102と約3mの間隔で併走する。遺構の新旧関係は、SD 2より古く、SK62・SE65・SE66より新しい。埋土は黒褐色シルトの単層で、断面V字状である。出土遺物は中世土師器小片がある。

4号溝（SD 4、第22図）

SD 2東側に位置する南北溝。北端はSD 9に切られて途切れるが、南側は調査地区外へ続く。SD 3・SD 5・SD 102と約3m間隔で併走する。調査地区南壁断面では、東側が浅く、西側が一段深くなる二段掘りの状態を観察できるが、後世の削平を受けており西側の深い部分のみしか検出できなかった。埋土は黒褐色シルト混じりの褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は、弥生土器（1）、中世土師器（24）、珠洲小片がある。弥生土器は摩耗しており、流れ込みと考える。

5号溝（SD 5、第22図）

SD 2東側に位置する南北溝で、調査地区外南側へ続く。SD 3・SD 4・SD 102と約3mの間隔で併走する。遺構の新旧関係は、SD 6・SD 8より古く、SD 9より新しい。埋土は黒褐色シルトの単層である。出土遺物は、青磁（10）、中世土師器（25）がある。

6号溝（SD 6、第19・20・22図）

面調査地区東側に位置する南北溝。遺構の新旧関係はSD 5・SD 8より新しく、SK11・SX24・SD38・SE89より古い。南端は後世の削平を受け、浅く不明瞭になる。出土遺物は中世土師器（25）、珠洲（60・61）、越中瀬戸（83・84・108・128・130）がある。

7号溝（SD 7、第21・23図、図版4）

面調査地区的北東角付近に位置する南北溝で、SD 2の東側10mを併走し、西側へL字状に屈曲する。調査区北・東側へ伸びる。遺構の新旧関係はSD 21・SD 38より古い。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は中世土師器（27・28）、珠洲（46・69）、越中瀬戸（75・76・84～89・118・129）、唐津（141）、砥石（156）がある。埋土上位から越中瀬戸が出土することから、SD 7は中世末～近世初めの遺構と考えられる。

9号溝（SD 9、第19・20図）

SD 2の東側に位置する東西溝。複数の遺構と重複しており、遺構の新旧関係はSD 4より新しく、SD 6より古い。幅0.77m、深さ0.09mを測る浅い溝で、埋土は黒褐色砂質シルトの単層で、植物遺体を少し含む。出土遺物は、中世土師器（30～32）がある。

38号溝（S D38、第23図）

S D 2北東角東側に位置する南北溝。複数の遺構と重複しており、新旧関係は S X24・S D39・S D51より古く、S D 6・S D 7より新しい。また、S D38の底面で S E53・S E82・S K83～85・S E108を検出しており、これらの遺構より新しいと考えられる。出土遺物は、中世土師器（34）、珠洲（66）、越中瀬戸（98・99・101・103・116・117）、唐津小片がある。

39号溝（S D39、第23図、図版4）

S D 2の北東角東側に位置する南北溝で、X17～18Y10付近で緩やかに屈曲しており、S X79と一緒にきの溝の可能性がある。南端はS X24を切り込む。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は中世土師器（35・36）、越中瀬戸（97・119・134）、唐津小片、銭貨（157・158）がある。銭貨はS D39西側肩で二枚重なった状態で出土した。

79号溝（S X79、第21・23図、図版4）

S D 2の屈曲部に位置する溝で、調査地区北側へ続く。X17Y 8付近に直径10～15cmの円礫の集石があり、堰状の施設の可能性がある。S D 2との新旧関係については不明であるが、S X79の底面とS D 2合流部の底面間には0.25mの落差があり、S X79がS D 2に流れ込む。S D39と一緒にきとなる可能性がある。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は、土師器小片、青磁（11）、中世土師器（38～40）、珠洲（47～49・53・54）、越中瀬戸（95・96・109・120・126・135）、唐津小片がある。土師器は摩耗した小片で、流れ込みと考えられる。

103号溝（S D103、第23図、図版4）

調査地区北西角に位置する南北溝で、調査地区外北側へ続く。S D 2より古い遺構と考える。埋土は暗オリーブ褐色砂質シルトの単層で、黄褐色砂質土がブロック状に混じる。出土遺物は、越中瀬戸（107）、唐津（138）、越前？の小片がある。

105号溝（S D105、第23図）

調査地区北西角に位置する東西溝。ほとんどが調査地区外北側にあり、南側肩の一部を検出したのみである。調査地区北壁断面の観察で、埋土は黄褐色砂質土がブロック状に混じる黒褐色砂質シルトである。S D39と埋土が類似しており、S D39に続く可能性もある。

(2) 井戸

25号井戸（S E25、第19・20図、図版5）

X12Y10、竪穴状土坑 S X24の南辺中央に位置する。S X24より新しい。長径0.74m、短径0.65mの円形で、深さ0.62mを測る素掘井戸である。埋土は植物遺体を含む灰黄褐色砂質シルトの単層である。北半の埋土中位から底面にかけて、直径15cm前後の礫を確認した。調査中も湧水が著しく認められた。礫に混じり珠洲（64）の甕面部片が出土している。

53号井戸（S E53、第16図、図版5）

X16Y11に位置する。S D38に西側の一部を壊されており、新旧関係は S E53がS D38より古い。長径0.71m、短径0.67mのやや南側がいびつな円形を呈する。深さは1.03mを測る。埋土はⅢ層ブロック、炭化物が混じる黒褐色シルトの単層である。調査中も湧水がみられ、素掘井戸と考える。出土遺物はない。

63号井戸（S E63、第16図）

X 7 Y14の調査地区東端に位置する。S D 6との新旧関係では、S D 6より古い。竪穴状土坑の西辺中央に位置している。長径0.73m、短径0.60m、深さ0.68mを測る平面稍円形の素掘井戸である。

埋土は暗灰黄色砂質シルトの単層で、水分を含みしまりがない。調査中も湧水が認められ、常に水がたまる状態であった。出土遺物はない。

65号井戸（S E65、第16図）

X 5 Y 10に位置する。西側の一部がS D 3と重複しており、新旧関係ではS E65がS D 3より古い。長径0.73m、短径0.61m、深さ1.29mを測る。平面形は楕円形を呈するが、S D 3に壊されているため、本来は円形であったと思われる。側壁は垂直で、円筒状に掘り込まれた素掘井戸である。埋土は暗灰黄色砂質シルト混じりの黒褐色シルトの単層で、炭化物粒が混じる。調査中も湧水が認められ、埋土は水分を含んでしまりがない。出土遺物は珠洲（58）、越中瀬戸（100）がある。

66号井戸（S E66、第16図）

X 4～5 Y 10、S E65の南側1.20mに位置する。S E65と同様に西側の一部をS D 3に壊されており、新旧関係ではS D 3よりS E66が古い。直径0.78m、深さ1.23mを測る不正円形の素掘井戸である。埋土は黒褐色シルトの単層で、地山ブロックを含んでおり、南側側壁の一部が崩壊したものと考えられる。本来は、垂直に掘り込まれていたものとみられる。調査中も湧水が認められ、常に水がたまる状態であった。出土遺物はない。

70号井戸（S E70、第16図）

X 1 Y 10～11に位置する。直径0.58m、深さ1.08mを測る素掘井戸で、平面形は円形を呈する。埋土は暗褐色砂質シルトの単層で、水分を含みしまりがない。側壁は円筒状に、ほぼ垂直に掘り込まれ、調査中も湧水が認められた。出土遺物は、中世土師器小片、越中瀬戸（104）がある。

71号井戸（S E71、第16図）

S D 1の西側、S D 1に開まれた区画内部に位置する。平面形は円形で、長径0.70m、短径0.66m、深さ0.56mを測る。埋土は黄褐色砂質シルト混じりの黒褐色シルト単層で、炭化物粒が混じる。他の井戸に比べやや浅いが、調査中も湧水が認められ、大きさや、円筒状の垂直な側壁は、他の井戸と類似していることから井戸とした。出土遺物はない。

78号井戸（S E78、第16図、図版5）

S D 1の西側、S D 1に開まれた区画内部に位置し、調査地区西壁に一部がかかる。直径0.80m、深さ1.00mを測る素掘井戸で、平面形は円形を呈する。埋土は黄褐色砂質シルトのブロック土が混じる黒褐色シルトの単層で、炭化物・植物遺体が混じる。調査中も湧水が認められ、常に水がたまる状態であった。出土遺物は、中世土師器（29）、越中瀬戸（102・127）、漆器椀（145）、底板（146）、棒状加工品（147）、箸（148）、曲物（149）、杭（153）などの木製品が出土した。遺物の多くは、埋土中位～下位の出土である。

82号井戸（S E82、第16図、図版5）

S D 2の北東角東側、X 16 Y 10～11に位置する。遺構の新旧関係は、S D 38の底面で検出しており、S D 38より古く、S K 83より新しい。長軸0.80m、短軸0.72m、深さ0.86mを測る楕円形の素掘井戸である。埋土はオリーブ褐色砂質土ブロックの混じる黒褐色シルトで、炭化物が混じる。埋土中位～下位にかけては、直径10～20cmの円碟で埋まっており、人為的な埋め戻しをしたとみられる。調査中も湧水が認められ、常にこの碟面まで水がたまる状態であった。円碟に混じり五輪塔の空風輪（155）が出土している。

89号井戸（S E89、第17図）

X 15～16 Y 10に位置する平面円形の素掘井戸。遺構の新旧関係は、S D 39より古いが、S D 6より

新しい。直径0.65m、深さ1.00mを測る。埋土は黄褐色砂質土ブロックを含む黒褐色シルトの単層で、炭化物が少し混じる。調査中も湧水があり、常に下位1/3程度は水がたまる状態であった。出土遺物はない。

90号井戸（S E 90、第17図）

S D 2 の北東角東側、X 17 Y 9 に位置する。長径0.63m、短径0.56m、深さ0.64mを測る円形の素掘井戸である。東側半分が S D39 と重複しており、造構の新旧関係は S E 90 が S D39 より古い。

埋土は黒褐色シルトの単層で、炭化物が混じる。調査中も湧水が認められ、常に水がたまる状態であった。出土遺物はない。

94号井戸（S E 94、第17図）

S D 2 の北東角東側、X 16~17 Y 8 に位置する。長軸0.65m、短軸0.54m、深さ0.82mを測る素掘井戸で、平面形は梢円形を呈する。小穴と重複しており、新旧関係では S E 94 が新しい。埋土は黄褐色砂質土混じりの黒褐色シルト単層で、炭化物を含む。調査中も湧水があり、深さ1/2ほど水がたまる状態であった。出土遺物は中世土師器（33）がある。

104号井戸（S E 104、第17図）

調査地区東端 X 4 Y 15 に位置する。調査地区東壁で確認した大きさは長径1.65m、短径0.30m、深さ0.75mで、調査地区外東側へ続く。平面形は円~梢円形を呈する素掘井戸である。埋土は、黄褐色砂質土をブロック状に含む黒褐色砂質シルトである。調査中も湧水が認められた。出土遺物はない。

108号井戸（S E 108、第17図）

調査地区中央北端 X 17 Y 10 に位置する。S D38 の底面で検出しており、造構の新旧関係は S D38 より古い。長径1.0m、短径0.82m、S D38 底面からの深さ0.41mを測る。Ⅲ層上面の造構検出面からの深さは0.62mを測る。調査中も湧水があり、S D38 底面の検出面まで常に水がたまる状態であった。埋土は黒褐色砂質シルトである。出土遺物はない。

(3) 土 坑

10号土坑（S K 10、第18図）

X 11 Y 12~13 に位置する。S D 6 と重複しており、造構の新旧関係は S D 6 より新しい。長径0.61m、短径0.58m、深さ0.20mを測る円形土坑である。埋土は柱痕跡とみられる黒褐色シルトと、暗黄褐色砂質土がブロック状に混じる黒褐色シルトで、柱痕跡の下部では直径~10cmの円礫が複数個出土した。柱を固定するため、玉石などで柱を覆い固める根石の可能性が高く、礫のうち1点は被熱して黒化していた。出土遺物はない。

11号土坑（S K 11、第19・20図、図版6）

X 12~13 Y 12~14 に位置する大型土坑。複数の造構と重複しており、造構の新旧関係は、S X 24 より古く、S D 6・S K 13 より新しい。長さ2.80m、幅2.54m以上を測る。平面形は不整形で、底面は平坦で、深さ0.20mの浅い皿状を呈する。建物の補助屋的な空間である堅穴状土坑^[1]と考える。埋土は暗灰黄色粘土質シルトがブロック状に混じる黒褐色砂質シルトで、ワラ状の植物遺体を少し含む。出土遺物は青磁（9）がある。

12号土坑（S K 12、第19・20図、図版6）

X 12 Y 11 の S X 24 南辺に隣接する。長径0.40m、短径0.35m、深さ0.47mを測る円形土坑である。埋土は黒褐色シルトを基調とし、明黄褐色砂質土をブロック状に含む。土層1は、柱痕跡と考えられ、土層1の下部で直径15cmの円礫が出土しており、礫石の可能性が高い。出土遺物はない。

14号土坑（SK14、第18図）

調査地区北東角X17Y15に位置する。長径0.30m、短径0.26m、深さ0.54mを測り、平面形は円形を呈する。埋土は明黄褐色砂質土をブロック状に含む黒褐色シルト、オリーブ褐色砂質土で、土層2は植物遺体、炭化物を少し含み柱痕跡と考えられる。出土遺物はない。

17号土坑（SK17、第18図）

X17Y13に位置する。長軸0.36m、短軸0.28m、深さ0.61mを測る楕円形土坑。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルト、オリーブ褐色砂質土で、土層1の黒褐色シルトは直径約0.20mの柱痕跡と推定できる。出土遺物はない。

20号土坑（SK20、第18図）

X17Y12に位置する。長軸0.35m、短軸0.26m、深さ0.22mを測る楕円形土坑である。埋土は黒褐色シルトを基調とし、土層2は明黄褐色砂質土がブロック状に混じり硬くしまる。土層1は炭化物を含み、しまりがなく、柱痕跡と考えられる。出土遺物はない。

23号土坑（SK23、第19・20図）

X13Y10に位置する。SX24西側の底面で検出しており、遺構の新旧関係はSX24より古い。長軸0.42m、短軸0.30m、深さ0.44mを測る楕円形土坑である。埋土は黒褐色シルト、オリーブ褐色砂質土で、土層1は腐食した柱根とみられる木質を含む。出土遺物はない。

24号土坑（SX24、第19・20図、図版6）

S D 2 の東側X12～14Y 9～12に位置する大型方形土坑（堅穴状土坑）である。複数の遺構が重複しており、遺構の新旧関係は、S E25・S D39より古く、S D 6・SK11・SK22・SK23・SK27・SD38より新しい。SX24自体も4基の方形土坑が重複している。埋土は黒褐色砂質シルト、灰黄褐色砂質シルトを基調としている。西側の東西3.50m、南北2.65mの部分は底面が平坦で、浅い皿状を呈し、埋土の土層9は、硬くしまった灰黄褐色砂質シルトで、粘性が強く、張り床と考えられる。SX24の周囲にはSK12・SK23・SK27・SK40・SK45・SK100などの柱痕跡が明確なものや、根石・礎石と考えられる礎が伴うものなど柱穴と考えられる小土坑があり、建物が建つと推測できる。SX24は、建物内部の土間状の空間と考えられる。出土遺物は、中世土器（41～43）、珠洲（52・63）がある。

27号土坑（SK27、第19・20図）

X12Y12に位置する。SX24の底面で検出しており、SX24より古い遺構である。長軸0.77m、短軸0.37m、深さ0.15mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は黒褐色シルトの単層で、明黄褐色砂質土がブロック状に混じる。底面中央で長径約0.20mの礎が出土しており、礎石・根石などの可能性が高い。出土遺物はない。

28号土坑（SK28、第18図）

調査地区北端X18Y12～13に位置する円形土坑。長径0.37m、短径0.36m、深さ0.63mを測る。埋土は明黄褐色砂質土混じりの黒褐色シルトを基調とする。土層1は炭化物粒が混じり、直径約0.20mの柱痕跡と考える。出土遺物はない。

30号土坑（SK30、第18図）

調査地区北端X17Y12に位置する。長径0.20m、短径0.18m、深さ0.11mを測る円形土坑である。埋土は明黄褐色砂質土のブロック土を含む黒褐色シルトで、中央に炭化物層があり、直径約0.10mの柱痕跡と考えられる。出土遺物はない。

40号土坑（SK40、第19・20図）

S X24の北東角付近、X 13 Y 13に位置する。長軸0.42m、短軸0.33m、深さ0.19mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は明黄褐色砂質土をブロック状に含む黒褐色シルト、黒褐色砂質シルトで、土層1は炭化物を少し含み柱痕跡と考える。出土遺物はない。

45号土坑（SK45、第19・20図）

S X24の北東角東側、X 14 Y 12に位置する。長軸0.37m、短軸0.32m、深さ0.12mを測る楕円形土坑である。埋土は黒褐色シルトを基調とし、土層2には明黄褐色砂質土がブロック状に混じる。土層1は、直径約0.15mの柱痕跡と考える。出土遺物はない。

49号土坑（SK49、第18図）

S K45の北側0.50mに位置する楕円形土坑である。長軸0.70m、短軸0.36m、深さ0.25mを測る。埋土は明黄褐色砂質土をブロック状に含む黒褐色シルトで、炭化物が混じる。出土遺物は、中世土器小片がある。

55号土坑（SK55、第18図）

X 10 Y 13に位置する。長径0.63m、短径0.40m、深さ0.24mを測る不整形土坑である。埋土は明黄褐色砂質土混じりの黒褐色シルト、オリーブ褐色砂質土で、土層1には炭化物が含まれ、柱痕跡と思われる。出土遺物はない。

59号土坑（SK59、第18図）

調査地区南側X 2 Y 11に位置する。長径0.35m、短径0.30m、深さ0.21mを測る円形土坑である。埋土は黒褐色シルトの単層で、炭化物を含む。出土遺物はない。

61号土坑（SK61、第18図）

X 5 Y 11、SD 4の東側に位置する。長軸0.47m、短軸0.35m、深さ0.26mを測る楕円形の土坑である。SD 4と一部重複しており、遺構の新旧関係はSD 4より古い。埋土は暗灰黄色シルトの単層で、明黄褐色砂質土がブロック状に混じる。底面から直径0.10mの円礫が出土している。出土遺物はない。

62号土坑（SK62、第18図）

X 4 Y 10、SD 3の東肩に位置する。SD 3の底面で検出しており、遺構の新旧関係はSD 3より古い。埋土は黒褐色シルトで、炭化物を含む。出土遺物はない。

72号土坑（SK72、第18図）

SD 1の西側、SD 1に開まれた区画内に位置する。長軸0.42m、短軸0.30m、深さ0.40mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は黒褐色シルトの単層で、炭化物を少し含む。埋土中位から直径約0.20mの円礫が平坦面を水平にした状態で出土した。柱を支える礎石・根石などとみられる。出土遺物はない。

73号土坑（SK73、第21図）

SD 1の西側、SD 1に開まれた区画内に位置する。長径0.38m、短径0.35m、深さ0.33mを測る円形土坑である。埋土は黒褐色シルトの単層で、硬くしまっている。土坑の掘方より一回り小さな直径約0.25mの円礫が平坦面を水平に据えた状態で出土しており、礎石と考える。同様に礎石と考えられる礎が伴うSK72の1.4m南側に位置する。出土遺物はない。

75号土坑（SK75、第21図）

SD 1の西側、SD 1に開まれた区画内に位置する。直径0.27m、深さ0.17mを測る円形土坑であ

る。埋土は黒褐色シルト、黒褐色砂質シルトで、土層1は炭化物が少し混じり、直径約0.25mの柱痕跡と考えられる。出土遺物はない。

77号土坑（SK77）

S D 1の西側、S D 1に囲まれた区画内に位置する。長軸0.50m、短軸0.35m、深さ0.13mを測る楕円形土坑である。埋土は黒褐色シルトの単層で、黄褐色砂質シルトがブロック状に混じる。S K77の埋土は、北東方向から伸びる噴砂に切られている。出土遺物はない。

65地区でも南北方向の噴砂を確認しており、当該地域が液状化現象を起こすような大きな地震にみまわれたことが痕跡として確認できた。噴砂（液状化現象）を起こすような中世後半以降の地震には、天正13(1586)年の天正地震、安政5(1858)年の飛越地震などがあり、これらの地震痕跡と考えられる。

80号土坑（SK80）

調査地区北西角X18Y3～4に位置する。S D 2の北辺に位置し、遺構の新旧関係はS D 2より新しい。長さ2.30m、幅1.10m以上、深さ0.41mを測る不整形土坑で、複数の土坑が重複する。埋土は黒褐色シルトを基調とし、黄褐色砂質土がブロック状に混じる。出土遺物は、珠洲（62）がある。

85号土坑（SK85、第21図）

X16Y11に位置する。S D 38の底面で検出しており、遺構の新旧関係はS D 38より古い。直径0.27m、深さ0.33mを測り、平面形は円形を呈する。埋土は黒褐色シルトの単層で、オリーブ褐色砂質土がブロック状に混じる。炭化物を少し含み、柱痕跡の可能性がある。出土遺物はない。

91号土坑（SK91、第21図）

S D 2の北東角東側に位置する。長軸0.41m、短軸0.32m、深さ0.17mを測る楕円形土坑である。北側のS K92と隣接するが、遺構の新旧関係はない。埋土はオリーブ褐色砂質土がブロック状に混じる黒褐色シルトの単層である。埋土上面で長径約0.20mの礫が平坦面を水平に据えた状態で出土しており、礫石の可能性がある。出土遺物はない。

93号土坑（SK93、第21図、図版6）

S D 2の北東角東側に位置する。長さ0.61m、幅0.44m、深さ0.22mを測る不整形土坑で、2基の土坑が重複している。埋土は黄褐色砂質土がブロック状に混じる黒褐色シルト、黒褐色砂質シルトである。西寄りの底面で珠洲（51）が出土している。

95号土坑（SK95、第21図）

S D 2の北東角東側、X17Y8に位置する。長径0.32m、短径0.30m、深さ0.27mを測る円形土坑である。埋土は黒褐色シルトの単層である。周辺の柱痕跡が残る土坑の埋土と類似しており、柱痕跡の可能性もある。出土遺物はない。

98号土坑（SK98、第21図、図版6）

X6Y7、S D 1とS D 2の間に位置する。長径0.27m、短径0.25m、深さ0.26mを測り、平面形は円形を呈する。埋土は黄褐色砂質土混じりの黒褐色シルトの単層で、埋土上位で直径約0.20mの円礫が平坦面を水平にした状態で出土しており、礫石と考えられる。出土遺物はない。

100号土坑（SK100、第19・20図、図版6）

S D 2の東側、X12Y10に位置する。S X24の南辺にあり、S X24を含む建物を構成する柱穴の一つと考えられる。長径0.33m、短径0.28m、深さ0.30mを測る円形土坑で、埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。直径約0.14mの柱1（151）と、直径約0.17mの柱2（152）の2本の柱根が残存している。2本の柱は、どちらも芯持ち丸木で、1個体が分割したものではない。柱2は土坑の掘方に対

し垂直であるが、柱1は斜めで柱2を支えるような状態である。SK100の掘方は柱に対して小さく、重複もみられないことから2本の柱の新旧関係は不明である。出土遺物はない。

101号土坑（SK101、第21図）

S D 2 の東側、X 8 Y 10 に位置する。長径 0.30m、短径 0.28m、深さ 0.35m を測る円形土坑である。埋土は褐色砂質シルトの単層で、柱根(154)が残存する。出土遺物はない。

106号土坑 (SK106)

調査地区北東角に位置する。平面での検出はできなかつたが、調査地区東壁断面にて確認した。長さ1.00m以上、幅0.26m以上、深さ0.34mを測る不整形土坑で、調査地区外東側に続く。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。出土遺物はない。

107号土坑（SK107、第23图）

調査地区北端、SD 2 の北辺に位置する。長径 0.35m、短径 0.12m 以上、深さ 0.44m を測り、平面形は円形を呈すると思われる。調査地区北壁にかかり、調査地区外北側に続く。埋土は黄褐色砂質土をブロック状に含む暗オリーブ褐色砂質シルトの單層である。出土遺物はない。

4 遺物

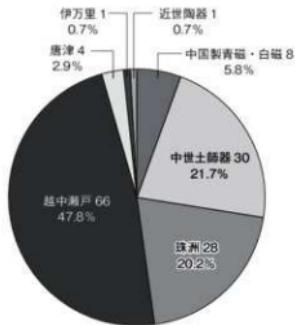
出土遺物には、弥生土器（1・2）、須恵器（3～5）、青磁（6～12）、白磁（13）、中世土師器（14～43）、珠洲（44～71）、越中瀬戸（72～137）、近世陶磁器（138～143）、木製品（144～154）、石製品（155・156）、金属製品（157・158）などがある。出土量は少なく、土器・陶磁器のうち実測可能な143点について図化した。このうち、主体となる中世～近世の時期のものは138点である。ここでは種類ごとに記述する。

(1) 土器・陶磁器(第25~31図、図版9~13)

弥生土器、須恵器、土師器など古代以前の遺物は、面調査地区を中心とした池田館の現集落周辺の1・2・4・38・43・71・76地区で出土している。摩耗し調整も不明瞭な破片が多く、単発での出土で、周辺からの流れ込みと考えられる。1・2は弥生土器で、壺の口縁部である。3は須恵器杯、4は須恵器顎頭部片、5は須恵器壺脣部片である。土師器は摩耗した小片があるが、固化はしていない。

中国製磁器は、青磁7点、白磁1点を図化した。青磁の碗（6～11）、盤（12）、白磁の碗（13）がある。6は口縁部が輪花状でわずかに外方に開く。7は口縁部外面に雷文帯が描かれる。9・10は篇蓮弁文が施される碗で、9の内底面には、不明瞭だが花文もしくは曲線文がある。11は灰オリーブ色を呈するが、外表面は白濁し、割れおり、被熱している。12は盤とみられる大型品の底部で、高台裏の無釉部分に墨書？がみられる。13は体部が直線的に立ち上がる器形で、体部が面取りされた角杯または小杯と思われる。釉は全体に薄くかかり、灰白色を呈する。

中世土師器は30点を図化した。全体的に摩耗しており、調整が不明瞭な破片が多い。14・19・21・22・



グラフ1 種類別組成

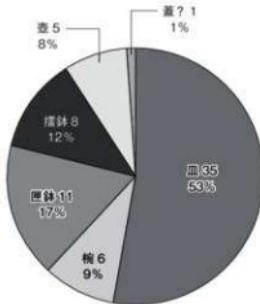
26・27・31・42・43は口縁端部に一段のヨコナデを施すもので、体部は直線的またはやや内湾気味に開く器形で、丸底を呈する。富山城跡出土資料¹²の在地系A類に相当する。38は体部が開き気味に立ち上がる器形で、口縁端部は強くヨコナデして外反する。京都系C類に分類されるものである。38の胎土は赤色粒が多く含まれる。20・28・33・39・41は口縁端部の内外面に煤が付着しており、灯明皿として使用されたと考えられる。概ね15世紀末～16世紀末のものと考えられる。

珠洲は28点を図化した。擂鉢16点(44～57・70・71)、壺10点(58～67)、壺2点(68・69)がある。47・55はIV期に比定される擂鉢で、口縁形態は外傾する方頭である。鉢目は、47が2.5cm幅15条、55が3.2cm幅15条である。55は口縁端部に櫛目波状文を加飾する。44・52～54はV期に比定される。44の口縁形態は三角頭で、体部は直線的に開く。胎土は白色粒や気泡を含み粗雑である。52～54の口縁形態は内傾する三角頭で、口縁端部に櫛目波状文を加飾する。52の鉢目は、原体幅等は不明であるが、密度が高く重なり合うように隙間なく施されている。53の口縁端部は内傾する三角頭で、幅広の端面は長三角形をなし、やや後出的である。2cm幅7条の鉢目を施す。54は直線的に開く器体に、2.7cm幅11条の鉢目を施す。50・51・56・57は擂鉢の底部で、底部外面の切り離しは静止糸切による。50の鉢目は密度が高く重なり合うように隙間なく施される。鉢目原体は2cm幅8条で、左回りに放射状に施文する。51は2.9cm幅12条の鉢目を右回りに施文する。体部下位の外面には指頭圧痕が残る。56は1.9cm幅7条の鉢目を右回り放射状に施文する。焼成は焼き締めがあまく、黄灰色を呈する。57は1.8cm幅5条の鉢目を左回りの放射状に施す。見込みは摩耗しており、鉢目がすり切れる箇所がある。胎土は粒径の大きな砂利を含み、粗雑である。70・71は、鉢目はないが、直線的に開く器形に、底部外面に静止糸切痕を残す底部である。見込みが摩耗しており、擂鉢底部とした。70は白色や赤色の粒の荒い砂利を含む胎土で、焼成もやや悪く全体に赤みがかかり軟質である。

58は壺の口縁部で、口縁形態は短頭でくの字状に屈曲し、端部は円頭を呈する。外面は平行叩き、内面は頸部付根付近まで当て具痕が残る。IV期か。59～65・67は壺胴部片で、外面平行叩き、内面は当て具痕を残す。67は薄造りで、胎土も均質である。66は底部立ち上がり部分の破片で、内面は自然釉を掻き取っている。68は四耳壺肩部片。縦長の耳の両端を跳ね上げる特徴的な鬚耳を持つ四耳壺で、V期のもの。完形で出土することは稀な器種で、特定の階層向けに少数生産され、藏骨器と考えられている¹³。69は壺底部で、体部下位に指頭圧痕、底部外面に静止糸切痕が残る。

越中瀬戸は66点を図化した。越中瀬戸は、完形のものが複数点あり、他の遺物に比べ遺存状態の良いものが多い。壺35点(72～106)、椀6点(107～112)、匣鉢11点(113～123)、擂鉢8点(124～131)、壺5点(132～136)、蓋1点(137)がある。ここでは、水指を含む筒状の鉢を匣鉢とした。

皿は状態の良いものが多く、SD2やSD7、SD21の埋土上位から出土した。主となるのは、内外面底部と高台付近が無釉となる内秃皿で、体部が丸みをもって立ち上がる丸皿(73・93)、やや丸みをもつて立ち上がり、口縁端部が端反り風となるもの(74・75・77・78・80・86・92・100・102・105)、体部下半から口縁部にかけて直線的にのびるもの(81・85・



グラフ2 越中瀬戸器種別組成

90・91) がある。軸は、灰釉のものと鉄釉のものがあるが、灰釉を施すものが多く、21点で60%をしめる。鉄釉の皿12点には底部から口縁部が屈曲して直立する、いわゆる「向付」と呼ばれる形態の皿(103・104) やひだ皿(97) を含む。85は無釉の皿である。見込みに印花を押捺するもの(72・73・93・96・99・101~103) があり、印花には16弁菊(72・99)、12弁菊(93・102)、5弁桜(73)、井の字状(103)、花?(101)など多様なものがある。73は内面に櫛状工具による同心円を巡らし、見込みには重ね焼き痕を搔き取った跡がある。見込みに重ね焼き痕をとどめるものは73~76・86・88・96・99・101・102・106がある。78・86・89・93~96・99・103・106は内面に軸止めの段をもつ。高台裏に墨書がみられるものは、90~93・95・101・103があり、100は見込みに墨痕が残る。墨書には「○」や「△」などの記号と、文字がある。皿の中には「向付」や体部が直線的にのびる器形のものなど登窯製品が含まれているが量的には少なく、主体となるのは大窯製品のものとみられ、16世紀末~17世紀前半代のものである。挽は天目茶挽(107~108) と、体部が丸みをもち口縁部が直線的に立ち上がる丸挽(109~112) があり、いずれも鉄釉が施され、底部外面、高台付近は無釉である。

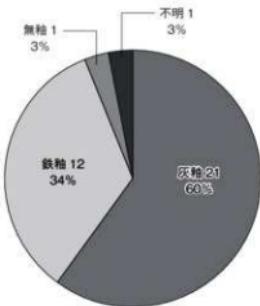
匣鉢は体部が直立し筒状を呈するもので、錫釉を施すもの(113・116・119・122・123)、鉄釉を施すもの(114・117・120)、灰釉を施すもの(115)、無釉のもの(118・121)がある。113は内外面に錫釉がかかり、外面に櫛状工具による波状文が施されるもので、水指に使われたか。115は口縁部内外面に灰釉が施された筒状の鉢で、火入れか。118は口縁端部に煤が付着する。120・121・123の底部には回転糸切痕がみられる。

播鉢は、全面に錫釉が施され、底部に回転糸切痕が残る。口縁部の形態がわかる資料はない。124は3.3cm幅13条の鉢目を右回りの放射状に施文し、見込みは六角形状に施す。体部下半の内外面に指頭圧痕が残り、底部外面は煤けている。125は2.7cm幅10条の鉢目が左回りの放射状に施文される。鉢目の密度は高く重なり合うように隙間なく施され、見込みは曲線状の施文である。外底面に煤が付着する。127は2.5cm幅10条、128は2.5cm幅9条の鉢目が右回りの放射状に施文される。見込みは曲線状に施文されるが、いずれも摩耗して不鮮明である。127の内面には重ね焼き痕が残り、煤が付着している。外底面には指頭圧痕が残る。128は外面から一部断面にかけて煤けており、割れた後に被熱したか。130は2.8cm 13条の鉢目が右回りの放射状に施され、見込みは曲線状に施文する。126は3.5cm 13条、129は2.9cm 10条、131は2.3cm 13条の鉢目で、131の鉢目は条が細かい。

壺類は5点あり、内外面に錫釉が施されるもの(132・135)と、鉄釉が施されるもの(133・134・136)がある。132は錫釉がかかる壺で、丸く張った肩から屈曲し、短い口縁部が立ち上がる。134・136は薄造りで、筒状の体部に、すぼまった口縁部をもつ。鉄釉に灰釉が流しきかけられる壺で、同一固体の可能性がある。

137は蓋と考えられる。無釉で、外面に一部煤が付着する。

近世陶磁器は唐津4点(138・140~142)、伊万里1点(143)、産地が不明なもの1点(139)があ



グラフ3 越中瀬戸皿釉別組成

る。138は唐津の皿で、内湾気味の体部で口縁端部が外方に反る。見込みに2箇所、高台に1箇所目跡が残る。灰オリーブ色を呈する灰釉が内外面に施され、高台付近は無釉となる。139は産地不明の近世陶器。体部を面取りする皿（小杯）で、灰白色を呈する長石釉もしくは石灰釉が施される。薄造りで、やや軟質な胎土である。140・141は唐津の灰釉碗。141は削り出し高台で、高台付近は無釉となる。142は灰白色を呈する長石釉もしくは石灰釉が施される碗の底部で、高台を削り出す。143は伊万里の筒型湯飲み碗。外面は唐草文、口縁部内面には四方攢文を描く。18世紀後半のもの。

（2）木製品（第31・32図、図版14）

木製品には漆椀（144・145）、底板（146）、棒状加工品（147）、箸（148）、曲物（149）、杭・柱（150～152）がある。144は43地区出土の内外面黒色漆塗りの椀で、高台は剥離している。不明瞭だが高台裏に赤色漆による朱書きがある。145～149はS E 78の埋土下位からの出土品であるが、破損した状態のものばかりで、井戸に廃棄されたものと考えられる。145は内外黒色漆塗りの椀である。146は直径約24cmのスギの円形板で、裏面は炭化している。穿孔が3箇所ある。147は端部を面取りした用途不明の棒状加工品で、緩く弧を描く。148は箸。ムクロジの芯持ち材で、樹枝を加工したもの。149は曲物片で、釘穴とみられる小孔があく。材はヒノキ。150はS D 2北東角付近の東側肩出土で、突き刺したような状態で出土している。150の他にも同様に突き刺したような樹枝や杭があり、護岸施設などの一部と考えられる。150は緩く弧を描く直径2.4cmの杭で、表面は腐食のため不明瞭であるが、先端は削られ尖っている。151・152はS K 100出土の柱根で、どちらも芯持ち材である。152の下端は芯に向かって削られる。153はS E 78出土の杭で、表面に樹皮が残る。下端を削り出し尖らせてある。154はS K 101出土柱根で、両端が欠損する。

（3）石製品（第33図、図版13・14）

石製品には五輪塔空風輪（155）、砥石（156）がある。155は石英粒子の粗い角閃石安山岩製の空風輪で、空輪の一部は摩滅し扁平な面を成す。空輪と風輪の直径がほぼ同じ円筒状の石材から、くびれと宝珠の頂部を削り出している。156は凝灰岩製の砥石で、裏面は欠損している。

（4）金属製品（第33図、図版13）

金属製品は銭貨（157・158）がある。157は洪武通寶で、1368年初鑄の明銭、158は元豐通寶で1078年初鑄の北宋銭である。どちらも多量に鋳造されたもので、日本に相当量が輸入され、国内で広く流通した。日本国内の出土量が多い渡来銭の銭種上位20位に入る銭種である。

注

- 注1 河西健二 1993『越中の様相』『中世北陸の家・屋敷・暮らしぶり』北陸中世土器研究会
- 注2 堀内大介 2019『越中における近世成立期の土師器皿の諸様相 富山城跡出土資料から』『北陸にみる近世成立期の土器・陶磁器様相 城下町とその周辺遺跡の土師器皿を中心に』（公財）石川県埋蔵文化財センター
- 注3 珠洲市立珠洲焼資料館 1989『珠洲の名陶』

参考文献

- 越前慎子 1996『梅原胡麻堂遺跡出土中世土師器皿の編年』『梅原胡麻堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』（財）富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 京田良志 1976『富山の石造美術』富山文庫5 巧玄出版
- 永井久美男 2002『中世出土銭の分類図版』高志書院
- 吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 宮田進一 1988『越中瀬戸の窯資料（1）』『大境』第12号 富山考古学会

5 自然科学分析

(1) 樹種同定

① はじめに

富山県富山市の水橋池田館遺跡から出土した木製品の樹種同定を行なった。

② 試料と方法

試料は、43地区で出土した木製品1点、井戸跡S E78で出土した木製品5点、土坑SK100で出土した木製品1点の、計7点である。いずれも中世後半～近世の木製品と考えられている。

樹種同定では、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

③ 結果

同定の結果、針葉樹ではスギとヒノキの2分類群、広葉樹ではブナ属とムクロジの2分類群の、計4分類群がみられた。ブナ属が3点で、スギが2点、ヒノキとムクロジが各1点であった。同定結果を第6表に、一覧を第7表に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、写真図版に光学顕微鏡写真を示す。

第6表 水橋池田館遺跡出土木製品の樹種同定結果

樹種/器種	漆器柄	曲物側板	底板	箸	柱	棒状加工品	合計
ヒノキ		1					1
スギ			1		1		2
ブナ属	2					1	3
ムクロジ				1			1
合計	2	1	1	1	1	1	7

A. ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 写真図版 1a-1c (No.6)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ1～15列である。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、1分野に2個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

B. スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don ヒノキ科 写真図版 2a-2c (No.3)、3c (No.7)

道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ2～15列となる。分野壁孔は孔口が大きく開いた大型のスギ型で、1分野に普通2個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で、切削などの加工が容易な材である。

C. ブナ属 *Fagus* ブナ科 写真図版 4a-4c (No.1)、5a-5c (No.4)

小型の道管が単独ないし2～3個複合して密に散在する散孔材である。道管は單穿孔を有する。放射組織は同性で、幅1～10列である。

ブナ属にはブナとイスブナがあり、冷温帯の山林に分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なブナの材は、重硬で強度があるが、切削加工は困難ではない。

D. ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科 写真図版 6a-6c (No.5)

年輪の始めにやや大型の道管が1～2列並び、晩材部では急に径を減じた道管が数個複合して配列する環孔材である。軸方向柔組織は周間状、連合翼状～帯状となる。道管は單穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、幅1～4列となる。

ムクロジは関東、新潟、富山県境以西の本州、四国、九州に分布する落葉高木の広葉樹である。材は中庸ないしやや重硬である。

④ 考 察

漆器椀は、2点ともブナ属であった。ブナ属は堅硬だが加工性が良く、漆器の木胎としてよく利用されている（伊東ほか、2011）。富山県内で確認されている室町時代の漆器椀では、トチノキやケヤキと共にブナ属も多くみられる（伊東・山田編、2012）。

曲物側板はヒノキ、底板はスギであった。ヒノキとスギは真っすぐで加工性の良い樹種である（伊東ほか、2011）。富山県内で確認されている室町時代の曲物の側板にはサワラとスギがみられ、ヒノキはみられないが、底板ではヒノキとスギ、アスナロなどがみられている。

箸はムクロジであった。ムクロジはやや堅硬な樹種である（平井、1996）。富山県内で確認されている室町時代の箸では、スギやヒノキなどの針葉樹が多く確認されている一方、下老子笛川遺跡の室町時代～江戸時代頃の箸では、広葉樹のヤナギ属が確認されている（伊東・山田編、2012）。

柱は、スギであった。スギは真っすぐで加工性の良い樹種である。富山県内で確認されている室町時代～江戸時代の柱は、大半を広葉樹が占めており、中名I・V遺跡の戦国時代～江戸時代初期の柱で針葉樹が1点みられるのみである（伊東・山田編、2012）。

棒状加工品は、ブナ属であった。ブナ属は、堅硬だが加工性の良い樹種である（伊東ほか、2011）。

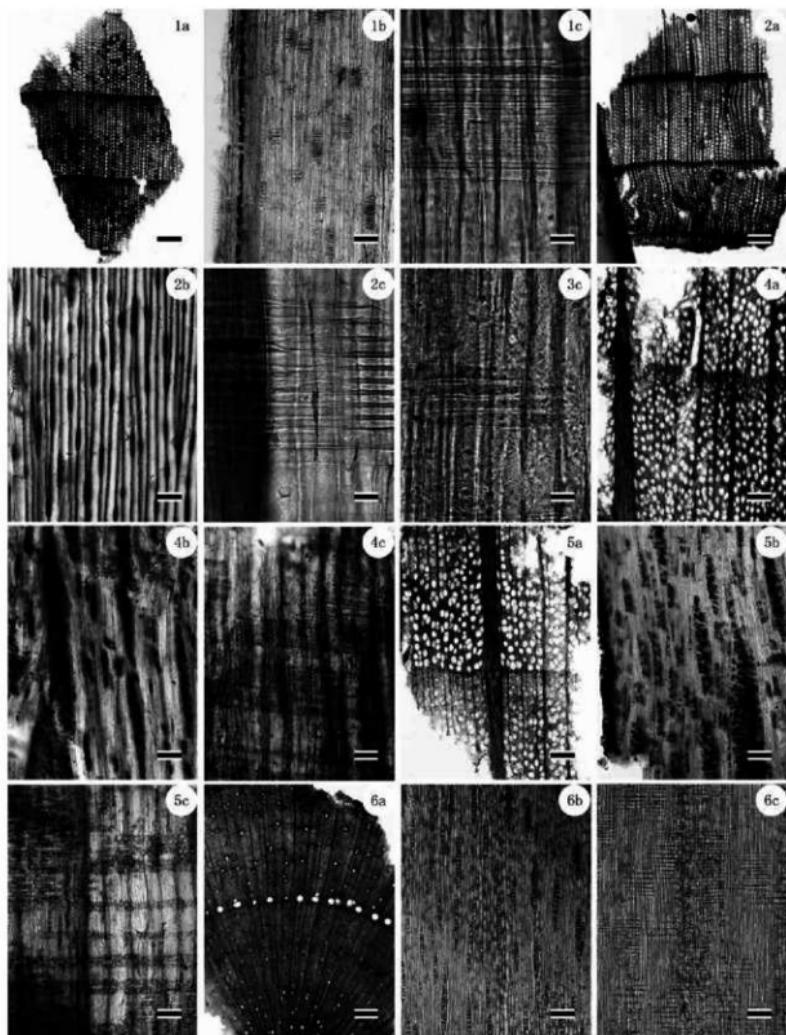
（株式会社パレオ・ラボ 小林克也）

引用文献

- 平井信二 1996『木の大百科－解説編－』642p 朝倉書房
 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂 2011『日本有用樹木誌』238p 海青社
 伊東隆夫・山田昌久編 2012『木の考古学－出土木製品用材データベース－』449p 海青社

第7表 水橋池田館遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧

試料No	遺物No	台帳No	地区	造構	器種	樹種	本取り	時期	備考
1	144	M180001	T43		漆器椀	ブナ属	横木取り	中世後半～近世	内外黒色漆
2	145	M180002		SE78	漆器椀	ブナ属	横木取り	中世後半～近世	内外黒色漆
3	146	M180003		SE78	底板	スギ	柾目	中世後半～近世	穿孔3か所
4	147	M180005		SE78	棒状加工品	ブナ属	芯去削出	中世後半～近世	
5	148	M180006		SE78	箸	ムクロジ	芯持丸木	中世後半～近世	両端欠損
6	149	M180007		SE78	曲物側板	ヒノキ	追柾目	中世後半～近世	釘孔あり
7	151	M180010		SK100	柱	スギ	芯持丸木	中世後半～近世	No.1



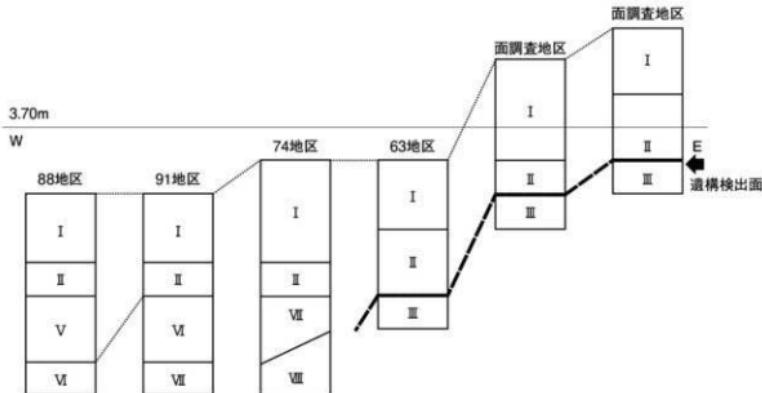
写真図版 水機池田館遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真

la-1c. ヒノキ(No.6)、2a-2c. スギ(No.3)、3c. スギ(No.7)、4a-4c. ブナ属(No.1)、5a-5c. ブナ属(No.4)、
6a-6c. ムクロジ(No.5)
a: 横断面 (スケール=250μm)、b: 接線断面 (スケール=100μm)、c: 放射断面 (スケール=1-3.25μm・
4-6100μm)

6 総括

(1) 地理的環境について

水橋池田館遺跡の位置する白岩川と常願寺川に挟まれた低地部は、富山県内でも有数の氾濫原（自然堤防帯）が発達した地域の一つである。氾濫原（自然堤防帯）は、緩やかに流れる河川の蛇行域、扇状地の末端部などで発達するが、富山県内では、当遺跡の立地する白岩川下流から神通川下流域にかけての富山平野、射水平野、庄川下流から小矢部川下流域、水見平野などが顕著である。集落や古くからある交通路は、より土地の安定した自然堤防などの微高地に立地するものが多く、当遺跡もこれに該当する。当遺跡は、明治24(1891)年にヨハネス・デ・レーケの派遣を受けて始まる常願寺川の改修工事により白岩川と分離される以前の常願寺川が白岩川と合流する地点の約300m南方に立地している。常願寺川の流路は、東から西へ移動したことが扇状地右岸の河岸段丘の配列から推定されており、明治の改修前の河道になったのは室町時代末期頃、16世紀半ば以降と考えられている¹¹。当遺跡では、古代以前の遺構は確認できず、本格的な集落が形成されるのは中世になってからと考えられ、常願寺川の河道が安定した頃と時期的に一致する。



水橋池田館遺跡 基本層序模式

(2) 遺構の分布について

当遺跡では溝26条、堀2条、井戸14基、土坑95基を検出した。これらの遺構は現日吉社南側の面調査地区周辺に分布する。現日吉社周辺は、池田館の集落が立地する白岩川左岸の自然堤防状の微高地南端部分にあたる。平成29年度に県教委によって実施された試掘調査では、1~5・7-1・7-3・8・9-1・10Tで現地表面から0.3~1mの深さに地山があり、北側の1~3Tでは中世~近世の土坑や溝が確認された。10T以南は表土以下に黒色粘質土が厚く堆積し、湿地状の地形が広がるとみられている。今回の調査では、面調査地区を中心とした遺跡東側、白岩川左岸に連なる自然堤防上に集落が営まれ、その南側・西側にはアシやヨシが繁茂する湿地が広がり、北側は旧河道もしくは洪水氾濫原であることがわかった。

(3) 屋敷跡について

面調査地区で確認したL字状に曲がる2本の溝S D 1・S D 2は、4・5・58・59・61・62地区での延長部が確認でき、方形に巡る区画溝で、屋敷地（居館）を二重に囲繞する堀と考える。当遺跡で確認できた屋敷跡は、やや東西に長い方形区画で、東西約50m、南北約35mと推測され、半町（約50m）四方の規模と考えられる。中世の居館の規模には、一町（約100m）四方、半町（約50m）四方の2種が析出でき、その居住者間には階層差が想定され、一町四方（方一町）には在地領主層、半町四方（方半町）には村落領主や土豪層が居住すると考えられている^{注2}。

県教委実施の平成29年度調査結果から、東側は白岩川の西岸間際まで遺構の広がりが確認でき、現日吉社周辺を中心とした中世～近世にかけての集落は、自然堤防上に立地している。平成30年度調査の58～71地区西側以西では地山は確認できず、湿地状の堆積となることから、集落の西限はこの辺りになるとみられ、二重の堀を巡らす屋敷跡は集落の西南隅に位置していると想定出来る。

近世絵図などからは、白岩川左岸に沿って池田町と池田館を結ぶ南北道があり、屋敷跡はこうした道路沿いに面していたと考えられる。また、時代は下るが『増補加越能大路水路』には池田館と白岩川対岸の石政との間に渡しがあったとの記述があり^{注3}、文政10(1827)年『新川郡白岩川筋池田三箇開之内古川分間絵図』には「石政－池田館間船渡」とあることから、古くから池田館・石政間に白岩川の渡し場があったことがわかる。屋敷跡は渡し場近くにあり、陸路・水路の接点に立地している。堀内部の屋敷本体についてはほとんど調査地区外であるため詳細は不明だが、堀外の井戸は出土遺物が少ないのでに対して、堀内部のS E 78からは越中瀬戸・漆器・箸・曲物など遺物が出土し、堀の内外では格差がある。半町四方の規模を有することからも、池田館村の有力者層の屋敷と考えられる。

(4) 歴史的背景について

当遺跡で確認された二重の堀で囲まれた屋敷跡は、区画内の井戸S E 78埋土下位から越中瀬戸の灰釉内乳皿が出土している。外堀S D 2埋土下位からは中世土師器・珠洲・青磁・埋土上位から越中瀬戸を出土しており、17世紀半ば頃までは機能していたと考えられる。出土遺物からは、15世紀代に出現、16世紀後半～17世紀前半を中心とし、伊万里・唐津などの肥前陶磁器がほぼみられないことから18世紀には下らない時期に衰退し耕地化されたと考えられる。外堀S D 2と新旧関係がある遺構は複数あるが、出土遺物からは大きな差ではなく、ほぼ同時期の範疇で捉えられる。当遺跡で確認された遺構は、中世末から近世初頭の集落跡で、現集落の前身となるような集落と考えられよう。

屋敷跡の最盛期と考えられる16世紀後半～17世紀前半の頃の白岩川流域の当該地域は、越後の上杉勢と織田信長方の佐々成政の勢力が争う最前線の地域で、当遺跡の東方約700mの水橋小出地内、白岩川・新橋川・小出川に囲まれた低地部に位置する小出城は天正9(1581)年3月の上杉勢による小出城攻めなど文献^{注4}にも度々登場する。文禄4(1595)年以後は前田利家の支配下となり、17世紀初め頃には常願寺川東岸の当該地域を含む新川郡は加賀藩領となっている。

(5) 当遺跡と地名について

土塁や堀などの防御施設をもつ屋敷は一般に「たて」と呼ばれ、東北地方をはじめ国内各地には、その所在する土地の名などを冠して「館山」「古館」などの地名として残されている。富山县においても富山市水橋館町・八尾館本郷・上市町館・舟橋村仏生寺字館中・滑川市常光寺字館田・朝日町三枚橋字館・南保字大館などの地名が残り、伝承や城館遺跡の存在が確認されている。

当遺跡のある水橋池田館の村名は、「越中志微」^{注5}によると池田氏の館があったことに由来するという。史料では、正保元(1644)年「正保郷帳」^{注6}には「池田ノ館村」とあり、正保～万治年間(1644

～1660)作成の越中国全体を描いた現存する最古の絵図とされる「越中国四郡絵図」^{注7}では「館村」、元禄15(1702)年『越中國高都合併郡色分目録(元禄国絵図)』^{注8}では「池田館村」となっており、村名の初現がどこまでさかのばるかは不明であるが、少なくとも17世紀には村名として確立していることがわかる。当遺跡で確認された二重の堀をもつ屋敷跡(居館)は、地名の由来と伝承される池田氏の居館とかかわるものであるかは不明であるが、「池田館」の村名確立前後の時期に存在していたと考えられる^{注9}。

(6) 遺物について

出土遺物について、組成の面からみてみたい。出土遺物は少なく弥生土器、須恵器、中世土器、中国製青磁・白磁、珠洲、越前、瓦質土器、越中瀬戸、唐津、伊万里があり、弥生土器、須恵器など古代以前にさかのばる遺物は周辺からの流れ込みと考えられる。出土遺物のうち、図化した中世～近世の土器・陶磁器を対象とし、図化したものを1個体1点として数えた。中世にさかのばる中国製青磁・白磁、珠洲などが一定数あるが、越中瀬戸が47.8%と半数近くを占め、唐津・伊万里などの肥前陶磁器はわずかしかない^{注10}。中世から近世にかけての時期の県内遺跡と組成を比較してみると、一定数みられる瀬戸美濃や越前の出土がなく、肥前陶磁器の比率が低い。当遺跡出土遺物は16世紀後半～17世紀前半のものが主体をなし、越中瀬戸は皿を中心としつつ、碗・擂鉢・壺・匣鉢(水指・火入れを含む)などの多様な器種が出土している。県内の16世紀末～17世紀初め頃は、越中瀬戸は碗・皿・擂鉢の三種を主要な流通製品としており、次第に瀬戸美濃の碗・皿・越前の擂鉢に取って替わっている^{注11}。当遺跡で瀬戸美濃・越前が確認できないことは、県内の当該期の越中瀬戸が瀬戸美濃や越前などの国産陶磁器に替わり流通していく具体的な事例と考えられよう。

越中瀬戸の成立期の窯は、上市川上流、白岩川上流の丘陵部にある。白岩川の中流域以下は勾配が緩やかで水量が多く水運が発達しており、現白岩ダムのある立山町白岩から河口の水橋までの3里(12km)の間には大正時代まで舟運が運行していた。水橋金広・中馬場遺跡や水橋寺専光寺遺跡など白岩川流域に越中瀬戸の出土比率の高い遺跡があることから、こうした地の利を生かし、白岩川を利用した流通経路の存在を想定出来る。17世紀以降の県内遺跡で越中瀬戸の比率が高いのは、生産地周辺、越中瀬戸の集積地、農村集落、立山信仰関連遺跡などであるといえよう。16世紀末～17世紀前半という時期は、中世土器、中国製磁器、瀬戸美濃、珠洲などの中世的な土器組成から、越中瀬戸・肥前陶磁器からなる組成への変化期であり、当遺跡はその過渡期的な在り方をしているのであろう。

第8表 水橋池田館遺跡遺物組成一覧 種報告書掲載遺物の点数による

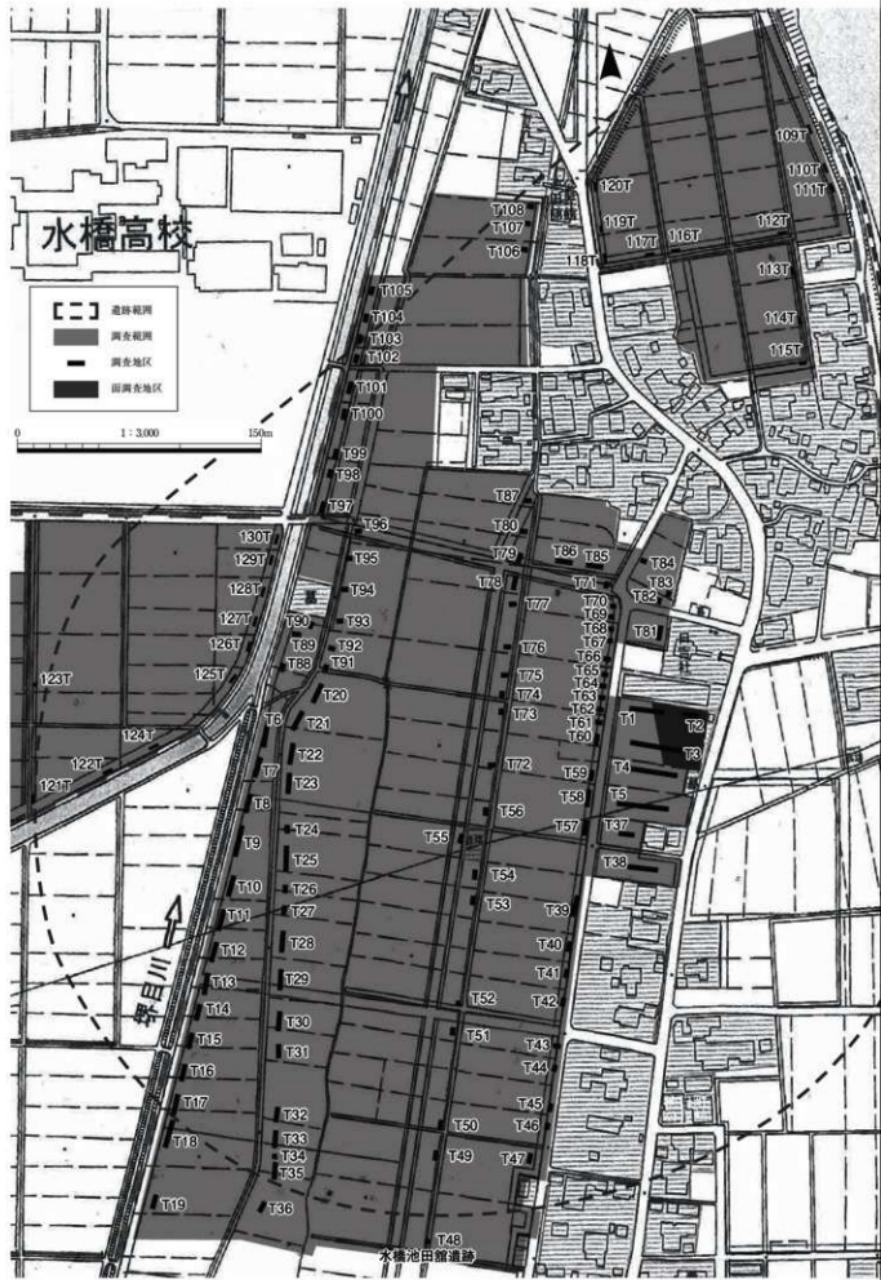
遺跡名	所在地	中世土器	中国製磁器	瀬戸美濃	珠洲	唐津	伊万里	瓦質土器	越中瀬戸	肥前	その他	点数	備考
水橋池田館	富山市	30 21.7%	8 58%		28 20.2%				66 47.8%	5 3.6%	1 0.7%	138	白岩川流域
小出城跡	富山市	96 52.0%	6 3.3%	7 3.9%	28 15.6%	2 1.1%	1 0.6%	31 17.2%	9 5.0%			180	白岩川流域
水橋寺光寺	富山市	11 15.9%	4 58%	8 11.6%	13 18.8%	3 4.3%	1 1.4%	13 18.8%	10 14.5%	6 8.7%	69	白岩川流域	
水橋金広・中馬場	富山市	660 40.0%	56 3.4%	53 3.2%	329 20.0%	74 4.5%	3 0.2%	418 25.0%	32 1.9%	19 1.2%	1644	白岩川流域	
弓出城跡	上市町	280 38.6%	146 14.8%	161 16.4%	114 11.6%	25 2.5%	5 0.5%	134 13.6%	17 1.7%			982	白岩川流域
安田城跡	富山市	745 96.1%	0.8 1.0%	12 1.5%					1 1.3%			77.5	
安吉	射水市	50 21.0%	22 9.3%	21 8.9%	92 38.8%			5 2.3%	31 13.0%	15 6.3%	1 0.4%	237	
開府大湯	高岡市	37 21.0%	43 24.4%	31 17.6%	16 9.1%	1 0.6%			21 11.9%	25 15.3%		176	
江尻	高岡市	62 15.4%	15 3.7%	17 4.2%	22 5.5%	1 0.2%	11 2.7%	114 28.4%	139 34.6%	21 5.2%	402		
石名田本寺	高岡市・小矢部市	159 29.1%	167 30.6%	93 17.0%	30 5.5%	23 4.2%	10 1.8%	49 7.3%	15 2.7%	9 1.6%	546		
地崎	小矢部市		5 1.4%	6 1.6%	1 0.3%				192 52.3%	152 41.4%	11 2.9%	367	
梅原原跡	南砺市	1748 48.3%	404 11.2%	275 7.6%	352 9.7%	36 1.0%	9 0.2%	184 5.0%	431 11.9%	175 4.8%	3614		

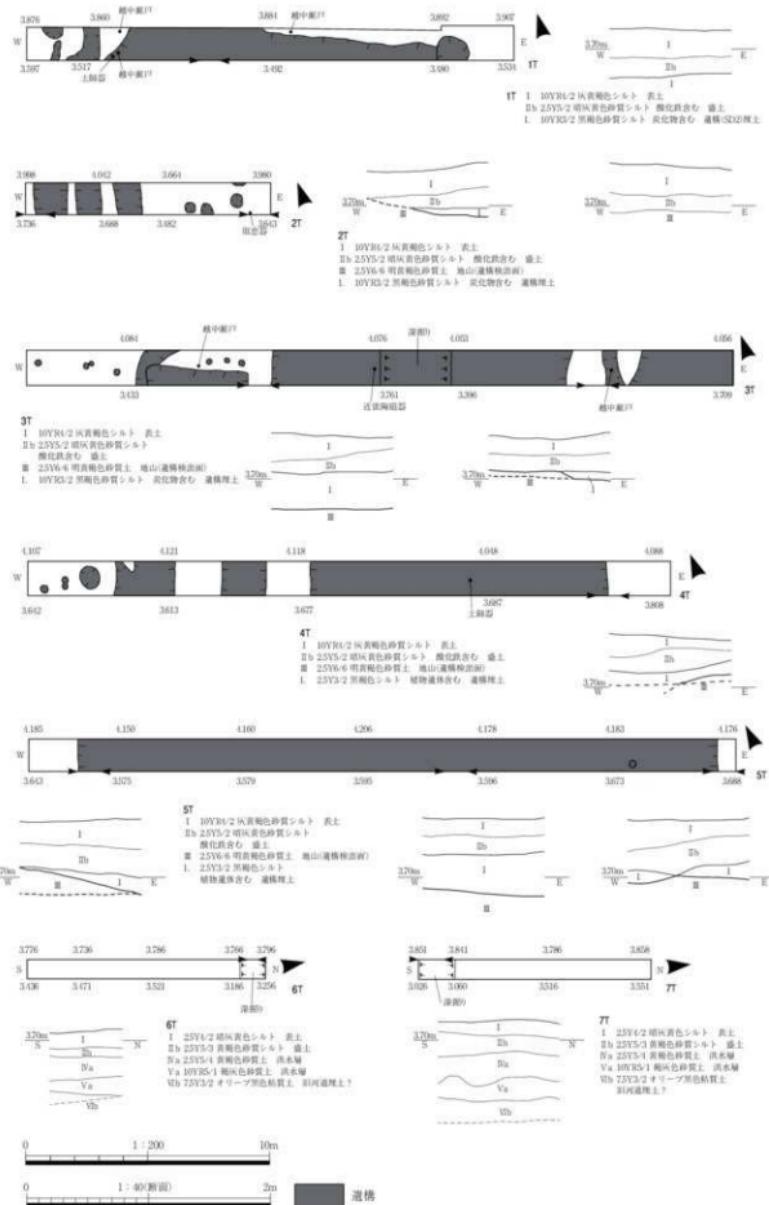
注

- 注1 国土地理院北陸地方整備局ほか 2006『古地理に関する調査 古地理で探る越中・加賀の変遷』
- 注2 中井 均 1987『中世城館の発生と展開』『物質文化』48
広瀬和雄 1988『中世村落の形成と展開』『物質文化』50
- 注3 黒石信由 1835『備前加賀能大路水道』に「池田館村間歩渡川輒五十間」とある。
- 注4 富山県 1982『富山県史』通史編Ⅲ 近世 上、「信長公記」十四など。
- 注5 森田博園 1973『越中志徵』復刻版 富山新聞社
『越中志徵』は江戸時代末に加賀藩士森田博園(1823~1908)が富山藩内の記録をまとめ、明治初期に成立した。
- 注6 「正保郡帳」は、幕府が諸大名に命じて国単位で作成させ、村名、村高などがまとめられた。正保元(1644)年に命じられ、数年がかりで提出された。幕府に提出されたものは大半が消失しているが、国元に残るものは多い。
- 注7 『越中国四郡絵図』小矢部市図書館蔵。正保一萬治年間(1644~1660)作成。
- 注8 『越中國高都合井郡色分目録(元禄国絵図)』石川県立図書館蔵。元禄10(1697)年に幕府が命じ、元禄15(1702)年4月に提出された国絵図の何絵図(下図)。
- 注9 平成30年度調査中に地元のかから面調査区周辺に「ヤシキダ」という呼称があるとご教示いただいたが、詳細については土地改良区などでは確認が取れなかった。
- 注10 越前(2点)、瓦質土器(1点)は溝から出土しているが、いずれも小片で部位も不明である。
岡化困難な破片であるため、ここでは組成一覧の対象から除外している。
- 注11 宮田進一 1997『越中瀬戸の変遷と分布』『中・近世の北陸 考古学が語る社会史』北陸中世土器研究会
- 注12 宮田進一 1998『越中瀬戸の成立と展開』『情報と物流の日本史』雄山閣

参考文献

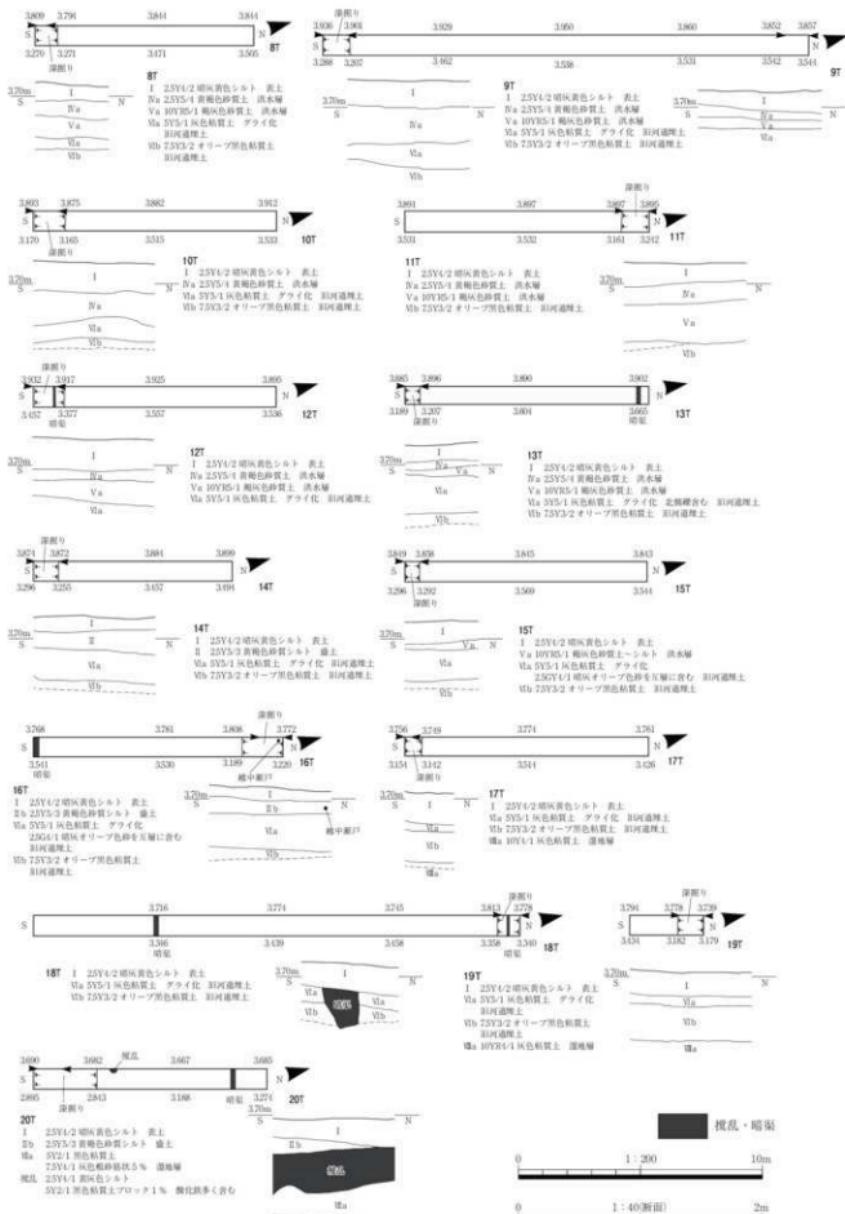
- 大島町教育委員会 2000『富山県大島町 八塚C遺跡』
- 上市町教育委員会 1981『富山県上市町 弓庄城跡緊急発掘調査概要』
- 上市町教育委員会 1982~1985『富山県上市町 弓庄城跡第2~5次緊急発掘調査』
- (財)富山県文化振興財団 1996『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告』(遺物編)
- (財)富山県文化振興財団 2000『開闢大流遺跡・地崎遺跡発掘調査報告』
- (財)富山県文化振興財団 2002『石名田木舟遺跡発掘調査報告』
- (財)富山県文化振興財団 2003『江尻遺跡・箕島遺跡発掘調査報告』
- (財)富山県文化振興財団 2012『水上遺跡・赤井南遺跡・安吉遺跡・棚田遺跡・本江大坪I遺跡発掘調査報告』
- 高瀬重雄監修 1994『富山県の地名』日本歴史地名大系第16巻 平凡社
- 富山県 1983『富山県史』通史編Ⅲ 近世 上
- 富山県 1989『富山県史』通史編Ⅳ 近世 下
- 富山県 1992『072分1 富山県地質図説明書』内外地図株式会社
- 富山県 2008『富山県中世城館遺跡総合調査報告書』富山県埋蔵文化財センター
- 富山市 1987『富山市史』通史上
- 富山市教育委員会 2000『富山市小西北遺跡発掘調査概要』
- 富山市教育委員会 2001『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 2005『富山市水橋寺光寺遺跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 2006『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
- 富山市教育委員会 2007『富山市小出城跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 2009『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書』
- 水橋町役場 1966『水橋町郷土史』



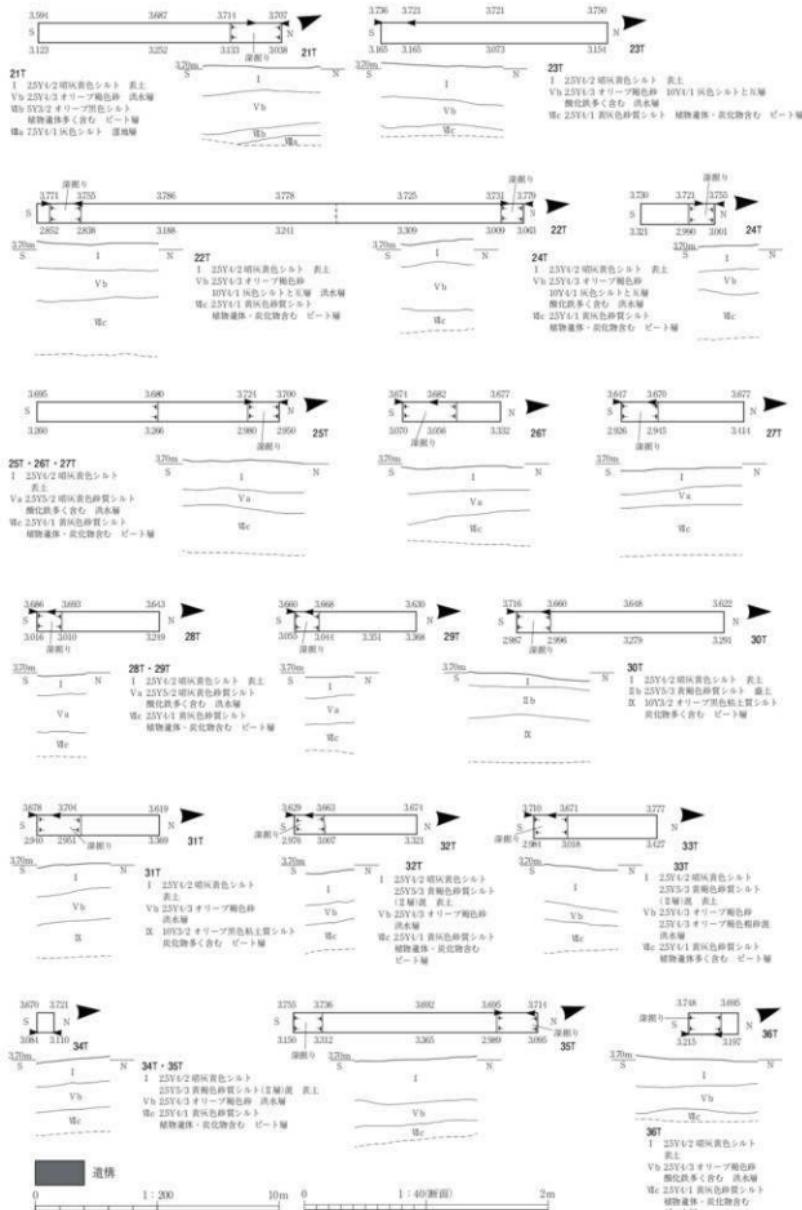


第5図 水橋池田館遺跡 遺構実測図

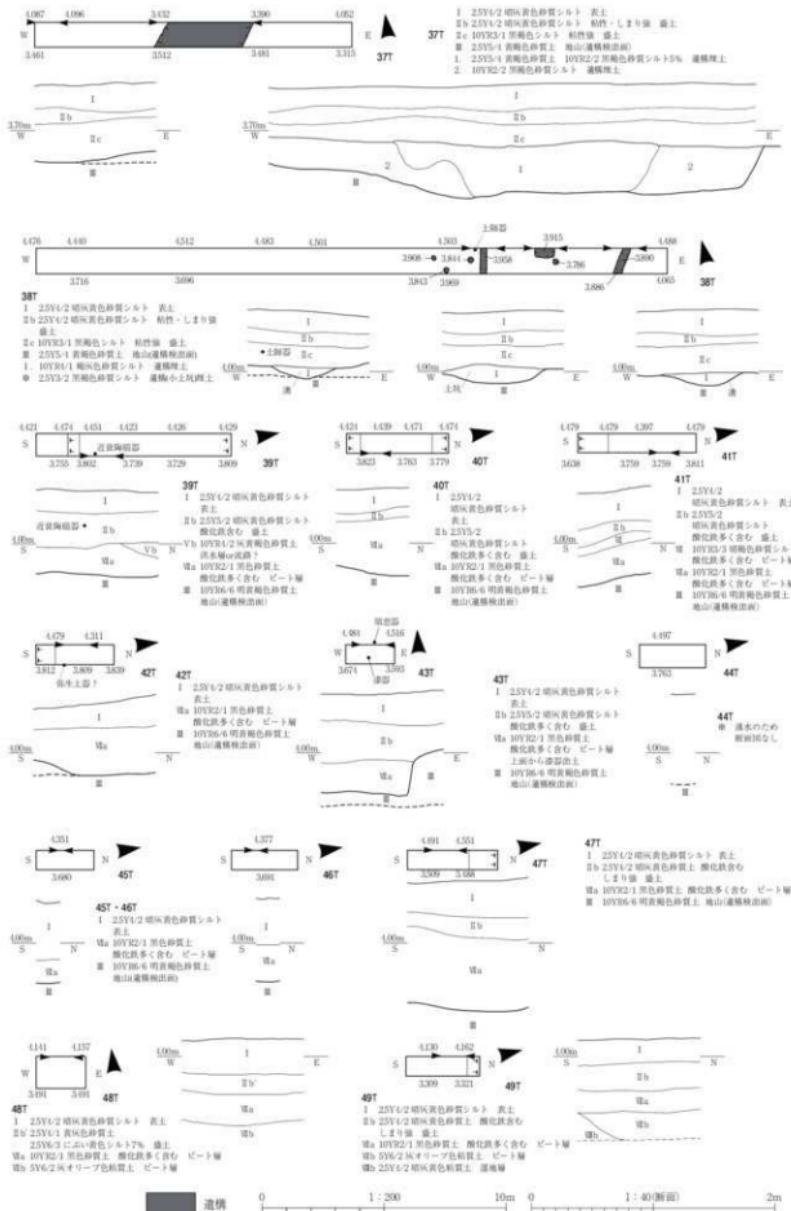
1~7地区



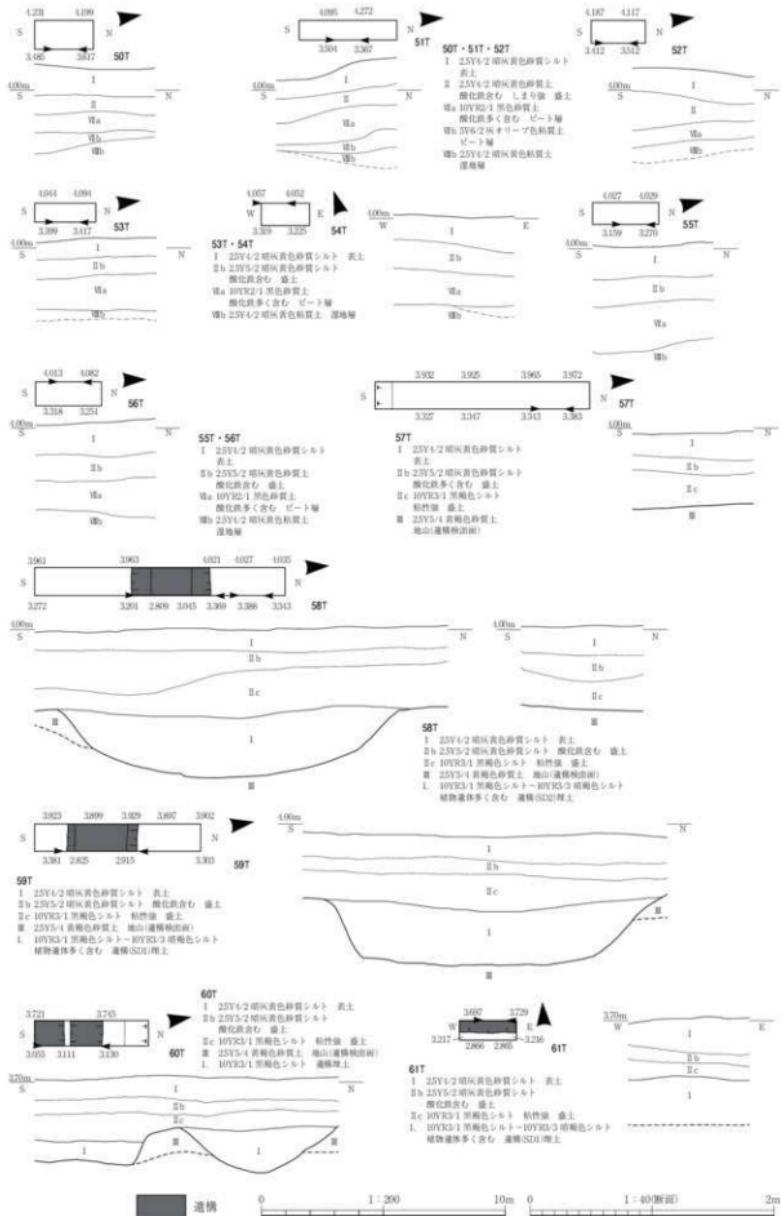
第6図 水橋池田館遺跡 遺構実測図
8~20地区



第7図 水橋田池遺跡 遺構実測図
21~36地図

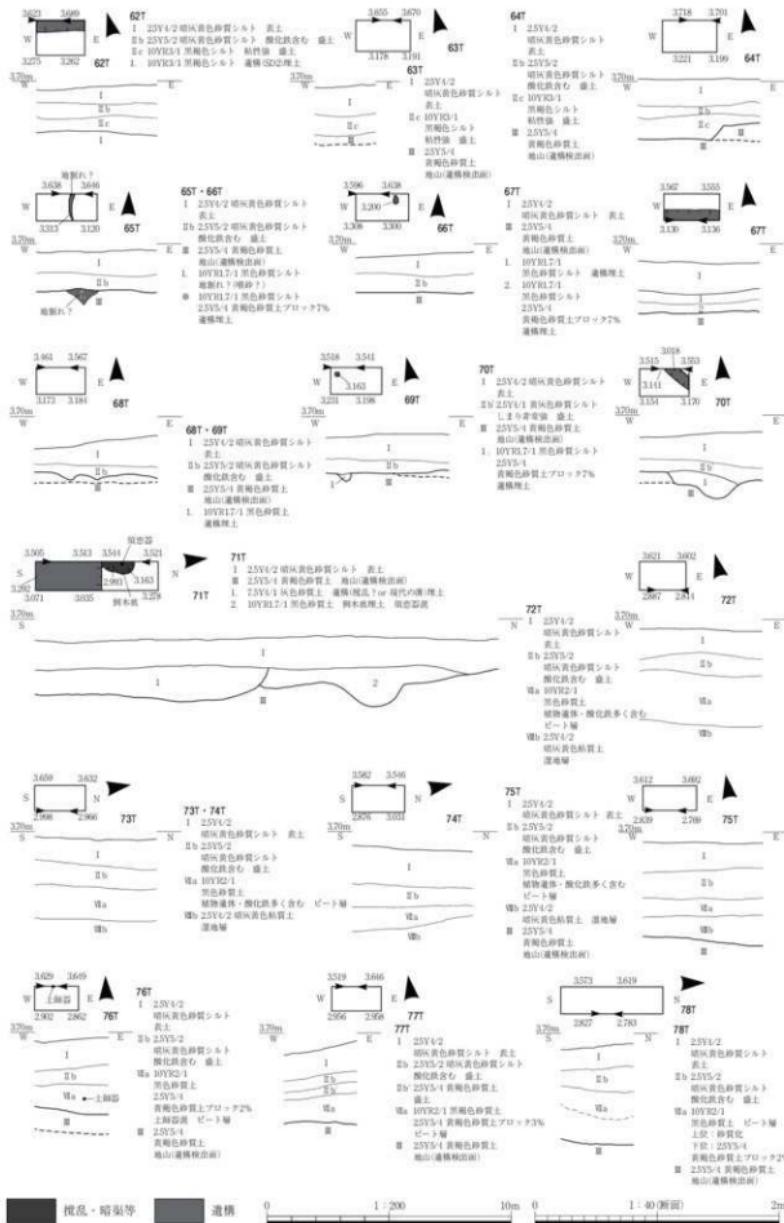


第8図 水橋池田館遺跡 遺構実測図
37~49地区



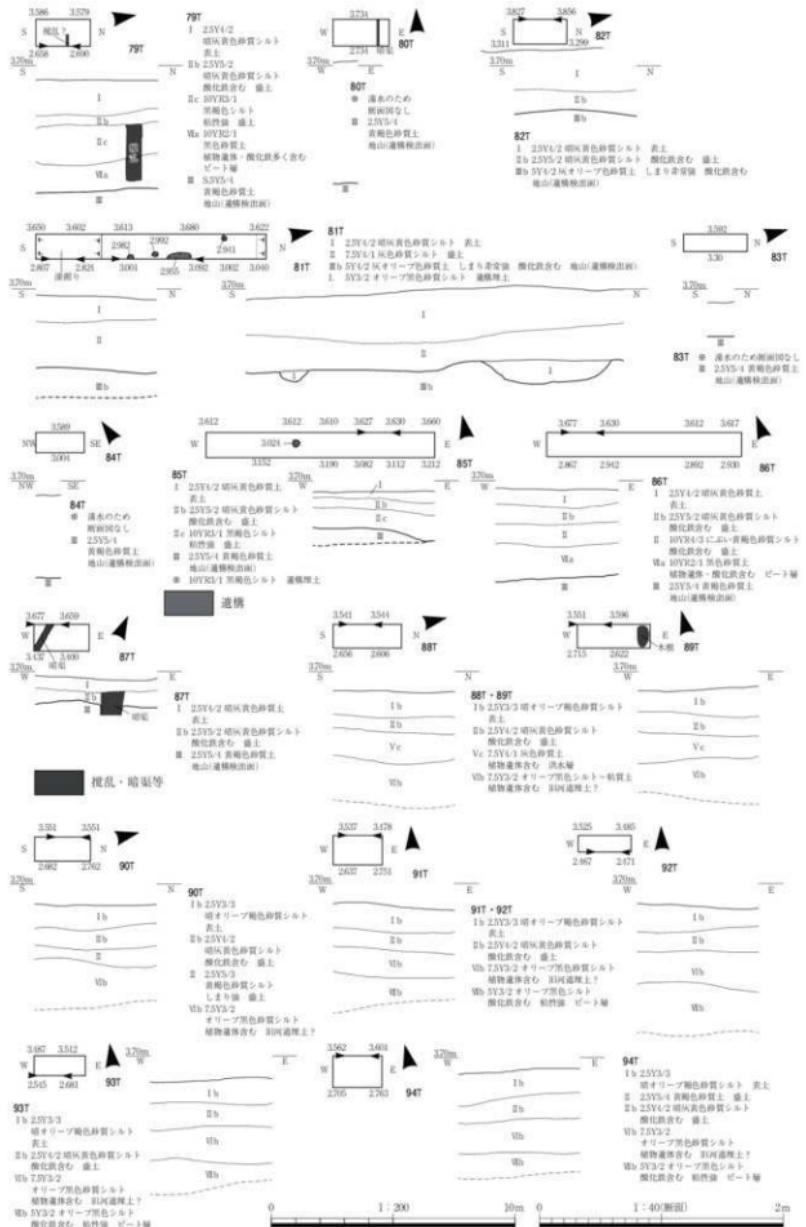
第9図 水橋池田館遺跡 遺構実測図

50~61地区



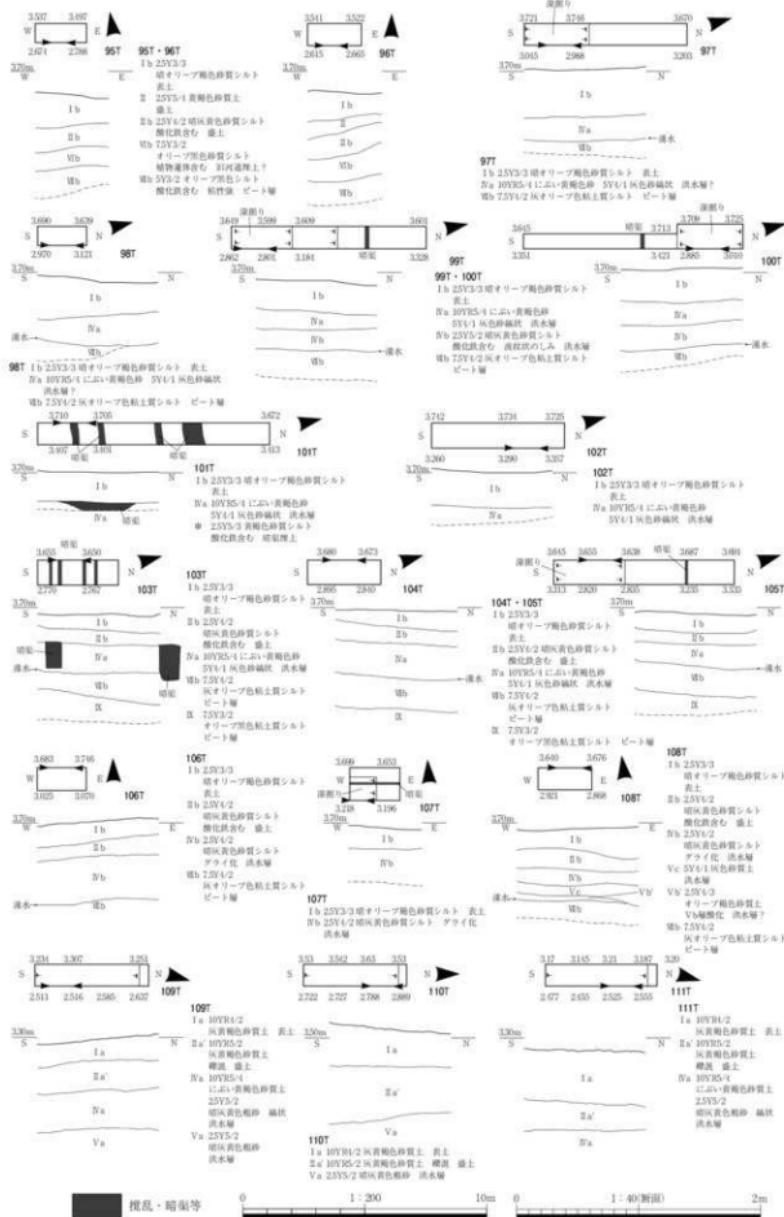
第10図 水橋池田館遺跡 遺構実測図

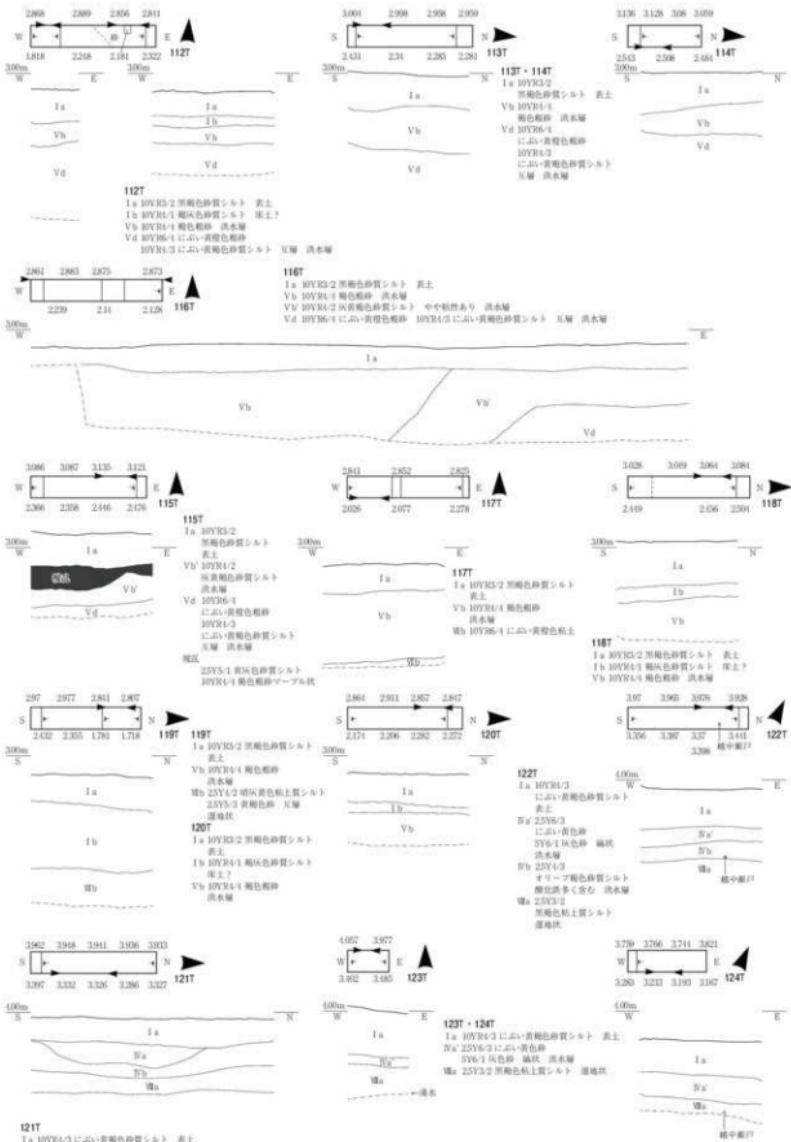
62~78地区



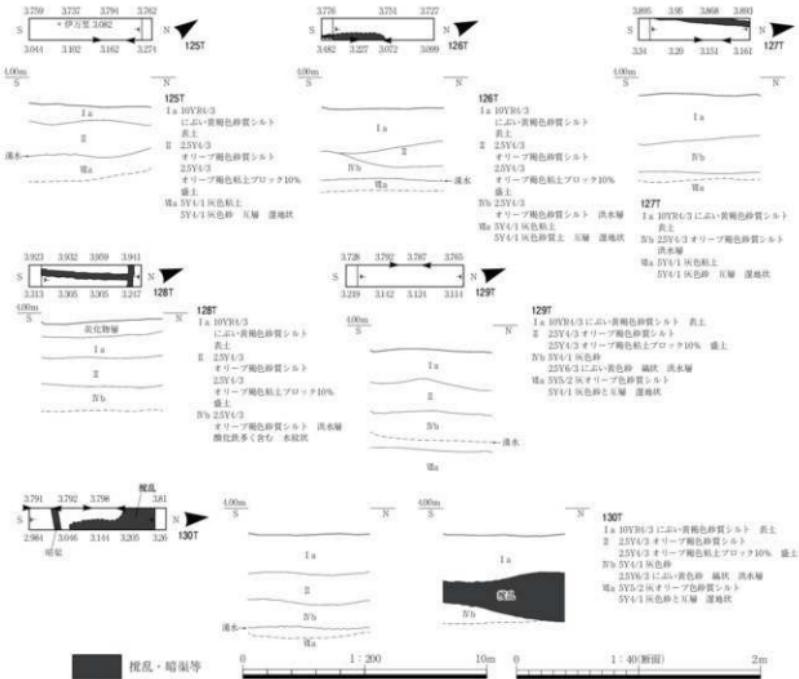
第11図 水橋池田畠遺跡 遺構実測図

79~94地図

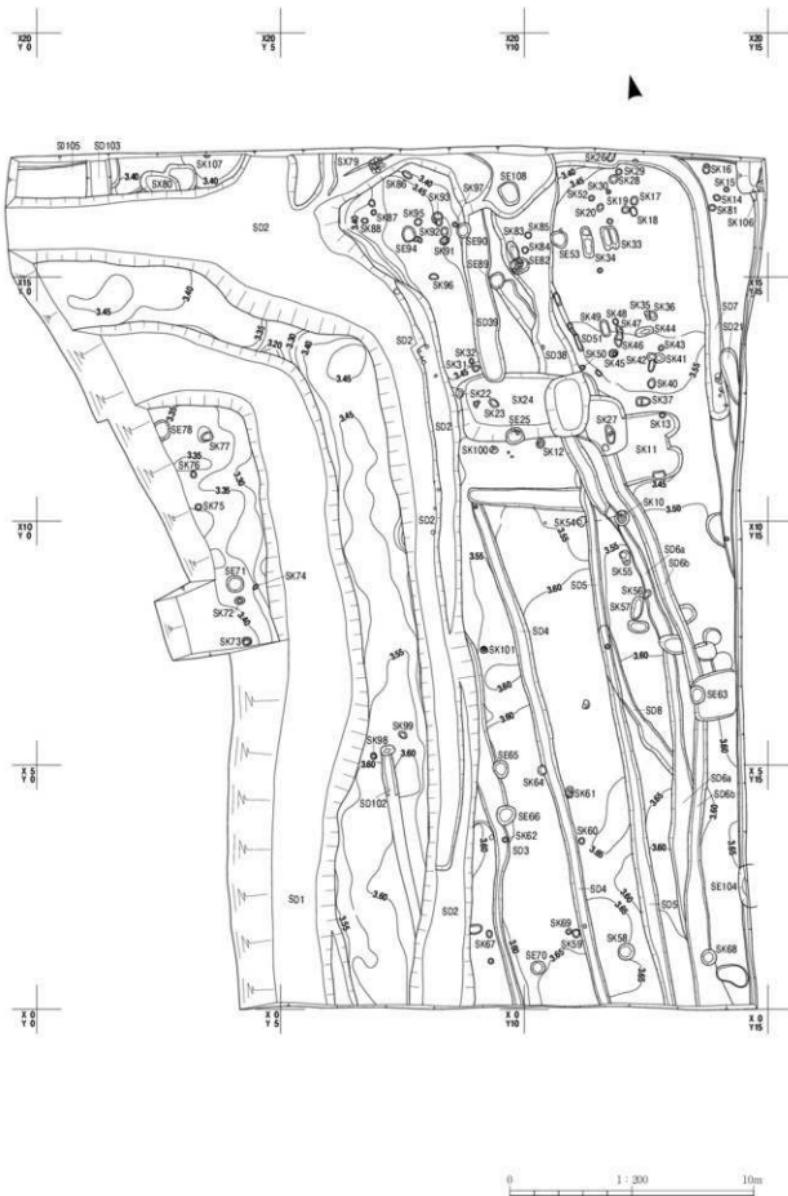




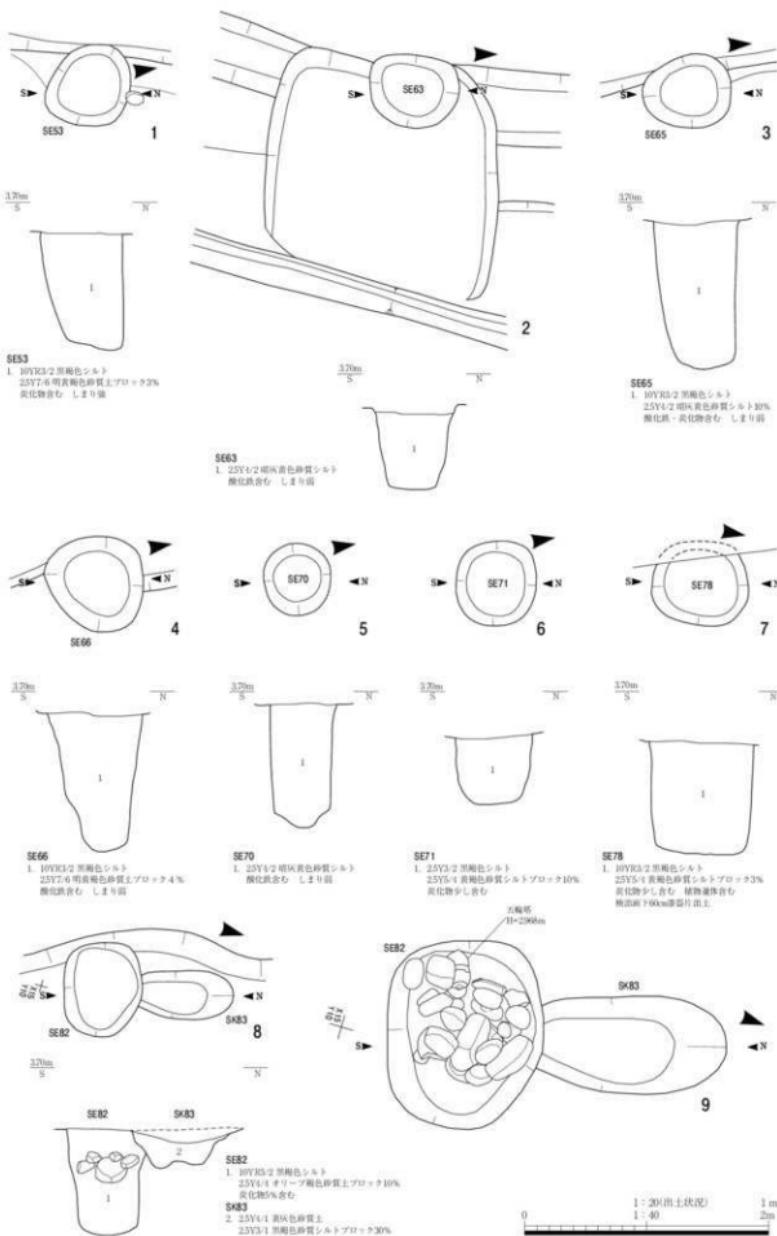
第13図 水橋池田館遺跡 遺構実測図
112~124地区



第14図 水橋池田館遺跡 遺構実測図
125~130地区

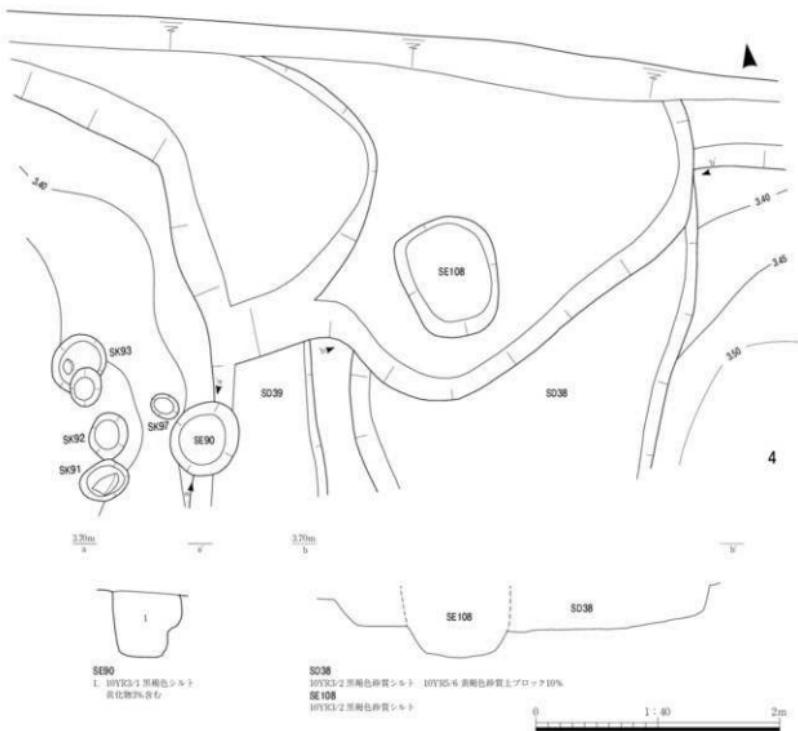
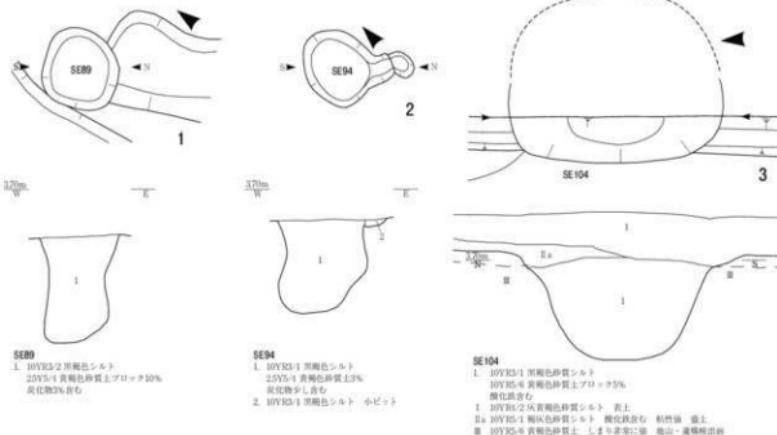


第15図 水橋池田館遺跡 遺構全体図



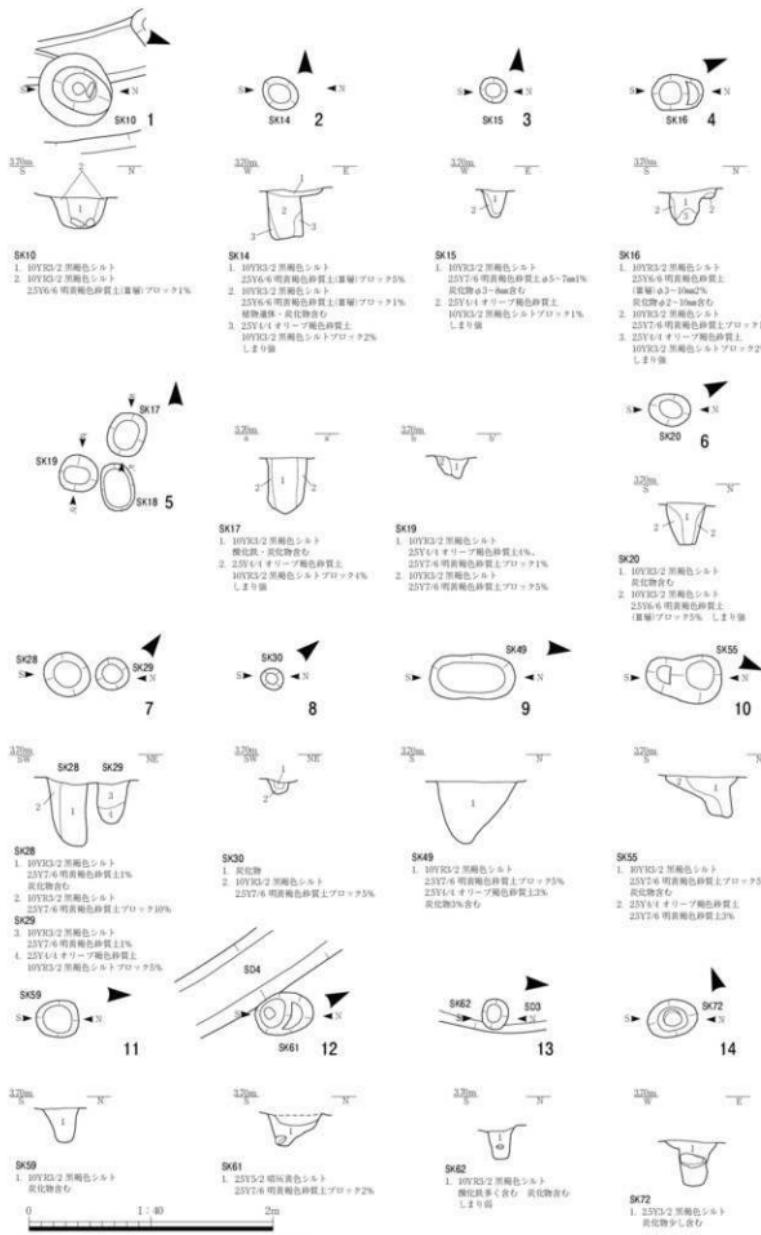
第16図 水橋池田館遺跡 遺構実測図

1. SE53 2. SE63 3. SE65 4. SE66 5. SE70 6. SE71 7. SE78
8. SE82 + SK83 9. SE82出土状況



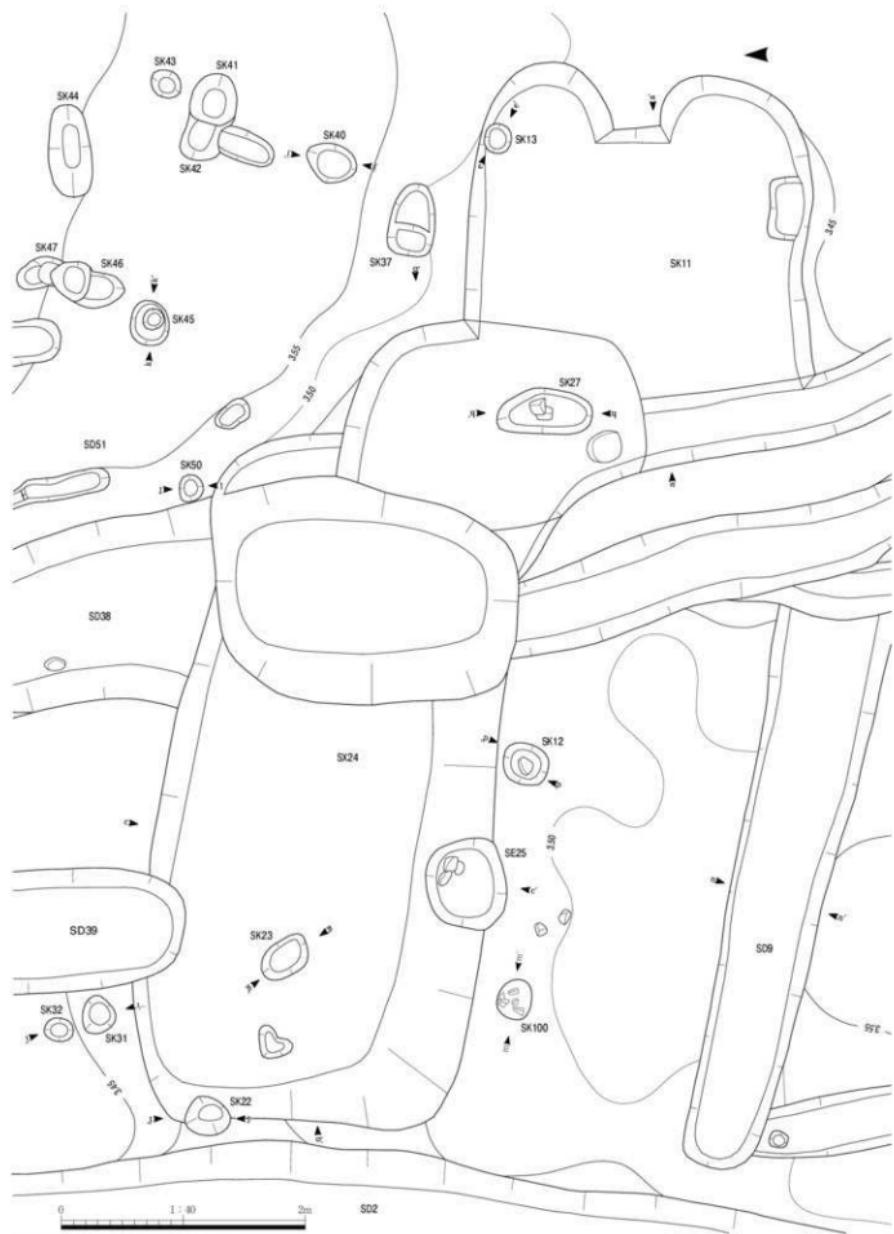
第17図 水橋池田館遺跡 遺構実測図

1. SE89 2. SE94 3. SE104 4. SE90・SE108



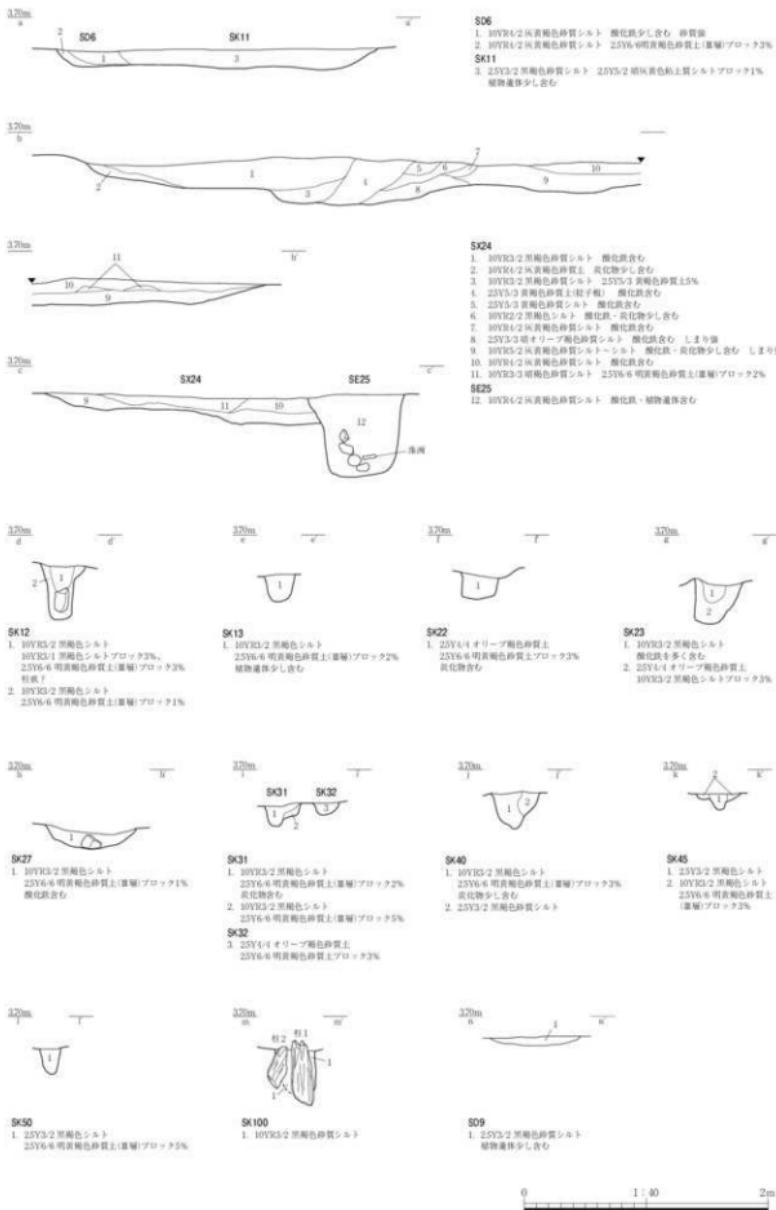
第18図 水橋池田館遺跡 遺構実測図

1. SK10
2. SK14
3. SK15
4. SK16
5. SK17 - SK19
6. SK20
7. SK28 - SK29
8. SK30
9. SK49
10. SK55
11. SK59
12. SK61
13. SK62
14. SK72



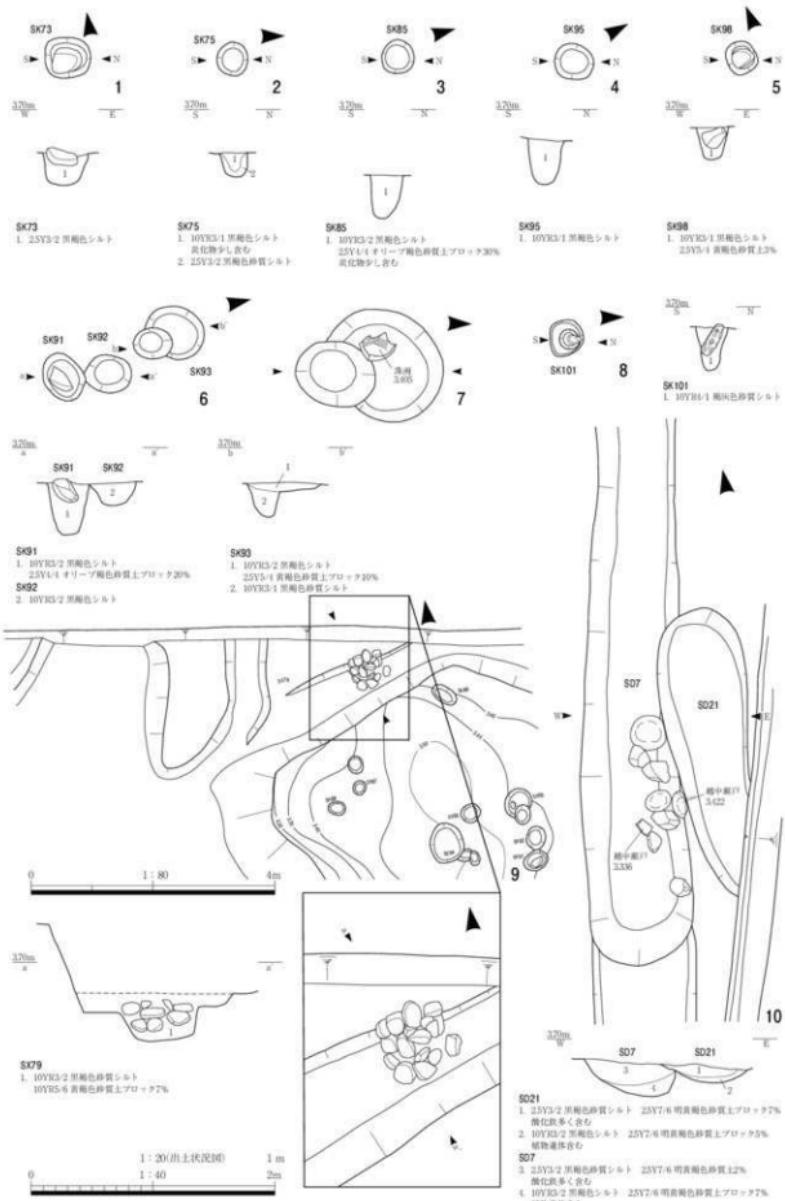
第19図 水橋池田館遺跡 遺構実測図

SD6・SD9・SK11~13・SK22・SK23・SX24・SE25・SK27・SK31・SK32・SK40・
SK45・SK50・SK100



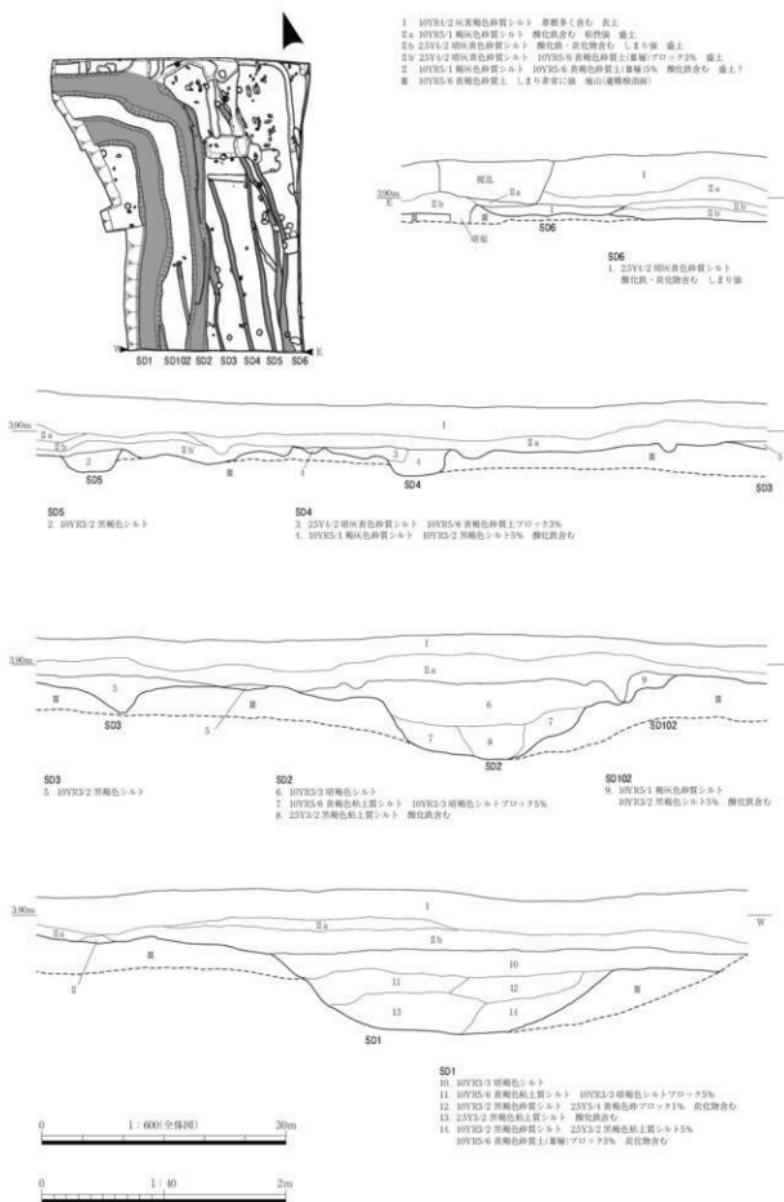
第20図 水橋池田館遺跡 遺構実測図

S D6 · S D9 · S K11~13 · S K22 · S K23 · S X24 · S E25 · S K27 · S K31 · S K32 · S K40 · S K45 · S K50 · S K100

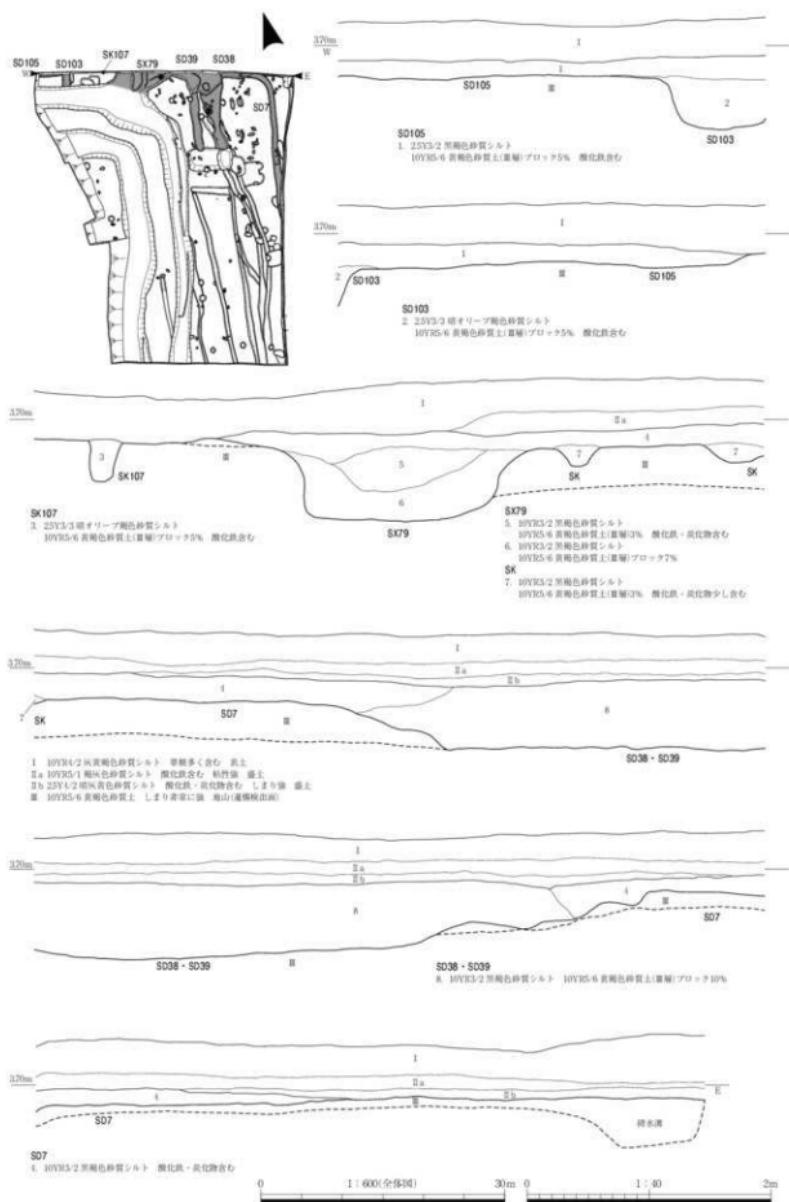


第21図 水橋池田館遺跡 遺構実測図

1. SK73
2. SK75
3. SK85
4. SK95
5. SK98
6. SK91~93
7. SK93出土状況
8. SK101
9. SX79
10. SD7・SD21

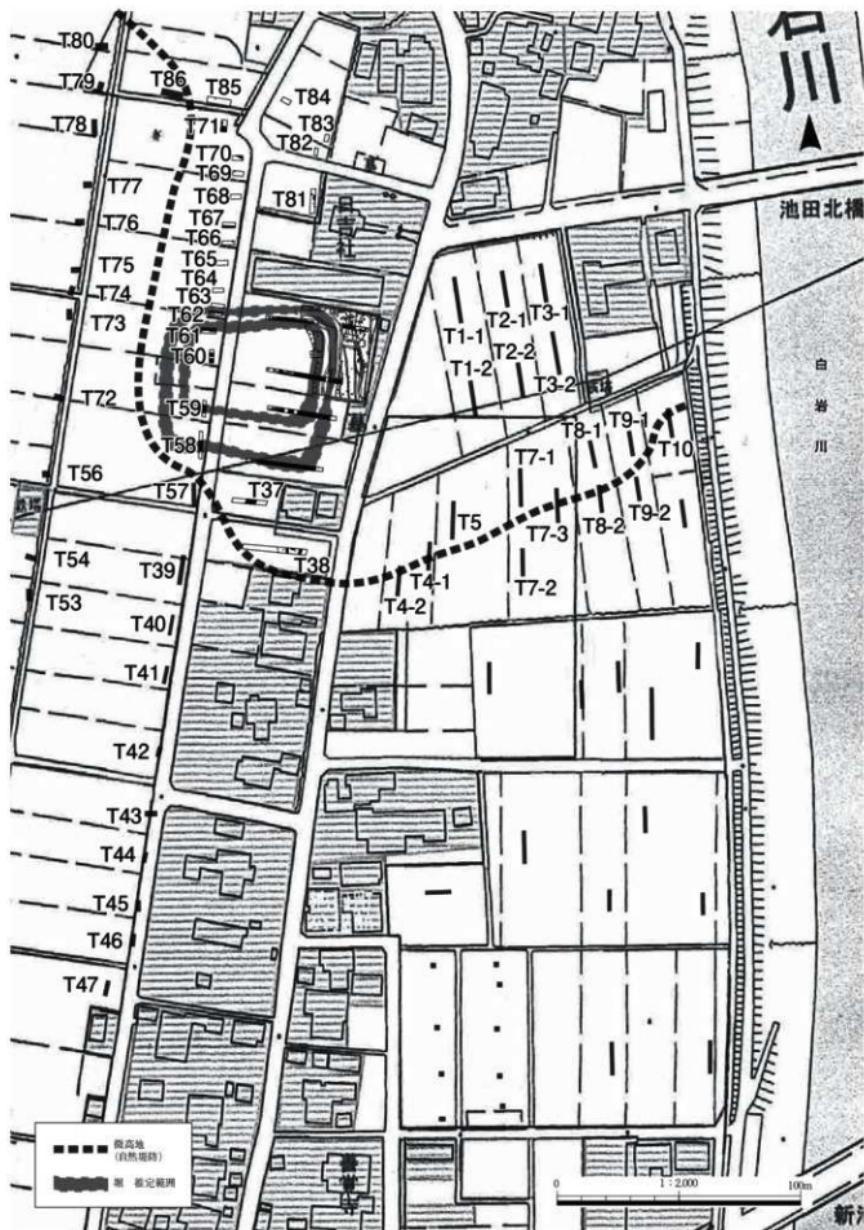


第22図 水橋池田館遺跡 遺構実測図
S D1 ~ S D6

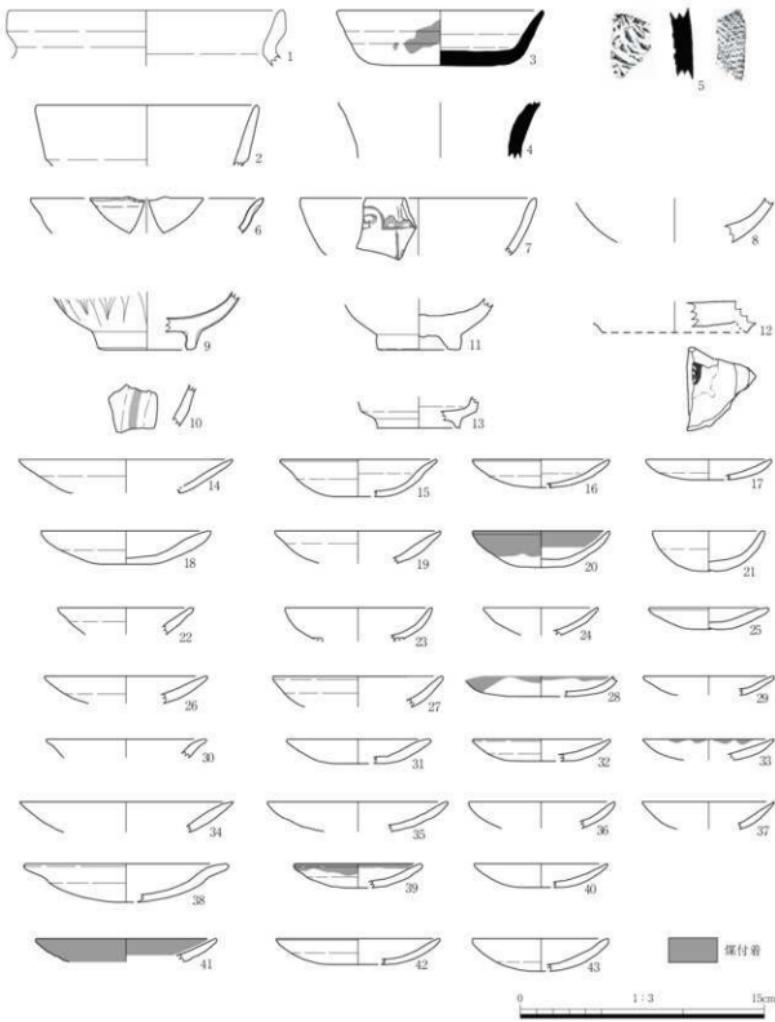


第23図 水橋池田館遺跡 遺構実測図

S D7 · S D38 · S D39 · S D103 · S D105 · S K107 · S X79



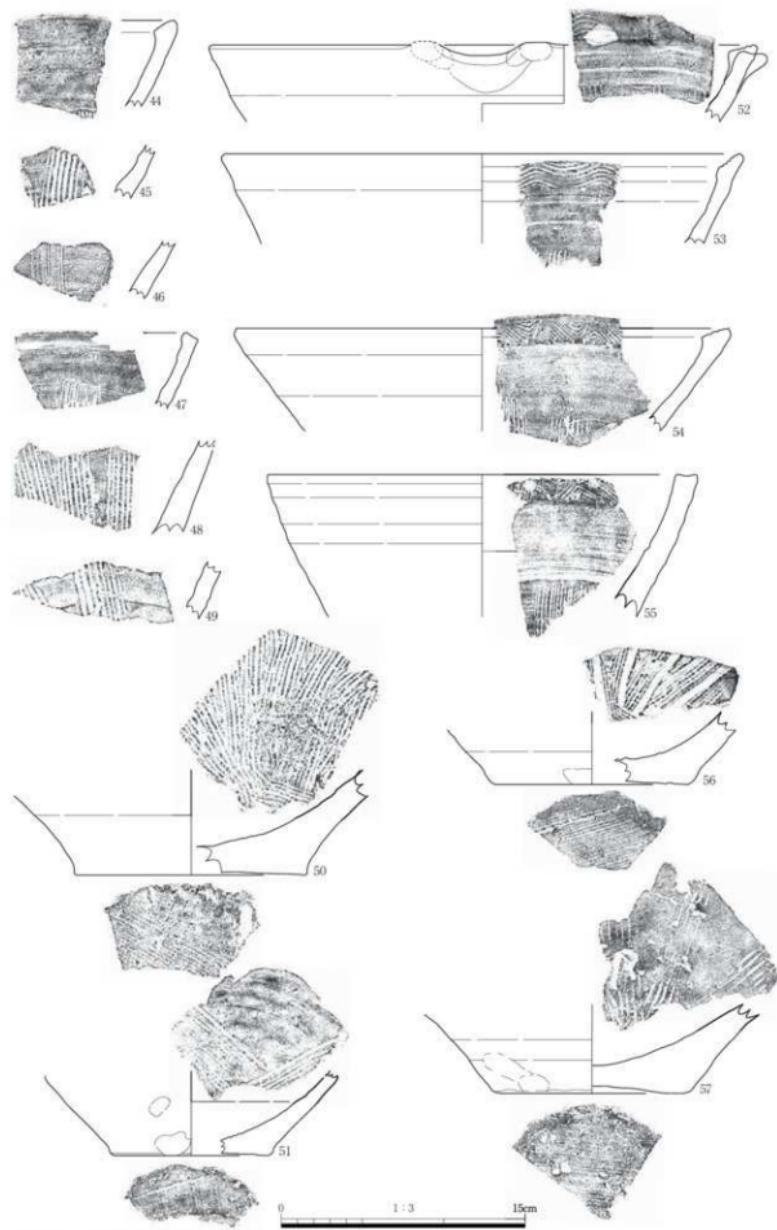
第24図 水橋池田館遺跡 復元図 (1/2,000)



第25図 水橋池田館遺跡 遺物実測図 (1/3)

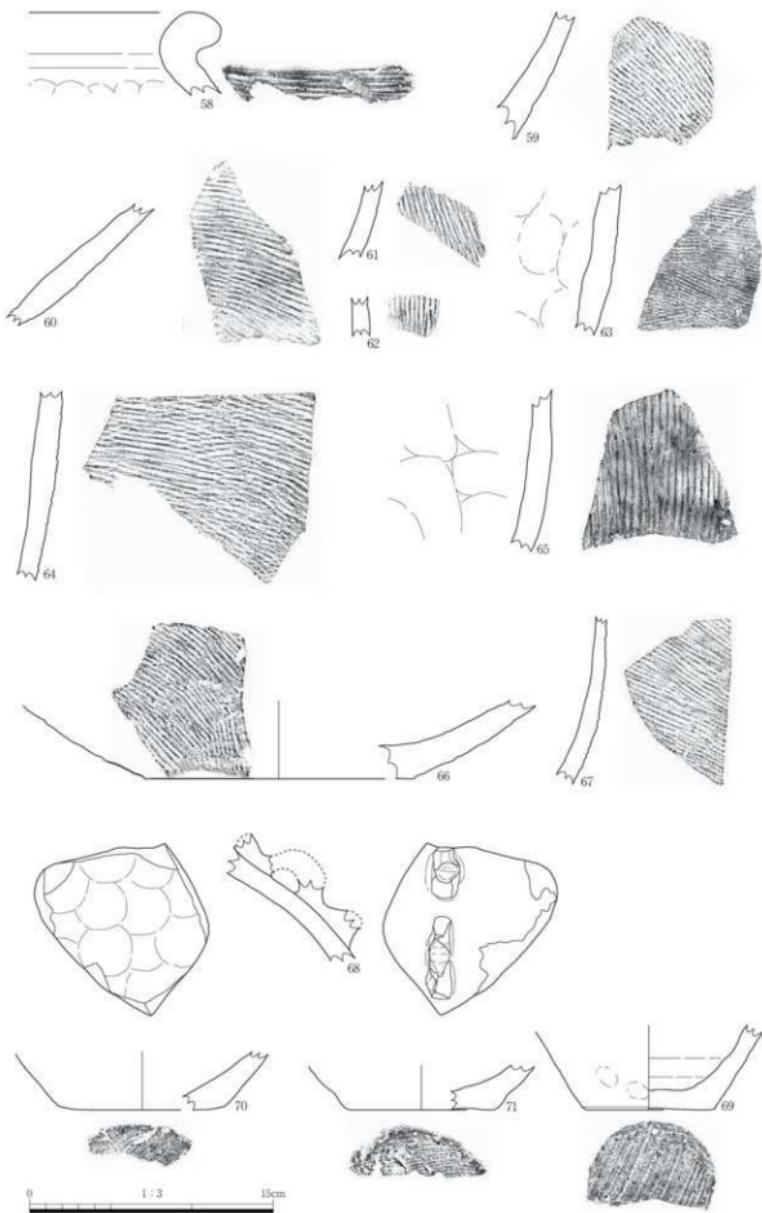
S D1(12) S D2(3・6・13~23) S D4(1・24) S D5(10・26) S D6(25) S D7(27・28)

S D9(30~32) S K11(9) S X24(41~43) S D38(34) S D39(35・36) S E78(29)



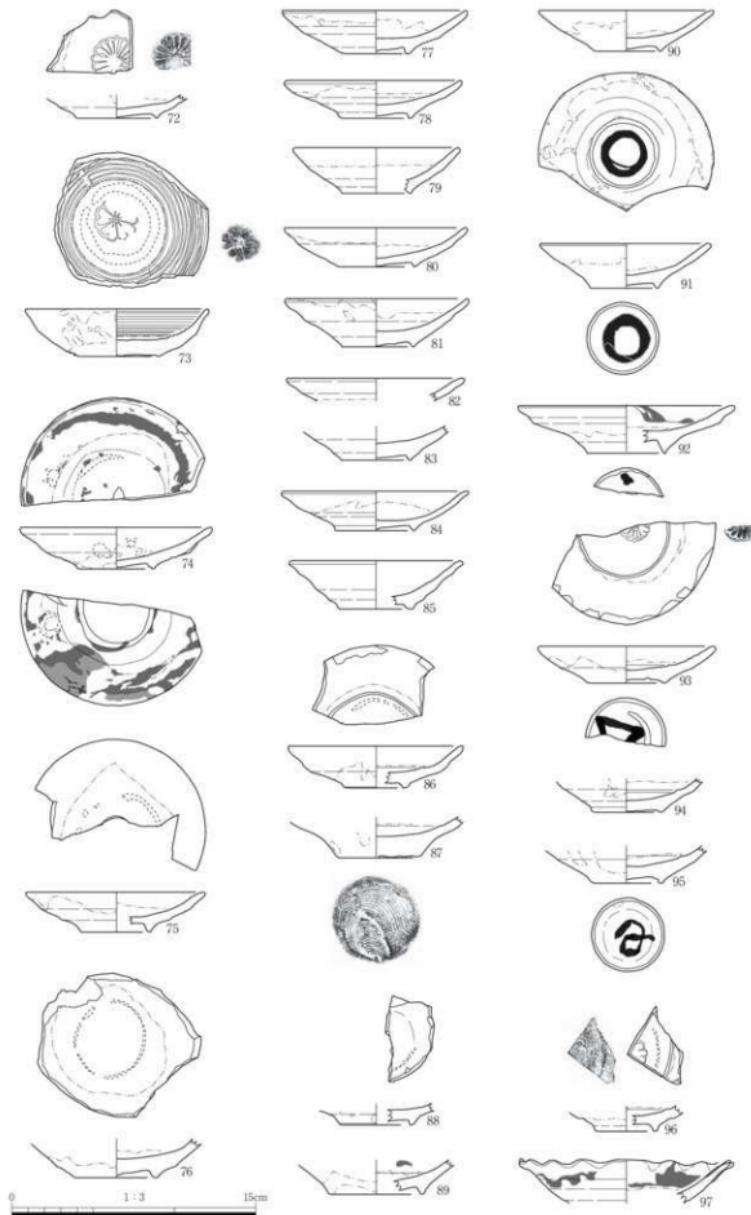
第26図 水橋池田館遺跡 遺物実測図 (1/3)

S D2(44・45・50・56) S D7(46) S X24(52) S X79(47~49・53・54) S K93(51)



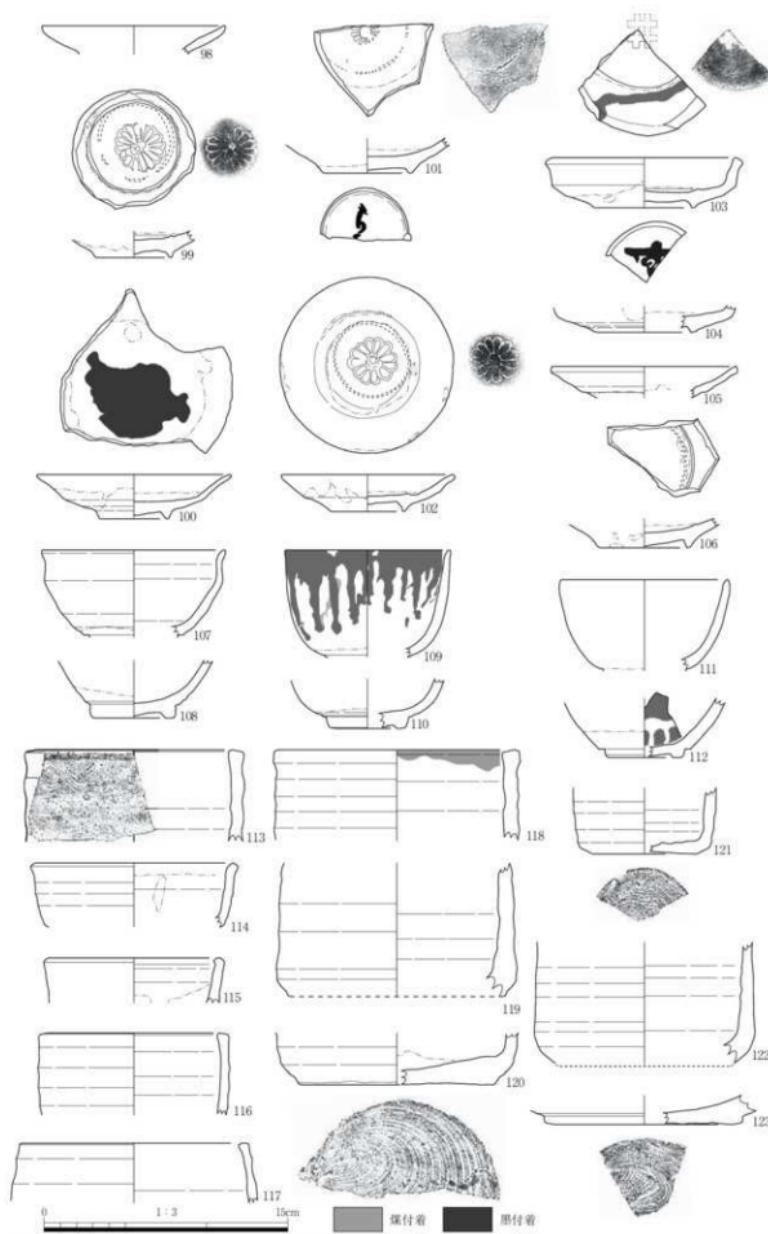
第27図 水橋田池遺跡 遺物実測図 (1/3)

S D2(59・67・68・70・71) S D6(60・61) S D7(69) S X24(63) S E25(64) S D38(66)
S E65(58) S X79(65) S X80(62)



第28図 水橋池田館遺跡 遺物実測図 (1/3)

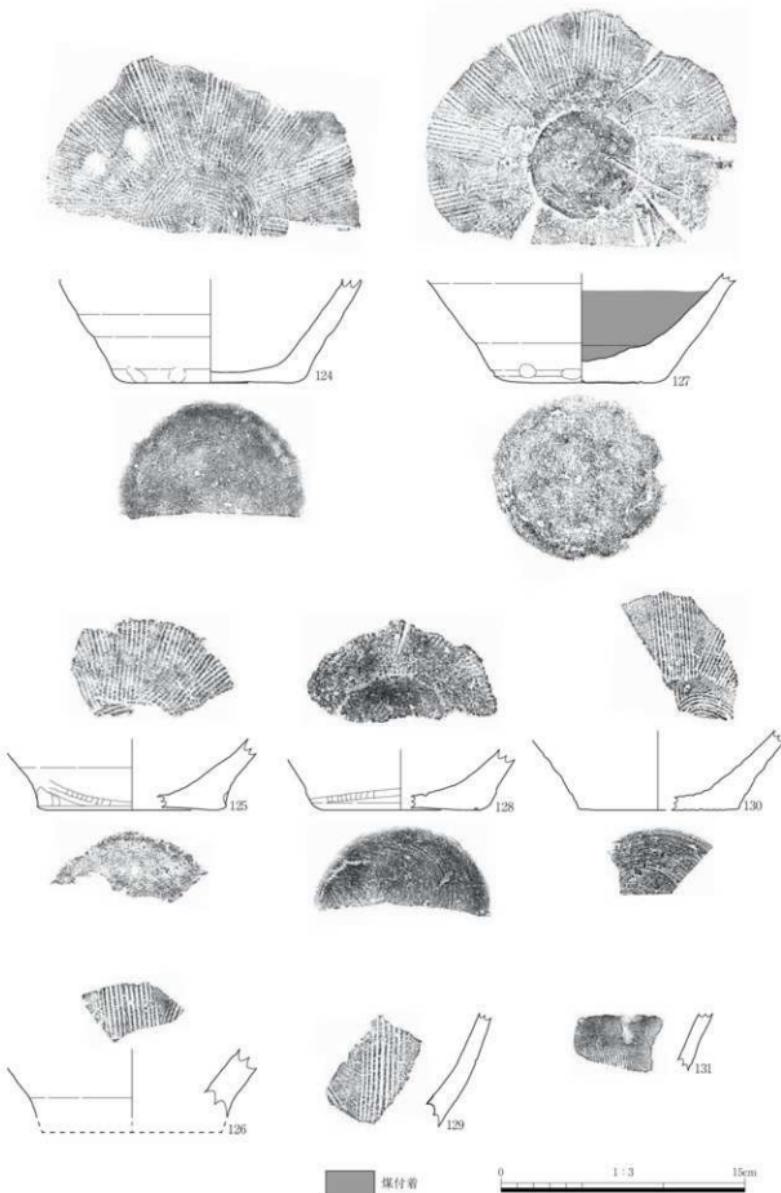
S D1(72) S D2(73・77~83・90~92) S D3(74) S D6(93・94) S D7(75・76・84~89)
S D39(97) S X79(95・96)



第29図 水橋田館遺跡 遺物実測図 (1/3)

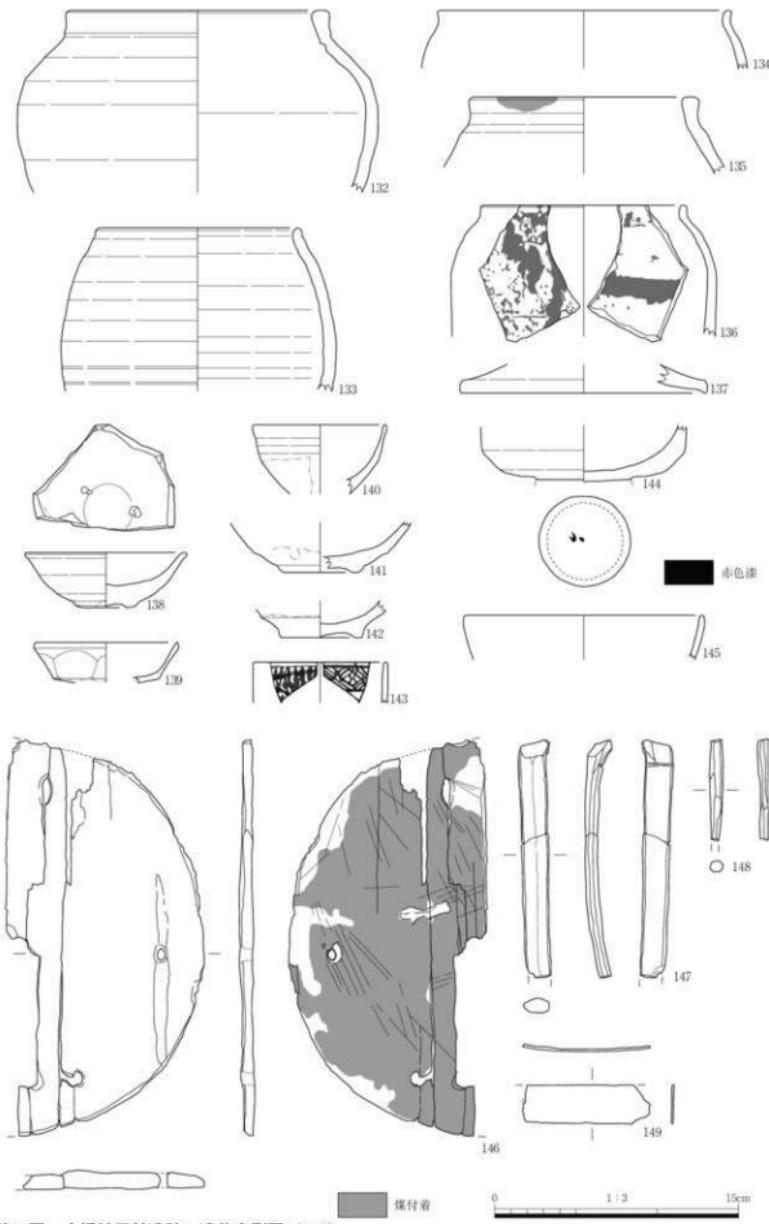
S D2(110・121~123) S D6(108) S D7(118) S D38(98・99・101・103・116・117)

S D39(119) S E65(100) S E70(104) S E78(102) S X79(109・120) S D103(107)



第30図 水橋池田館遺跡 遺物実測図 (1/3)

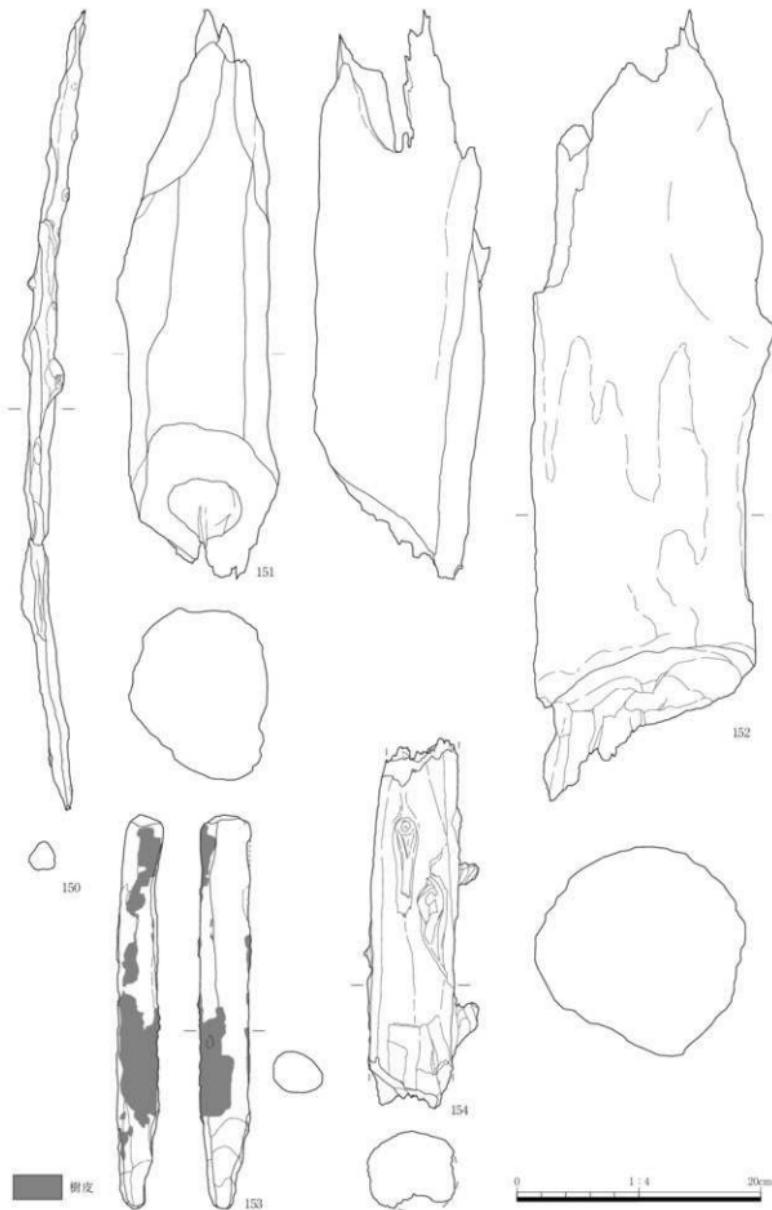
S D2(124・125・131) S D6(128・130) S D7(129) S E78(127) S X79(126)



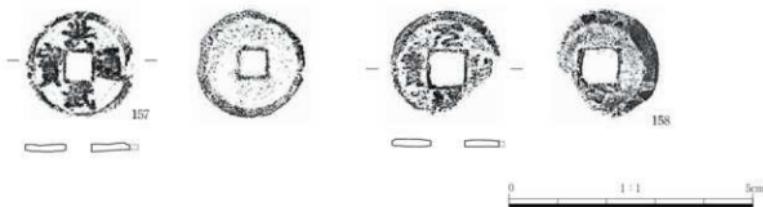
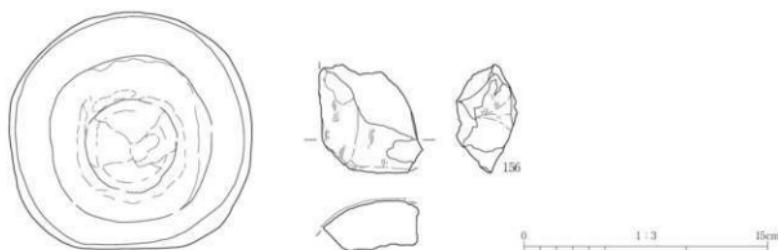
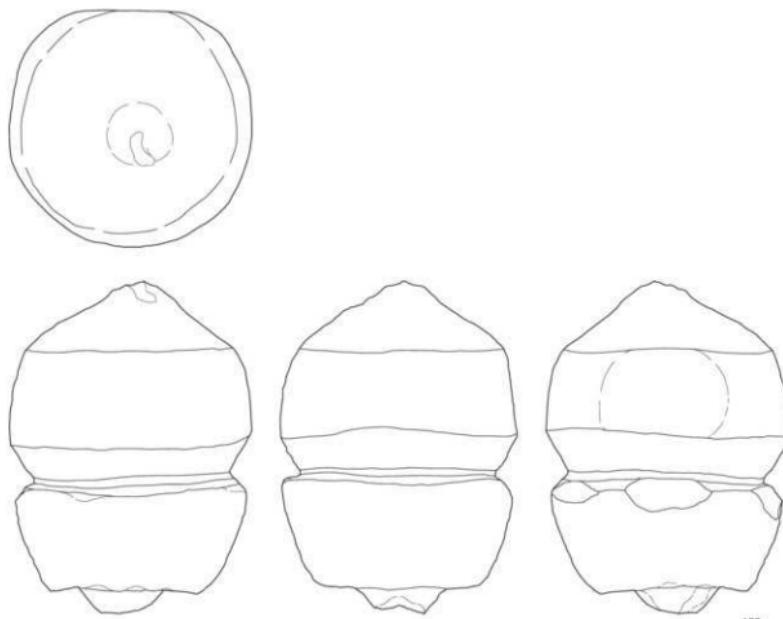
第31図 水橋池田館遺跡 遺物実測図 (1/3)

S D1(139) S D2(132・133・137・142) S D7(141) S D39(134) S E78(145～149)

S X79(135・136) S D102(138)



第32図 水橋池田館遺跡 遺物実測図 (1/4)
 S D2(150) S E78(153) S K100(151・152) S K101(154)



第33図 水橋池田館遺跡 遺物実測図 (157・158 1/1, 155・156 1/3)
S D7(156) S D39(157・158) S E82(155)

第9表 水橋池田館遺跡調査地区一覧(1)

No.	規模(m)		面積 (m ²)	遺構		遺物	現況G L (m)	遺構検出 面E L (m)	備考
	長	幅		種類	時期				
1	20.0	1.5	30.0	土坑2、溝3	古代～近世	土師器1、青磁1、越中瀬戸1、近世陶磁器3	3.87	3.51	
2	9.6	1.5	14.4	土坑4、溝3	古代～中世	須恵器1	4.04	3.68	
3	29.5	1.5	44.3	土坑7、溝5	古代～近世	越中瀬戸1、近世陶磁器2	4.08	3.76	
4	26.5	1.5	39.8	土坑4、溝3	古代～近世	土師器1	4.10	3.83	
5	29.5	1.5	44.3	土坑1			4.18	3.66	ビート層
6	9.7	0.8	7.8				3.78	※3.59	洪水層、旧河道
7	9.5	0.8	7.6				3.84	※3.35	洪水層、旧河道
8	9.0	0.8	7.2				3.82	※3.65	洪水層、旧河道
9	20.0	0.8	16.0				3.90	※3.71	洪水層、旧河道
10	10.0	0.8	8.0				3.83	※3.64	洪水層、旧河道
11	10.0	0.8	8.0				3.90	※3.71	洪水層、旧河道
12	10.0	0.8	8.0				3.94	※3.68	洪水層、旧河道
13	10.0	0.8	8.0				3.90	※3.75	洪水層、旧河道
14	8.0	0.8	6.4				3.88	※3.59	洪水層、旧河道
15	10.0	0.8	8.0				3.85	※3.69	洪水層、旧河道
16	10.0	0.8	8.0		越中瀬戸1		3.78	※3.58	洪水層、旧河道
17	10.0	0.8	8.0				3.76	※3.51	洪水層、旧河道
18	20.0	0.8	16.0				3.78	※3.59	洪水層、旧河道
19	30	0.8	24				3.77	※3.56	洪水層、旧河道
20	9.5	0.8	7.6				3.68	※3.42	洪水層
21	10.0	0.8	8.0				3.68	※3.50	洪水層、ビート層
22	20.0	0.8	16.0				3.77	※3.56	洪水層、ビート層
23	9.3	0.8	7.4				3.64	※3.46	洪水層、ビート層
24	30	0.8	24				3.74	※3.54	洪水層、ビート層
25	10.0	0.8	8.0				3.70	※3.47	洪水層、ビート層
26	4.0	0.8	3.2				3.68	※3.46	洪水層、ビート層
27	5.0	0.8	4.0				3.67	※3.49	洪水層、ビート層
28	5.0	0.8	4.0				3.67	※3.52	洪水層、ビート層
29	5.0	0.8	4.0				3.65	※3.51	洪水層、ビート層
30	8.5	0.8	6.8				3.66	※3.34	洪水層、ビート層
31	5.0	0.8	4.0				3.67	※3.47	洪水層、ビート層
32	5.0	0.8	4.0				3.65	※3.39	洪水層、ビート層
33	5.0	0.8	4.0				3.72	※3.36	洪水層、ビート層
34	0.8	0.8	0.6				3.70	※3.50	洪水層、ビート層
35	10.0	0.8	8.0				3.72	※3.36	洪水層、ビート層
36	2.0	0.8	1.6				3.73	※3.50	洪水層、ビート層
37	13.0	1.0	13.0	溝1	～近世		4.08	3.49	
38	26.0	1.0	26.0	土坑5、溝2	古代～近世	土師器1	3.86	3.34	
39	8.0	0.8	6.4			近世陶磁器1	4.44	*4.02	ビート層
40	4.2	0.8	3.4				4.45	*4.21	ビート層
41	4.8	0.8	3.8				4.46	*4.14	ビート層
42	3.2	0.8	2.6			弥生土器？1	4.40	*4.23	ビート層
43	2.0	0.8	1.6			須恵器1、漆器1	4.50	*3.97	ビート層
44	2.8	1.0	2.8				4.50	*3.76	湧水のため図化できず、ビート層
45	2.4	0.8	1.9				4.35	*3.85	湧水のため図化できず、ビート層

第9表 水橋池田館遺跡調査地区一覧(2)

No	規模(m) 長 幅	面積 (m ²)	遺構		遺物	現況G L (m)	遺構検出 面E L (m)	備考
			種類	時期				
46	2.7	0.8	2.2			4.38	*3.98	ビート層
47	3.7	0.8	3.0			4.52	*4.10	ビート層
48	2.0	1.3	2.6			4.15	*3.74	ビート層
49	3.0	0.8	2.4			4.15	*3.75	ビート層
50	2.4	1.2	2.9			4.22	*3.80	ビート層
51	4.0	0.8	3.2			4.19	*3.81	ビート層
52	2.2	0.9	2.0			4.16	*3.73	ビート層
53	2.5	0.8	2.0			4.07	*3.77	ビート層
54	2.0	0.9	1.8			4.06	*3.58	ビート層
55	2.7	0.9	2.4			4.03	*3.56	ビート層
56	2.7	1.0	2.7			4.05	*3.57	ビート層
57	8.8	1.1	9.7			3.95	3.35	地山あり、遺構未確認
58	10.3	1.1	11.3	溝(堀)1	～近世	4.02	3.35	
59	6.8	1.1	7.5	溝(堀)1	～近世	3.91	3.41	
60	4.7	1.0	4.7	溝2	～近世	3.74	3.28	
61	2.3	0.8	1.8	溝(堀)1	～近世	3.72	3.22	
62	2.0	1.4	2.8	溝(堀)1	～近世	3.66	3.17	
63	2.2	1.3	2.9			3.67	3.27	
64	2.2	1.3	2.9			3.71	3.29	
65	2.5	1.1	2.8	地割れ? 1		3.65	3.19	
66	2.2	1.1	2.4	土坑1	～近世	3.62	3.31	地山まで削平
67	2.3	1.1	2.5	溝1	～近世	3.57	3.32	
68	2.0	1.1	2.2			3.52	3.22	地山まで削平?
69	2.1	1.1	2.3	土坑1	～近世	3.53	3.23	
70	2.0	1.1	2.2	溝1	～近世	3.54	3.18	
71	5.0	1.1	5.5	土坑(倒木 痕?)1, 溝1	～近世	須恵器1	3.52	3.28
72	1.9	1.2	2.3			3.61	*3.27	ビート層
73	2.1	1.0	2.1			3.65	*3.25	ビート層
74	2.2	1.1	2.4			3.57	*3.09	ビート層
75	2.2	1.0	2.2			3.61	*3.16	ビート層
76	1.8	1.0	1.8		土師器? 1	3.64	*3.27	ビート層
77	2.0	1.0	2.0			3.59	*3.19	ビート層
78	4.2	1.1	4.6			3.60	*3.25	ビート層
79	2.2	1.1	2.4			3.59	*2.95	ビート層
80	2.3	1.1	2.5			3.73	*2.73	湧水のため固化できず
81	9.5	1.0	9.5	土坑4	～近世	3.65	3.04	
82	2.2	1.0	2.2			3.85	3.31	
83	2.6	0.7	1.8			3.59	3.30	湧水のため遺構確認 できず
84	2.0	0.8	1.6			3.59	3.00	
85	9.4	1.0	9.4	土坑1	～近世	3.63	3.19	
86	8.0	1.0	8.0			3.64	*3.24	ビート層
87	2.3	1.1	2.5	暗渠?	現代	3.67	3.42	
88	2.8	1.0	2.8			3.54	*3.22	洪水層、旧河道
89	3.0	1.0	3.0	木根1		3.58	*3.21	洪水層、旧河道
90	2.3	1.0	2.3			3.55	*3.07	洪水層、旧河道

第9表 水橋池田館遺跡調査地区一覧 (3)

No.	規模 (m)		面積 (m ²)	遺構		遺物	現況 G L (m)	遺構検出 面 E L (m)	備考
	長	幅		種類	時期				
91	2.0	1.2	2.4				3.51	※3.16	洪水層、旧河道
92	2.2	0.7	1.5				3.51	※3.14	洪水層、旧河道
93	2.1	0.8	1.7				3.50	※3.10	洪水層、旧河道
94	2.0	1.3	2.6				3.58	※3.18	洪水層、旧河道
95	2.1	0.8	1.7				3.52	※3.07	洪水層、旧河道
96	2.2	0.9	2.0				3.53	※3.05	洪水層、旧河道
97	6.7	0.9	6.0				3.71	※3.34	洪水層、旧河道
98	2.0	0.8	1.6				3.67	※3.37	洪水層、旧河道
99	8.0	0.9	7.2				3.62	※3.39	洪水層、旧河道
100	9.0	0.7	6.3				3.70	※3.48	洪水層、旧河道
101	9.5	0.9	8.6	暗渠？4	現代		3.70	※3.47	洪水層、旧河道
102	5.5	1.0	5.5				3.74	※3.44	洪水層、旧河道
103	3.3	1.0	3.3				3.66	※3.40	洪水層、旧河道
104	3.0	1.0	3.0				3.68	※3.40	洪水層、旧河道
105	7.4	1.0	7.4				3.67	※3.40	洪水層、旧河道
106	2.0	0.9	1.8				3.72	※3.42	洪水層、旧河道
107	2.1	1.3	2.7	暗渠？1	現代		3.68	※3.50	洪水層、旧河道
108	2.2	0.9	2.0				3.66	※3.33	洪水層、旧河道
109	4.7	1.0	4.7				3.27	※2.85	洪水層、旧河道
110	4.2	1.0	4.2				3.56	※2.92	洪水層、旧河道
111	4.5	1.0	4.5				3.19	※2.43	洪水層、旧河道
112	5.1	1.0	5.1				2.86	※2.60	洪水層、旧河道
113	4.5	1.0	4.5				2.98	※2.73	洪水層、旧河道
114	3.0	1.0	3.0				3.10	※2.79	洪水層、旧河道
115	4.8	1.0	4.8	カクラン	現代		3.11	※2.69	洪水層、旧河道
116	5.4	1.0	5.4				2.87	※2.68	洪水層、旧河道
117	5.0	1.0	5.0				2.84	※2.59	洪水層、旧河道
118	5.0	1.0	5.0				3.06	※2.56	洪水層、旧河道
119	4.5	1.0	4.5				2.90	※2.59	洪水層、旧河道
120	4.8	1.0	4.8				2.86	※2.55	洪水層、旧河道
121	4.8	1.0	4.8				3.94	※3.75	洪水層、ビート層
122	5.0	1.0	5.0		越中瀬戸		3.96	※3.63	洪水層、ビート層
123	1.7	1.0	1.7				4.02	※3.63	洪水層、ビート層
124	3.0	1.0	3.0		越中瀬戸		3.77	※3.48	洪水層、ビート層
125	5.0	1.0	5.0		伊万里		3.76	※3.42	ビート層
126	4.5	1.0	4.5				3.75	※3.39	洪水層、ビート層
127	4.5	1.0	4.5	暗渠	現代		3.90	※3.49	洪水層、ビート層
128	4.5	1.0	4.5	暗渠	現代		3.94	※3.47	洪水層、ビート層
129	4.7	1.0	4.7				3.77	※3.29	洪水層、ビート層
130	5.5	1.0	5.5	カクラン、 暗渠	現代		3.80	※3.27	洪水層、ビート層

※ 洪水層上面 E L, * ビート層上面 E L

第10表 水橋池田館遺跡土坑一覧(1)

遺構No	種類	座標			法面(m)	出土遺物	時期	切り合い	備考	埠団	写真	
		X	Y	平面形								
SK10	土坑	11	12~13	円	0.61	0.58	0.20		φ10cmの円錐底面出土 根石か?	18		
SK11	土坑	12~13	12~14	不整	2.80	(2.54)	0.20	青磁	SK11~SD6・SK13, SK11~SX24	大型方形土坑	19~20	6
SK12	土坑	12	11	円	0.40	0.35	0.47		柱頭 φ15cmの椎出上 根石か?	19~20	6	
SK13	土坑	13	13	円	0.25	0.25	0.28		柱頭?	19~20		
SK14	土坑	17	15	円	0.30	0.26	0.54		柱頭	18		
SK15	土坑	17	15	円	0.22	0.22	0.25		柱頭	18		
SK16	土坑	18	14	椭円	0.44	0.29	0.46		柱頭	18		
SK17	土坑	17	13	椭円	0.36	0.29	0.61		柱頭	18		
SK18	土坑	17	13	椭円	0.41	0.27	0.07					
SK19	土坑	17	13	円	0.33	0.29	0.22		柱頭	18		
SK20	土坑	17	12	椭円	0.35	0.26	0.22		柱頭	18		
SK22	土坑	13	9	椭円	0.40	0.32	0.20		SK22~SX24	柱頭	19~20	
SK23	土坑	13	10	椭円	0.42	0.30	0.44		SK23~SX24	柱頭	19~20	
SK24	土坑	12~14	9~12	不整	6.49	2.75	0.38	中世土御器・珠洲	SK24~SD6・SK11~SK22, SK23~SK27・SD38, SK24~SE25・SD39	大型方形土坑 複数の 土坑が重複 張り床状 ?	19~20	6
SK26	土坑	18	12	(椭円)	(0.38)	0.27	0.22		SK26~SD7	調査区北側にかかる φ15cmの椎底面出土 根石か?	19~20	
SK27	土坑	12	12	椭円	0.77	0.37	0.15		SK27~SX24		19~20	
SK28	土坑	18	12~13	円	0.37	0.36	0.63		柱頭	18		
SK29	土坑	18	13	円	0.28	0.28	0.54		柱頭か	18		
SK30	土坑	17	12	円	0.20	0.18	0.11		柱頭	18		
SK31	土坑	14	10	円	0.32	0.28	0.16			19~20		
SK32	土坑	14	9	椭円	0.24	0.19	0.11			19~20		
SK33	土坑	16	12	不整	0.97	0.67	0.38			2つの土坑が重複(連 続)か		
SK34	土坑	16	12	長方	1.30	0.46	0.41					
SK35	土坑	15	13	(不整)	0.38 (0.17)	0.15			SK35~SK36			
SK36	土坑	15	13	椭円	0.42	0.39	0.17		SK36~SK35			
SK37	土坑	13	13	椭円	0.66	0.37	0.18					
SK40	土坑	13	13	椭円	0.42	0.33	0.19		柱頭?	19~20		
SK41	土坑	14	13	円	0.42	0.37	0.26		SK41~SK42			
SK42	土坑	14	13	(不整)	0.80 (0.34)	0.26			SK42~SK41			
SK43	土坑	14	13	円	0.24	0.22	0.16					
SK44	土坑	14	13	椭円	0.75	0.36	0.22		柱頭?			
SK45	土坑	14	12	椭円	0.37	0.32	0.12		柱頭	19~20		
SK46	土坑	14	12~13	椭円	0.61	0.33	0.14		SK46~SK47			
SK47	土坑	14	13	(不整)	(0.40)	0.24	0.18		SK47~SK46	柱頭?		
SK48	土坑	15	12	円	0.27	0.23	0.12					
SK49	土坑	14~15	12	椭円	0.70	0.36	0.25	中世土御器			18	
SK50	土坑	14	12	円	0.23	0.20	0.21				19~20	
SK52	土坑	17	12	円	0.25	0.25	0.16					
SK54	土坑	10~11	12	不整	0.43	0.38	0.15					
SK55	土坑	10	13	不整	0.63	0.40	0.24		柱頭	18		
SK56	土坑	9	13	椭円	0.37	0.26	0.15		SK56~SD6			
SK57	土坑	9	13	椭円	0.97	0.46	0.09					
SK58	土坑	2	12~13	円	0.67	0.67	0.18					
SK59	土坑	2	11	円	0.35	0.30	0.21		柱頭?	18		
SK60	土坑	4	12	円	0.27	0.24	0.29		柱頭?			
SK61	土坑	5	11	椭円	0.47	0.35	0.26		SK61~SD4		18	
SK62	土坑	4	10	円	0.24	0.20	0.28		SK62~SD3		18	
SK64	土坑	5	11	(円)	0.49 (0.34)	0.16			SK64~SD4			
SK67	土坑	2	10	椭円	0.32	0.24	0.28					
SK68	土坑	1~2	14	円	0.65	0.63	0.24		SK68~SD6			
SK69	土坑	2	11	円	0.23	0.23	0.09					
SK72	土坑	9	5	椭円	0.42	0.30	0.40					
SK73	土坑	8	5	円	0.38	0.35	0.33					
SK74	土坑	9	5	椭円	0.27	0.15	0.15					
SK75	土坑	11	4	円	0.27	0.27	0.17					
SK76	土坑	12	4	椭円	0.29	0.24	0.14					
SK77	土坑	12	4	椭円	0.50	0.35	0.13					
SK80	土坑	18	3~4	不整	2.35 (1.10)	0.41	珠洲		SK80~SD2?	噴砂に切られる 2基の土坑が重複		
SK81	土坑	17	14	円	0.31	0.27	0.40					
SK83	土坑	16	10	椭円	(0.75)	0.48	0.31		SK83~SD38・SE82		16	
SK84	土坑	16	11	円	0.28	0.25	0.19		SK84~SD38			
SK85	土坑	16	11	円	0.27	0.27	0.33		SK85~SD38	柱頭?	21	
SK86	土坑	18	8	椭円	0.45	0.25	0.13					
SK87	土坑	17	8	円	0.24	0.20	0.11					
SK88	土坑	17	7	椭円	0.29	0.22	0.45					
SK91	土坑	16	9	椭円	0.41	0.32	0.17			φ20cmの椎上面は水平 に振る 硬石?	21	
SK92	土坑	17	9	椭円	0.39	0.30	0.18				21	
SK93	土坑	17	9	不整	0.61	0.44	0.22	珠洲			21	6
SK95	土坑	17	8	円	0.32	0.30	0.27				21	

第10表 水橋池田館遺跡土坑一覧(2)

遺構No	種類	座標		法量(m)			出土遺物	時期	切り合ひ	備考	持団	写真	
		X	Y	長	幅	深							
SK96	土坑	16	9	椭円	0.37	0.24	0.14						
SK97	土坑	17	9	椭円	0.24	0.18	0.20						
SK98	土坑	6	7	円	0.27	0.25	0.26			φ3kmの円錐上面(112) 水平に推する 砂石か?	21	6	
SK99	土坑	6	8	椭円	0.36	0.27	0.14						
SK100	土坑	12	10	円	0.33	0.28	0.30	木製品(柱根)			柱根残存 2基重複か?	19-20	6
SK101	土坑	8	10	円	0.30	0.28	0.35	木製品(柱根)			柱根残存	21	
SK106	土坑	17	15	(不整)	(1.00)	(0.26)	(0.34)			調査区東壁にかかる 樹木溝で隠される			
SK107	土坑	18	4	(円)	0.35	(0.12)	0.44			調査区北壁にかかる	20		

第11表 水橋池田館遺跡井戸一覧

遺構No	種類	座標		法量(m)			出土遺物	時期	切り合ひ	備考	持団	写真
		X	Y	長	幅	深						
SE25	井戸?	12	10	円	0.74	0.65	0.62	珠	SE25>SX24	素掘井戸か? 塵土中下位に埋入る 大型方彌形土坑SX24南辺に位置する	19-20	5
SE53	井戸?	16	11	円	0.71	0.67	1.03		SE53>SD38	素掘井戸	16	5
SE63	井戸?	7	14	椭円	0.73	0.60	0.68		SE63>SD6	大型方形土坑の西辺に位置する 素掘井戸	16	
SE65	井戸?	5	10	椭円	0.73	0.61	1.29	珠洲・越中瀬戸	SE65>SD3	素掘井戸	16	
SE66	井戸?	4~5	10	椭円	0.78	0.78	1.23		SE66>SD3	素掘井戸	16	
SE70	井戸?	1	10~11	円	0.58	0.55	1.08	中世土器・越中瀬戸		素掘井戸	16	
SE71	井戸?	9	4~5	円	0.70	0.66	0.56			素掘井戸	16	
SE78	井戸?	12~13	3	(円)	0.80	(0.55)	1.00	中世土器・越中瀬戸・木製品(漆 器、瓶、壺、器、盆、鉢、桶、枕、枕 器、棒状、杖)		調査区西壁にかかる 素掘井戸	16	5
SE82	井戸?	16	10~11	椭円	0.80	0.72	0.86	石製品(五輪塔)	SE82>SKG3, SE82>SD38	堆土中位から20cmの内 側に埋める 素掘井戸か?	16	5
SE89	井戸?	15~16	19	円	0.65	0.65	1.00		SE89>SD6, SE89>SD39	素掘井戸	17	
SE90	井戸?	17	9	円	0.63	0.56	0.64		SE90>SD39	素掘小土坑と重複 素掘井戸	17	
SE94	井戸?	16~17	8	椭円	0.65	0.54	0.82	中世土器		調査区東壁にかかる 素掘井戸	17	
SE104	井戸?	4	15	(不整)	1.65	(0.30)	0.75			素掘井戸	17	
SE106	井戸?	17	10	不整	1.00	0.82	0.41		SE106>SD38	SX38背面で検出 素掘井戸 植出面からの 深さ0.62m	17	

第12表 水橋池田館遺跡溝一覧

遺構No	種類	座標		法量(m)			出土遺物	時期	切り合ひ	備考	持団	写真
		X	Y	幅	深							
SD1	溝	1~14	2~7	390	0.70		青磁・越中瀬戸・伊万里?・ 笠置器			L字状に屈曲 SD2と 二重に造る 内堀	22	3
SD2	溝	1~17	1~9	2.70	0.54		土器器、須恵器、中世土 器等、珠洲・越前・瓦質 土器、白磁・青磁・越中 瀬戸・唐津・珠洲	SD2>SD3・SD102・SD103, SD2>SX79・SX80	L字状に屈曲 SD 1 と二重に造る 外堀 屈曲部に一部石積み等 の護岸の痕跡か	22	3	
SD3	溝	1~7	10	0.40	0.32		中世土器	SD3>SD62・SD65・SD66, SD3>SD2	SD3・4・5・102と並走 南北溝	22	4	
SD4	溝	1~11	10~12	0.63	0.17		弥生土器・中世土器・ 珠洲	SD3>SD1・SD54, SD4>SD9	SD3・4・5・102と並走 南北溝	22		
SD5	溝	1~11	12~14	0.75	0.18		中世土器	SD5>SD9, SD5>SD6・SD8	SD3・4・5・102と並走 南北溝	22		
SD6	溝	1~15	10~14	4.65	0.20	b 0.55	中世土器・珠洲・越中 瀬戸・唐津・石製品(砾石)	SD6>SD5・SD8・SKG6・ SD3>SK6・SD6・SK10・SK11・ SX24・SD38・SE9	南北端はa・b合流する	22	22	
SD7	溝	10~18	11~15	0.72	0.22		中世土器・珠洲・越中 瀬戸・唐津・石製品(砾石)	SD7>SK26・SD7>SD21・SD38	L字状に屈曲	21~23	4	
SD8	溝	5~8	12~13	0.62	0.08			SD8>SD5・SD8>SD6	SD8・5~102と並走 南北溝	22		
SD9	溝	11	9~12	0.77	0.09		中世土器	SD9>SD4, SD9>SD5	東西溝	19~20		
SD21	溝	13~14	15	0.70	0.16			SD21>SD7	調査区東壁にかかる 南北溝	21	4	
SD38	溝	14~18	10~11	2.50	0.31		中世土器・珠洲・越中 瀬戸・唐津	SD38>SD6・SD7・SD33・SP02・ SD33・SK84・SK65・SD108, SD38>SX24・SD39・SD51		23		
SD39	溝	14~18	9~10	1.14	0.26		中世土器・珠洲・越中瀬戸・ 唐津・金屬製品(銭)	SD39>SX24・SD38 ?・SE89・ SE90	SX24に続く溝か?	23	4	
SD51	溝	14~15	11~12	0.23	0.34			SD51>SD38				
SX79	溝?	17~18	6~8	4.50	0.57		土器器(古代以前?)・中 世土器・珠洲・青磁・ 越中瀬戸・唐津	SX79>SD2 ?	集石あり 塚状? SD30と続く?	21~23	4	
SD102	溝	1~6	8	0.55	0.07			SD102>SD2	SD3・4・5・102と並走 南北溝	23		
SD103	溝	18	2	1.00	0.50		越前?・越中瀬戸・唐津	SD103>SD2 ?	調査区北壁にかかる 南北溝	23	4	
SD105	溝	18	1	(0.45)	0.04				調査区北壁にかかる 東西溝	23		

第13表 水橋池田館遺跡土器・陶磁器一覧(1)

測定番号	文様	出土地点	種類	基盤	底面(㎝)	底面 直径 幅 高さ	時期	船上色調		船上底調		総面	参考	
								記号	色名	記号	色名			
1	9	S24	X1Y12	舟形土器	圓	16.0		25Y7-2	灰褐色				明確調査	
2	9	427	面+△-5m I	舟形土器	圓	13.6		10Y7-3	灰い黃褐色				石美、蟹目	
3	9	S22直絞	X13-14V	舟形	柱	12.3	3.3	8.8	25Y6-1	黄灰			内曲部直絞付	
4	9	437	I型	舟形器	圓			5Y6-3	灰色				内曲部直絞付	
5	9	21T	面+△-5.8m	舟形器	圓			75Y6-1	灰色					
6	9	S22	X1Y10	舟形	圓	14.2		3Y8-1	灰白色	73GY7-1	明確な名、 舟形器	13時輪花既		
7	9	417	舟上	舟形	圓	14.3		3Y7-3	灰白色	72Y5-2	灰オーラー色、 舟形器	13時輪刻文既?		
8	9	X1Y13II 線	舟形	圓				3Y8-1	灰白色	10Y5-2	オーラー色、 舟形器	舟形器		
9	9	SK11	X12Y13	舟形	圓		6.0	25Y7-1	灰白色	10Y5-2	オーラー色、 舟形器	高台丸文、高台敷施		
10	9	S25	X1Y13	舟形	圓			25Y7-1	灰白色	10Y5-2	オーラー色、 舟形器	高台丸文		
11	9	SX79	X17Y6-7	舟形?	圓			5.1	25Y7-2	灰黄色	10Y6-2	灰オーラー色、 舟形器	既然	
12	9	S24	X1Y7	舟形	圓			10.8	25Y7-1	灰白色	10Y6-2	灰オーラー色、 舟形器	高台敷施既?	
13	9	S22	X2-3Y10	舟形	小折?		5.0	25Y8-1	灰白色	25GY8-1	灰白色	高台底部を除く全面		
14	9	S22	X1Y18	舟形	柱	13.0		10Y7-2	灰い黃褐色					
15	9	S22	3M7Y	舟形	柱	9.6	2.2	3Y5-6	明示未記				赤毛粒	
16	9	S22直絞	X13-14Y7	舟形	柱	8.4	1.7	25Y7-2	灰黃色					
17	9	S22	X13-14Y9	舟形	柱	7.7	1.2	10Y7-3	灰い黃褐色					
18	9	S22	X2-3Y12	舟形	柱	8.4	2.0	10Y7-2	灰い黃褐色					
19	9	S25	X1Y19	舟形	柱	8.0		25Y8-4	灰い褐色					
20	9	S25	X1Y19	舟形	柱	8.4	2.2	10Y7-2	灰い黃褐色				赤毛粒	
21	9	S25	X1Y19	舟形	柱	8.9	2.4	10Y7-2	灰い黃褐色				13時輪内外付帯	
22	9	S25	X1Y22	舟形	柱	8.2		75Y7-2	灰褐色				赤毛粒	
23	9	S25	X1Y8	舟形	柱	9.0		10Y7-2	灰い褐色				赤毛粒	
24	9	S24	X3Y12	舟形	柱	7.0		10Y7-2	灰褐色					
25	9	S26	X6Y14	舟形	柱	7.3	1.0	25Y8-2	灰白色					
26	9	S25	X3Y15	舟形	柱	8.0		10Y7-2	灰い褐色				赤毛粒	
27	9	S25	X3Y15	舟形	柱	8.4		25Y7-2	灰い褐色				赤毛粒	
28	9	S25	X3Y12	舟形	柱			10Y7-2	灰褐色				内曲部復付帯	
29	9	S25	X3Y12	舟形	柱			10Y7-2	灰褐色				赤毛粒	
30	9	S25	X1Y19	舟形	柱	8.0		25Y7-2	灰褐色				赤毛粒	
31	9	S25	X1Y19	舟形	柱	9.8		10Y7-2	灰褐色				赤毛粒	
32	9	S25	X1Y19	舟形	柱	9.0	1.4	25Y7-2	灰褐色				赤毛粒	
33	9	S25	X1Y19	舟形	柱	8.8	1.3	10Y7-2	灰白色				13時輪底部復付帯 赤毛粒	
34	9	S24	X1Y15	舟形	柱	8.0		7.5Y9B-3	淡黃褐色					
35	9	S28	X1Y11	舟形	柱	11.0		25Y7-3	淡褐色					
36	9	S29	X1Y19	舟形	柱	11.0		7.5Y7C-3	淡褐色				赤毛粒	
37	9		X12Y4-5-1	舟形	柱	8.0		10Y7B-3	淡黃褐色					
38	9	SX79	X17Y6-7	舟形	柱	12.5	2.3	75Y7C-2	褐色				13時輪内外付帯アーチ 赤底付着	
39	9	SX79	X17Y6-7	舟形	柱	7.8	1.4	10Y7-2	灰い黃褐色				赤毛粒	
40	9	SX79	X17Y6-7	舟形	柱	8.1	1.4	7.5Y7C-6	褐色				13時輪内外付帯アーチ 赤底付着	
41	9	SX24-A	中空土器	圓		11.0		10Y7A-1	褐風化				内曲部タール状付着 既既	
42	9	SX24-A	中空土器	圓		10.0	1.5	25Y7-2	灰白色					
43	9	SX24-A	中空土器	圓		8.2	(2.0)	5Y6-6	褐色					
44	10	S22	X17Y2	溝附	縫隙		V期?	25Y8-1	灰風化				既既	
45	10	S22	X9Y8	溝附	縫隙			5Y6-3	灰色				25cm 間隔各1早目の 既既	
46	10	S27	溝附	縫隙				25Y8-1	黑灰				25cm 間隔各1早目の 既既	
47	10	SX79	X17Y6-7	溝附	縫隙			3Y6-1	灰色				既既	
48	10	SX79	X17Y6-7	溝附	縫隙			3Y6-1	灰色				25cm 間隔各1早目の 既既	
49	10	SX79	X17Y6-7	溝附	縫隙			3Y6-1	灰色				既既	
50	10	S22	X2-3Y10	溝附	縫隙		14.0	3Y6-1	灰色				25cm 間隔各1早目の 既既	
51	10	SX20	溝附	縫隙		10.0		5Y6-3	灰色				既既	
52	10	SX24-A	溝附	縫隙		20.0		25Y5-1	黑色				2.5cm 間隔各1早目の 既既	
53	10	SX79	X17Y6-7	溝附	縫隙	21.6		V期?	25Y5-1	黑色			既既	
54	10	SX79	X17Y6-7	溝附	縫隙	30.2		V期?	25Y6-1	灰色			既既	
55	10	X18Y5-1層	溝附	縫隙		26.2		3Y5-1	灰色				25cm 間隔各1早目の 既既	
56	10	S22	X9Y9	溝附	縫隙		11.9		3Y6-1	灰色				18cm 間隔各1早目の 既既
57	10		耕土	溝附	縫隙		12.0		25Y5-1	黑色				既既
58	10	S80S	溝附	圓			V期?	3Y6-1	灰色					
59	10	S22	X9Y9	溝附	圓			25Y5-1	黑色					
60	10	S26	X5Y14	溝附	圓			3Y6-1	灰色					

第13表 水橋池田館遺跡土器・陶磁器一覧（2）

測定 番号	古名	地区	遺物	出土地点	種類	形様	底質	底色	邊縁	時間	胎土色調			胎色調			備考	
											記号	色名	記号	色名	記号	色名		
61	S06	X17V14	築堤	築堤	柱頭	11時	底高	底深	底縁	2356/1	黄褐色							
62	SX06	X17V15	築堤	築堤	柱頭					SY5-1	褐色							
63	30	SX24-A	築堤	築堤	柱頭					2356/1	黄褐色						内部白色物質剥出に付する	
64	10	SZ25	築堤	築堤	柱頭					SY4-1	褐色						内部白色物質剥出に付する	
65	SX29	X17V6-7	築堤	築堤	柱頭					SY5-1	褐色						内部白色物質剥出に付する	
27	66	10	SZ28	X18V11	築堤	築堤				(16.5)	2356/1	黄褐色						内部白色物質剥出に付する
	67	SZ2	X14V6	築堤	築堤					SY5-1	褐色						内部白色物質剥出に付する	
	68	10	SZ29	X13-14V9	築堤	柱頭				V期	2355/1	黄褐色						内部白色物質剥出に付する
	69	10	SZ7	X14V15	築堤	築堤				4.2	SY4-1	褐色						内部白色物質剥出に付する
	70	10	SZ2	X18V10	築堤	築堤				10.0	73V37/4	江戸時代						内部白色物質剥出に付する
	71	10	SZ2	X14V16	築堤	築堤				9.8	SY5-1	褐色						内部白色物質剥出に付する
	72	11	SZ4	X16V7	築堤側口	築堤				5.0	~17C前	10V37/4	江戸時代	SY8-2	米白色	灰輪		内壳灰 10V37/4付近付白？
	73	11	SZ2	X17V7	築堤側口	築堤	11.2	28		5.0	16C後半 ~17C	73V35-3	江戸時代	SY5-2	灰オリーブ色	灰輪		内壳灰 灰込泥灰 16C後半 ~17C付近付白？
	74	12	3T	見込み47m	築堤側口	築堤	11.8	25		4.8	17C前~	23V8-3	淡褐色	73V85-4	江戸時代	灰輪		SZ05土壤付 内壳灰 灰込泥灰 17C前付白？
	75	SZ7	X13V15	築堤側口	築堤	11.0	24		4.2	~17C前	73V36-3	江戸時代	23V6/4	江戸時代	灰輪		内壳灰 灰込泥灰 17C前付白？	
	76	SZ7	X14V15	築堤側口	築堤					5.0	~17C前	10V36/1	築堤	SY4-3	灰オリーブ色	灰輪		内壳灰 見込み47m付近付白？
	77	12	SZ2	X2-3V10	築堤側口	築堤	11.2	26		3.8	~17C前	73V37/3	江戸時代	23V8-2	米白色	灰輪		内壳灰 固り直し真っ白？手削れ 天文大正？
	78	12	SZ2	X4V10	築堤側口	築堤	10.6	23		4.0	~17C前	10V37/3	江戸時代	23V8/2	米白色	灰輪		内壳灰 見込み47m付近付白？
	79	SZ2	X5V13	築堤側口	築堤	3.9	28		4.2	~17C前	73V37/4	江戸時代	23V7/2	米白色	灰輪		内壳灰 見込み47m付近付白？	
	80	12	SZ2	X4V10	築堤側口	築堤	11.2	24		4.8	~17C前	73V37/4	江戸時代	23V8/2	米白色	灰輪		内壳灰 固り直し真っ白？
	81	12	SZ2	X17V2	築堤側口	築堤	11.0	29		4.5	~17C前	73V36/3	江戸時代	23V7/2	米白色	灰輪		内壳灰 見込み47m付近付白？
	82	12	SZ2	X2-3V10	築堤側口	築堤	10.9			~17C前	73V36/3	江戸時代	23V7-2	米黄色	灰輪		内壳灰	
	83	SZ29	X15-16V8	築堤側口	築堤				4.2	~17C前	23V6/6	米色					内壳灰 体部下空軽度アラカルト 固り直し真っ白？	
	84	12	SZ7	X13V15	築堤側口	築堤	11.4	24		4.9	~17C前	10V37/3	江戸時代	23V5/4	淡褐色	灰輪		内壳灰 見込み47m付近付白？
	85	12	SZ7	X13V15	築堤側口	築堤	10.4	29		4.6	~17C前	10V37/4	江戸時代	SY4-3	米白色	灰輪		内壳灰 体部下空軽度アラカルト 固り直し真っ白？
	86	12	SZ7	X13V15	築堤側口	築堤	10.7	25		4.0	~17C前	10V36/2	米黃褐色	23V6/1	米白色	灰輪		内壳灰 花込み 13V付近付白？
	87	SZ7	X14V15	築堤側口	築堤			5.0		~17C前	73V36/3	江戸時代	SY8-2	米黃褐色	灰輪		内壳灰 花込み 13V付近付白？	
	88	SZ7	X7V15	築堤側口	築堤				4.8	~17C前	23V7/3	淡褐色	23V8/2	米白色	灰輪		内壳灰 花込み 13V付近付白？	
	89	SZ7	X14V15	築堤側口	築堤				6.0	~17C前	73V36/3	江戸時代	SY3-3	明赤褐色	灰輪		内壳灰 花込み 13V付近付白？	
	90	11	SZ2	X2-3V10	築堤側口	築堤	10.6	25		4.0	~17C前	73V37/4	江戸時代	23V8/4	江戸時代	灰輪		内壳灰 固り直し真っ白？
	91	11	SZ2	X2-3V10	築堤側口	築堤	10.4	27		4.2	~17C前	SY36/4	江戸時代	23V7/3	米白色	灰輪		内壳灰 固り直し真っ白？
	92	11	SZ2	X13V10	築堤側口	築堤	13.2	29		4.8	~17C前	10V36/3	江戸時代	SY3-3	明赤褐色	灰輪		内壳灰 花込み 13V付近付白？
	93	11	SZ6	X3V15	築堤側口	築堤	10.8	22		4.8	~17C前	73V37/4	江戸時代	23V8/1	米白色	灰輪		内壳灰 固り直し真っ白？
	94	SZ6	X3V15	築堤側口	築堤				4.0	~17C前	73V37/4	江戸時代	SY3-3	明赤褐色	灰輪		内壳灰 固り直し真っ白？	
	95	11	SX79	X17V6-7	築堤側口	築堤				4.5	17C前~	73V37/4	江戸時代	SY4-1	明赤褐色	灰輪		内壳灰 花込み 13V付近付白？
	96	11	SX79	X17V6-7	築堤側口	築堤				3.8	~17C前	23V7-1	米白色	SY5-4	オリーブ色	灰輪		内壳灰 花込み 13V付近付白？
	97	12	SZ29	X16V9	築堤側口	築堤	11.0			17C前~	10V38/3	浅黃褐色	73V34/4	褐色	灰輪		ジヤ強 10V38/3(10V22-1頭孔) 分厚い	
20	100	SZ29	X16V11	築堤側口	築堤	11.2			17C前~	10V37/4	江戸時代	10V37/2	江戸時代	灰輪				

第13表 水橋池田館遺跡土器・陶磁器一覧(3)

編番	資料番号	写真	出土地点	地盤	種類	器種	底面 (cm)	底面 直径	底面 形状	底面 高さ(cm)	時期	船上色調		船上底調		鉢蓋	参考		
												記号	色名	記号	色名				
99	11	S208	X16Y11	越中礪ヶ丘	瓦						47	-17C前	7SY27-4	に赤い黒褐色	2SY8-2	灰白色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
100	11	S205	越中礪ヶ丘	瓦			120	27			43	-17C前	10Y27-3	に赤い黄褐色	2SY8-2	灰褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
101	11	S208	X16Y11	越中礪ヶ丘	瓦						54	-17C前	10Y27-3	に赤い黄褐色	2SY8-3	褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
102	11	S208	越中礪ヶ丘	瓦			106	23			46	-17C前	10Y27-3	に赤い黄褐色	2SY8-1	灰白色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆焼き有 り。内定丸	
103	11	S208	X16Y11	越中礪ヶ丘	瓦		11.0	30			6.5	-17C前	10Y27-3	に赤い黄褐色	2SY8-4	褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
104		S20	越中礪ヶ丘	瓦							6.2	-17C前	2SY7-1	灰白色	2SY8-1	に赤い青褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
105		S20	越中礪ヶ丘	瓦							6.2	-17C前	2SY7-1	灰白色	2SY8-1	に赤い青褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
106		S20	越中礪ヶ丘	瓦							11.2	-17C前	10Y27-3	に赤い黄褐色	2SY7-3	浅黄色	灰褐色	内光面	
106		井上	越中礪ヶ丘	瓦							5.6	-17C前	2SY8-2	灰褐色	2SY8-4	に赤い黄褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
107	12	S203	X1HY2	越中礪ヶ丘	瓦			11.2				-17C前	10Y27-3	灰白色	2SY8-2	暗褐色	灰褐色	天日棒形	
108	12	S20	X5Y14	越中礪ヶ丘	瓦						4.8	-17C前	10Y26-3	に赤い黄褐色	2SY8-3	褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
109	12	SX79	X17Y6-7	越中礪ヶ丘	瓦		10.0				-17C前	5Y2-1	灰褐色	2SY8-3	褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸		
110		S20	X17Y7	越中礪ヶ丘	瓦						4.6	-17C前	10Y26-3	に赤い黄褐色	2SY8-2	暗褐色	灰褐色	部出し窓台	
111	12	S20	X5Y15- X1Y15-1	越中礪ヶ丘	瓦		10.2				1SY前	10Y26-2	灰褐色	2SY8-6	暗褐色	灰褐色	内光面		
112	12		X17Y15-1	越中礪ヶ丘	瓦						4.8	-17C前	10Y27-3	に赤い黄褐色	2SY8-2	褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
113	12		X17Y15-1	越中礪ヶ丘	瓦						1.9	-17C前	2SY7-3	に赤い黄褐色	2SY8-2	暗褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
114	17		軒下-6.2m 直角面上	越中礪ヶ丘	瓦		13.2				17C前	10Y27-4	に赤い黄褐色	2SY8-2	暗褐色	灰褐色	大穴?		
115	27		軒下-6.2m 直角面上	越中礪ヶ丘	瓦		12.2				17C前	2SY7-3	に赤い黄褐色	2SY8-2	褐色	灰褐色	大穴?		
116		S208	X16Y11	越中礪ヶ丘	瓦		10.0					17C前	2SY7-3	に赤い黄褐色	2SY8-2	褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
117		S208	X16Y11	越中礪ヶ丘	瓦		11.3					-17C前	10Y27-3	に赤い黄褐色	2SY8-2	褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
118	12	S20	X16Y11	越中礪ヶ丘	瓦		14.0					-17C前	10Y27-3	に赤い黄褐色	2SY8-2	褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
119		S209	X18Y9	越中礪ヶ丘	瓦		14.9					-17C前	5Y30-6	に赤い青褐色	2SY8-2	褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
120	12	SX79	X17Y6-7	越中礪ヶ丘	瓦		12.0					-17C前	2SY7-2	灰褐色	2SY8-3	に赤い青褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
121		S20	X2-27Y10	越中礪ヶ丘	瓦		6.2					-17C前	10Y30-3	に赤い青褐色	2SY8-3	褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
122	12	S20	X12-14Y9- X13Y9	越中礪ヶ丘	瓦						(11.0)	-17C前	2SY8-2	淡黄色	2SY8-4	暗褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
122	12	S20裏見	X12-14Y9	越中礪ヶ丘	瓦						12.4	-17C前	2SY8-2	淡黄色	2SY8-3	板附小細孔	灰褐色	底面付小細孔	
123	12	S20	X15Y10	越中礪ヶ丘	瓦						(11.0)	-17C前	7SY96-4	に赤い青褐色	2SY8-2	暗褐色	灰褐色	一部内面 110Y30-3 底面付小細孔	
124	12	S20	X15Y10	越中礪ヶ丘	瓦						10.8	-17C前	10Y27-2	に赤い青褐色	2SY8-2	暗褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
125	13	S20	X9Y9	越中礪ヶ丘	瓦						11.4	-17C前	10Y27-3	に赤い青褐色	2SY8-2	暗褐色	灰褐色	27cm幅13年1月の 新日 石回り被伏状 内面付小細孔	
126	13	SX79	X17Y6-7	越中礪ヶ丘	瓦						(11.0)	-17C前	7SY96-4	に赤い青褐色	2SY8-2	暗褐色	灰褐色	25cm幅13年1月の 新日 石回り被伏状 内面付小細孔	
127	13	S20	X9Y9	越中礪ヶ丘	瓦						10.8	-17C前	10Y27-3	に赤い青褐色	2SY8-2	暗褐色	灰褐色	25cm幅13年1月の 新日 石回り被伏状 内面付小細孔	
128	13	S20	X5Y18	越中礪ヶ丘	瓦						11.0	-17C前	10Y27-6	明黃褐色	2SY8-3	に赤い青褐色	灰褐色	29cm幅13年1月の 新日 石回り被伏状 内面付小細孔	
129	13	S20	X17Y5	越中礪ヶ丘	瓦							-17C前	7SY98-3	明黃褐色	2SY8-2	暗褐色	灰褐色	29cm幅13年1月の 新日 石回り被伏状 内面付小細孔	
130	13	S20	X5Y18	越中礪ヶ丘	瓦						9.8	-17C前	10Y27-2	に赤い青褐色	2SY8-3	暗褐色	灰褐色	29cm幅13年1月の 新日 石回り被伏状 内面付小細孔	
131	13	17	東から15.8m 越中礪ヶ丘	越中礪ヶ丘	瓦							17C前	5Y27-6	褐色	2SY8-4	に赤い青褐色	灰褐色	S20上から2.3m 底面付小細孔	
132	12	S20	X13-14Y9- X13-14Y9	越中礪ヶ丘	瓦						36.0	-17C前	10Y27-4	に赤い青褐色	2SY8-2	暗褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
133		S20	X2-27Y10	越中礪ヶ丘	瓦			12.2					-17C前	2SY7-1	灰褐色	2SY8-4	褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸
134	12	S209	X18Y9	越中礪ヶ丘	瓦						17.6	-17C前	10Y27-1	灰褐色	2SY8-4	褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸	
135	12	SX79	X17Y6-7	越中礪ヶ丘	瓦			14.0					-17C前	10Y27-2	に赤い青褐色	2SY8-4	褐色	灰褐色	内光面 見込み16世 紀後半文、錆止紋 模様有り。縁付有 り。内定丸
136	13	S20裏見	X13-14Y9- X13-14Y9	越中礪ヶ丘	瓦			12.6					-17C前	10Y27-3	に赤い青褐色	2SY8-4	褐色	灰褐色	外側付材

第13表 水橋池田館遺跡土器・陶磁器一覧(4)

辨団	遺物 番号	写真	出土地点 地区 遺構 座標	種類	形様	数量 (個)	時期	出土色調		地色調		備考		
								記号	色名	記号	色名			
31	138	13	SDH10	X14Y2	青津	瓶	99	34	56	73Y36-4	青い褐色	SY6-2	青キリーブ色	
	139	13	SD1	X0Y7	波状陶器	瓶	86			10Y36-3	青素面	SY8-1	青白色	
	140	13	SD7	X4Y15-1	青津	瓶	82			~12C前	11.2-青粉色	23Y6-2	青黄色	
	141	13	SD7	X4Y15	青津	瓶			50	10Y36-2	青素面	SY6-2	青白色	
	142	13	SD2	X12Y8-9	青津	瓶			50	10Y36-2	青素面	10Y6-1	青白色	
	143	13		X3Y13-1	青	伊万里	瓶	80		18C後~	73Y8-1	青白色		

第14表 水橋池田館遺跡木製品一覧

辨団	遺物 番号	写真	出土地点		台帳番号	種類	樹種	法量(cm)			備考	
			地区	遺構				長	幅	厚		
31	144	14	43T		M180001	漆器椀	ブナ属	(124)	(122)	(35)	高台跡推定5.8cm 内外黒色漆 高台裏赤色漆書	
	145	14	SE78		M180002	漆器椀	ブナ属	(6.5)	(30)	(0.5)	口径推定14.4cm 内外黒色漆	
	146	14	SE78		M180003	底板	スギ	24.2	(119)	0.7	円形板 孔3ヶ所 表面風化?	
	147	14	SE78		M180005	棒状加工品	ブナ属	(14.5)	1.6	0.8		
	148	14	SE78		M180006	箸	ムクジ	(6.2)	0.8	(0.6)	両端欠損	
	149	14	SE78		M180007	曲物	ヒノキ	(7.8)	(23)	0.1	小片 鈫孔?	
	150		SD2東脇	X13~14Y9	M180009	杭?		70.3	24	2.4	29例 廉食進む 通岸用の枝?	
32	151	14	SK100	No1	M180010	柱	スギ	(46.7)	11.4	14.0	SD2コーナー付近の集石付近 出土	
	152		SK100	No2	M180011	柱		(64.8)	17.2	17.1	廉食進む 表面トロトロ	
	153	14	SE78		M180004	杭		32.2	4.1	3.5	一部樹皮? 残存	
	154	14	SK101		M180008	柱		(30.3)	(7.1)	(6.3)	両端欠損 廉食進む	

第15表 水橋池田館遺跡石製品一覧

辨団	遺物 番号	写真	出土地点		台帳番号	種類	石材	法量(cm・g)			時期	備考
			地区	遺構				長	幅	厚		
33	155	14	SE82		I180002	五輪塔 (空風輪)	角閃石 安山岩	20.4	14.8	14.2	5400	
	156	13	SD7	X13Y15	I180001	砥石	矽灰岩	(6.6)	(6.3)	(3.0)	144.03	砥面2面

第16表 水橋池田館遺跡金属製品一覧

辨団	遺物 番号	写真	出土地点		台帳番号	種類	材質	法量(cm・g)			時期	備考
			地区	遺構				長	幅	厚		
33	157	13	SD39	西脇	X16Y9	K180001	鉄	2.3	2.3	0.1	1.97	1368年初鉄 洪武寶 明鉄
	158	13	SD39	西脇	X16Y9	K180002	鉄	(2.3)	(2.3)	0.1	1.64	1078年鉄鉢 元通寶 北宋鉄

第IV章 水橋池田館II遺跡

1 概 要

水橋池田館II遺跡は、常願寺川と白岩川に挟まれた低地部に位置し、白岩川と屈曲する川原田川によって三方を囲まれている。あいの風鐵道水橋駅の東側に位置し、線路沿いに広がる。水路・道路工事部分を対象に調査を行い、調査地区は31の小区にわかれている。現況は水田・畑で、標高は2.5～3.2mを測り、ほぼ平坦な地形である。

調査地区全域で砂層が厚く堆積しており、旧河道または洪水氾濫原と考えられる。遺構は盛土下で歓状遺構と溝を確認したが、一部盛土を切り込んでおり現代のものとみられる。遺物は伊万里の小片1点のみである。

2 層 序

基本層序は、I層：灰黄褐色砂質土・褐灰色砂質シルト（表土・耕作土）、II層：砂混じりのオリーブ褐色砂質土、黄褐色砂質シルト、褐色砂質土、シルトブロック混じりの暗灰黄色砂質土（盛土）、III層：にぶい黄褐色砂質シルト、褐灰色砂質シルト、灰色砂質シルト、黃灰色砂（洪水層）、IV層：灰オリーブ色粗砂、灰黄色粗砂（洪水層）、V層：灰色粗砂、黃灰色砂質シルト（洪水層）、VI層：褐灰色粘土質シルト（湿地状）となる。

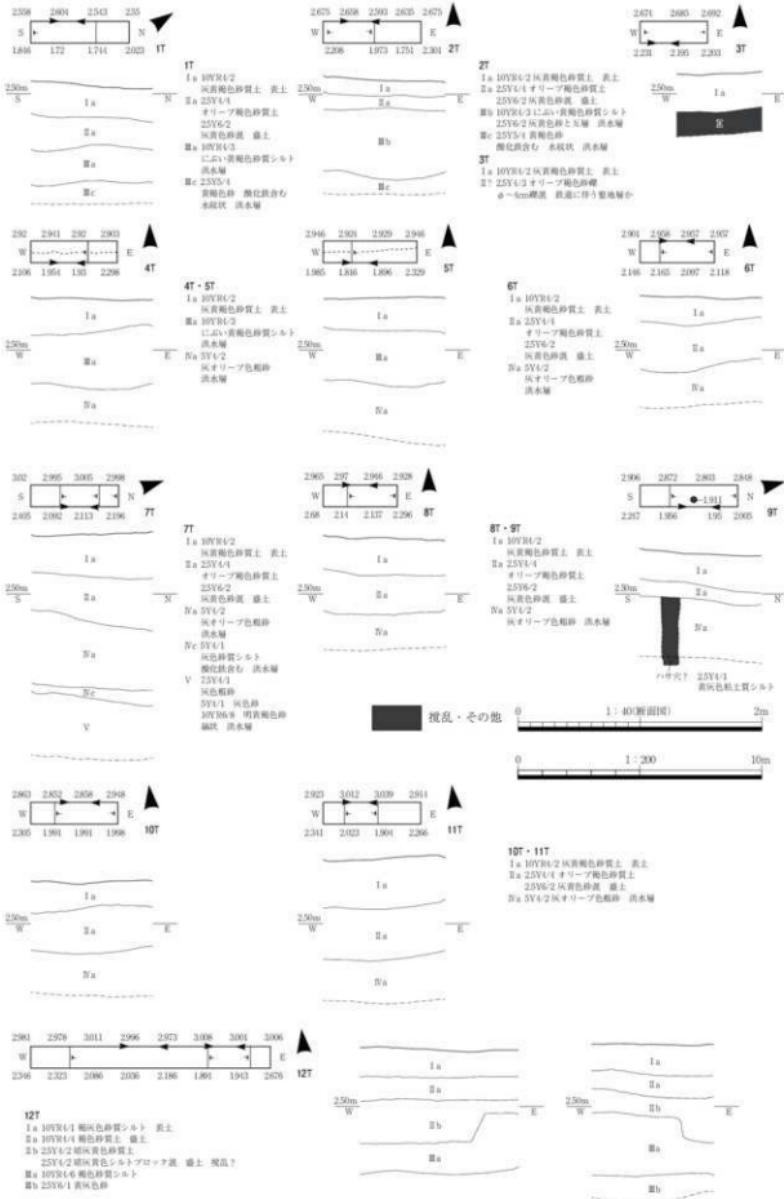
III層は砂とシルトが縞状に入るもののや、酸化鉄が水紋状のシミとなる砂質層で、調査地区全域で厚く堆積し、洪水や旧河道などのある程度水流のある環境下にあったと考えられる。遺跡の北側（線路北側）ではIV層の粗砂が西に向かい厚くなる。明治24(1891)年の改修以前の常願寺川と白岩川の合流地点付近にあたることから、調査地区一帯は常願寺川の旧河道または洪水氾濫原と考えられる。

第17表 水橋池田館II遺跡基本層序

		T12~31		T1~11	
I	a	表土	10YR4/1 褐灰色砂質シルト		10YR4/2 灰黄褐色砂質土
	b				
II	a	盛土	10YR4/4 褐色砂質土		25Y4/4 オリーブ褐色砂質土
	b		25Y4/2 暗灰黄色砂質土	シルトブロック混	25Y5/3 黄褐色砂質シルト 酸化鉄多く含む
III	a	洪水層	10YR4/6 褐色砂質シルト		10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト
	b		5Y5/1 灰色砂質シルト		10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト
	c		25Y6/1 黄灰色砂		25Y6/2 灰黄色砂質シルト 酸化鉄水紋状
IV	a	洪水層	25Y5/3 黄褐色砂質シルト	酸化鉄水紋状	25Y5/4 黄褐色砂質シルト 酸化鉄水紋状
	b		5Y4/2 灰オリーブ色粗砂	酸化鉄含む	5Y4/2 灰オリーブ色粗砂
	c		25Y6/2 灰黄色粗砂		5Y4/1 灰色砂質シルト
V		洪水層	25Y5/1 黄灰色砂質シルト	25Y4/1 灰黄色粗砂 酸化鉄多く含む	5Y4/1 灰黄色砂 10YR6/8 明黄褐色砂 締状
VI		湿地状?	10YR4/1 褐灰色粘土質シルト		

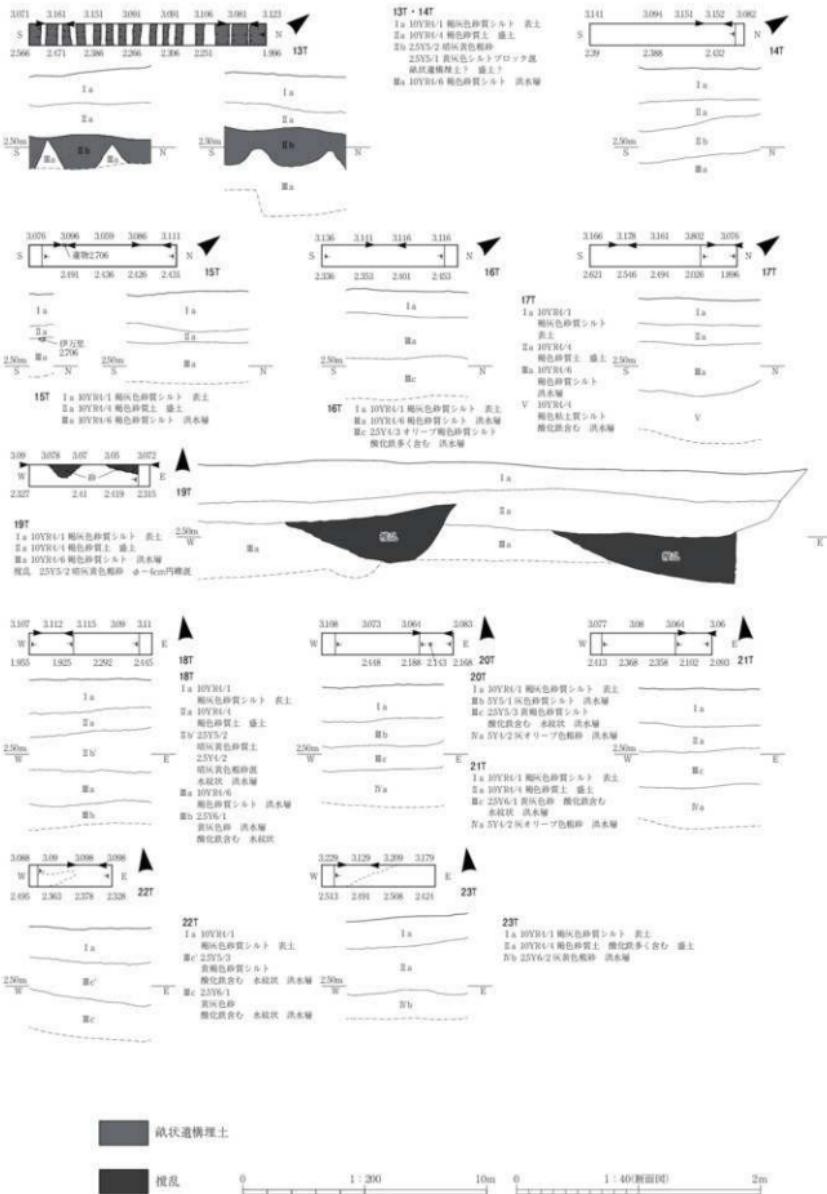
第18表 水橋池田館II遺跡調査地区一覧

No	規模 (m)		面積 (m ²)	遺構		遺物	現況 G L (m)	洪水層上 面 E L (m)	備考
	長	幅		種類	時期				
1	4.0	1.0	4.0				2.56	2.08	
2	4.0	1.0	4.0				2.65	2.43	
3	2.8	1.0	2.8	カクラン	現代		2.68		鉄道に伴う整地・盛土? カクラン上面EL 2.38m
4	3.5	1.0	3.5				2.92	2.69	
5	3.8	1.0	3.8				2.94	2.68	
6	3.0	1.0	3.0				2.95	2.42	
7	3.5	1.0	3.5				3.00	2.33	
8	3.0	1.0	3.0				2.95	2.39	
9	4.0	1.0	4.0				2.86	2.47	
10	3.7	1.0	3.7				2.88	2.33	
11	4.0	1.0	4.0				2.97	2.28	
12	9.8	1.0	9.8	カクラン	現代		2.99	2.61	
13	9.8	1.0	9.8	畝状造構 (畠)	現代		3.10	2.60	
14	6.2	1.0	6.2				3.12	2.75	
15	6.0	1.0	6.0			伊万里	3.09	2.72	
16	5.5	1.0	5.5				3.13	2.93	
17	6.0	1.0	6.0				3.16	2.80	
18	5.0	1.0	5.0				3.11	2.68	
19	5.0	1.0	5.0	カクラン	現代		3.07	2.63	
20	5.4	1.0	5.4				3.08	2.82	
21	5.0	1.0	5.0				3.07	2.63	
22	3.5	1.0	3.5				3.10	2.87	
23	4.6	1.0	4.6				3.19	2.97	
24	4.4	1.0	4.4	流路? カク ラン	現代		3.16	2.93	
25	4.0	1.0	4.0				3.14	2.86	
26	3.9	1.0	3.9				3.17	2.96	
27	4.4	1.0	4.4				3.06	2.76	
28	5.5	1.0	5.5				3.20	2.78	
29	2.4	1.0	2.4				3.14	2.78	
30	4.5	1.0	4.5				3.20	2.83	
31	4.4	1.0	4.4				3.26	2.86	

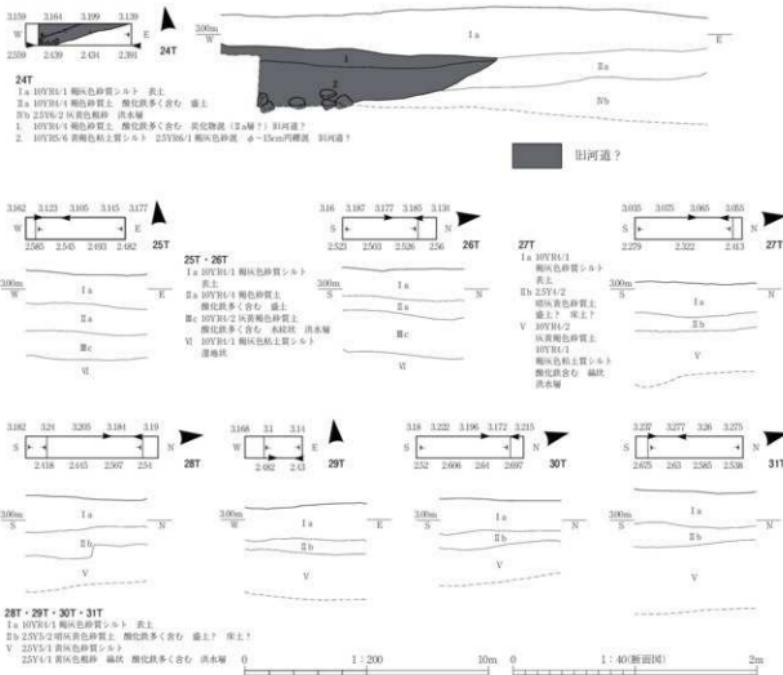


第34図 水橋池田館II遺跡 遺構実測図

1~12地図



第35図 水橋池田館II遺跡 遺構実測図
13~23地区



第36図 水橋池田館 II 遺跡・遺構実測図・調査地区位置図
24~31地区

第V章 水橋中村遺跡

1 概要

水橋中村遺跡は、常願寺川と白岩川に挟まれた低地部に位置し、水橋池田館遺跡の西方300mの田園地帯にある。水路・道路工事部分を対象に調査を行い、調査地区は12の小区にわかれており、現況は水田で、標高は4.23~4.46mを測る。

調査地区全域で構造・遺物は確認できなかった。調査地区南側は砂層が薄く、植物遺体を含む黒色粘土質シルト層が厚く堆積し、旧河道・湿地などの水位の高い状態であったと考えられる。

2 層序

基本層序は、I層：暗褐色砂質シルト、灰黃褐色砂質土（表土・耕作土）、II層：暗褐色砂質土～砂（盛土）、III層：灰色砂質シルト、褐色粗砂（洪水層）、IV層：オリーブ黑色粘土質シルト、黃灰色粘土質シルト（湿地状）、V層：灰色砂質シルト（湿地状）となる。

III層は黃灰色粗砂が縞状に入るもののや、酸化鉄が水紋状のシミとなる砂質層で、調査地区北側で確認できるが、6地区以南では薄くなる。IV層は植物遺体を含む粘土質シルト層で、調査地区一帯は湿地状の地形が広がっていたと考えられる。

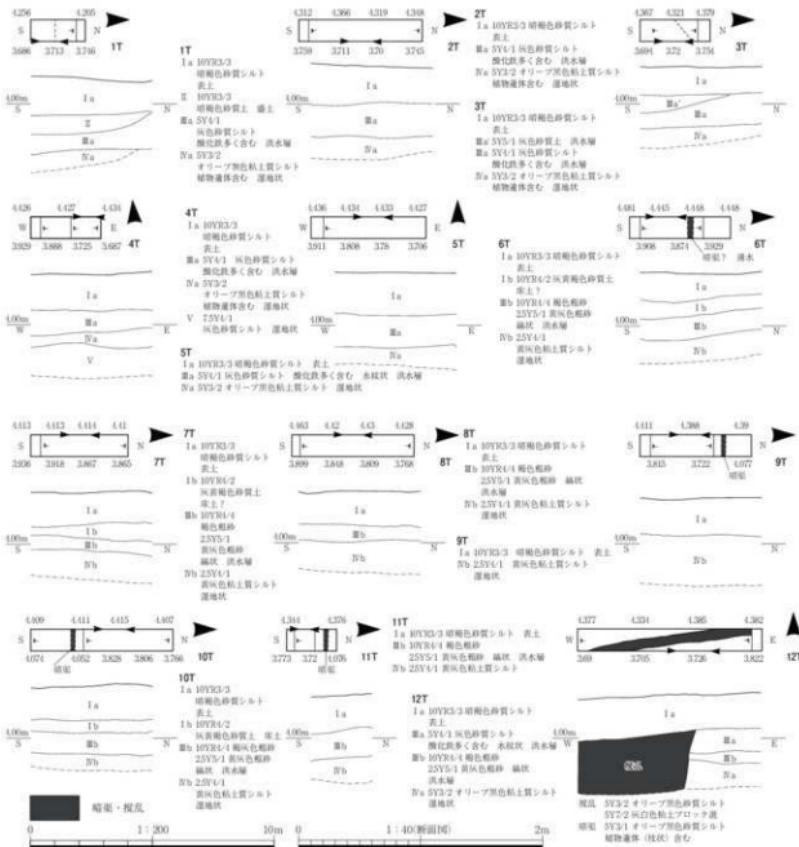
第19表 水橋中村遺跡基本層序

		記号	土質	備考
I	a	表土	10YR3/3 10YR4/2	暗褐色砂質シルト 灰黃褐色砂質土
	b			床土？
II	a	盛土	10YR3/3	暗褐色砂質土～砂
III	a	洪水層	5Y4/1	灰色砂質シルト
	b		10YR4/4	褐色粗砂
IV	a	湿地状	5Y3/2	オリーブ黑色粘土質シルト
	b		25Y4/1	黃灰色粘土質シルト
V		湿地状	75Y4/1	灰色砂質シルト

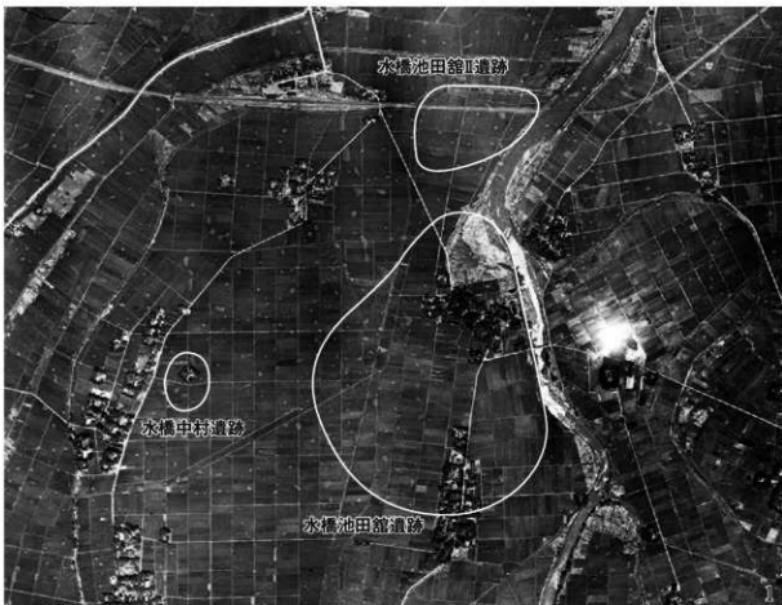
第20表 水橋中村遺跡調査地区一覧

No	規模 (m)		遺構		遺物	現況 G L (m)	洪水層上 面 E L (m)	備考
	長	幅	面積 (m ²)	種類	時期			
1	22	1.0	22			4.23	3.99	砂層下湿地状
2	50	1.0	50			4.34	4.04	砂層下湿地状
3	28	1.0	28			4.36	4.15	砂層下湿地状
4	30	1.0	30			4.43	4.16	砂層下湿地状
5	4.6	1.0	4.6			4.43	4.13	砂層下湿地状
6	40	1.0	40	暗渠	現代	4.46	4.14	砂層下湿地状
7	40	1.0	40			4.41	※ 4.05	湿地状
8	50	1.0	50			4.44	※ 4.15	湿地状
9	45	1.0	45	暗渠	現代	4.40	※ 4.10	湿地状
10	60	1.0	60	暗渠	現代	4.41	※ 4.12	湿地状
11	20	1.0	20	暗渠	現代	4.36	※ 4.08	湿地状
12	75	1.0	75	カクラン・ 暗渠	現代	4.37	4.11	砂層下湿地状

※ 7~11 T : 粘質土層上面 E L (湿地状堆植物)



第37図 水橋中村遺跡 遺構実測図・調査地区位置図
1~12地区



航空写真

1. 1946年 米軍撮影 2. 2007年 国土地理院撮影

図版2



水橋池田館遺跡

1. 遺跡遠景（南西から） 2. 面調査地区（真上から）



水橋池田館遺跡

図版4



水橋池田館遺跡

1. 面調査地区全景（北東から） 2. SD3（北から） 3. SD7・21（南から） 4. SD7遺物出土状況（南から）
5. SD39遺物出土状況（東から） 6. SD103（南から） 7. SX79（南から） 8. SX79（西から）



水橋池田館遺跡

1・2 SE53(西から) 3・4 SE78(東から) 5・6 SE82(東から)
7. SE82遺物出土状況(東から) 8. SE25(東から)

図版6



1



2



3



4



5



6



7



8

水橋池田館遺跡

1. SK11(南から)
2. SK11・SX24(南東から)
- 3・4 SK12(東から)
5. SK93遺物出土状況
6. SK98(西から)
7. SK100(南から)
8. SK100断面(南から)



水橋池田館遺跡

1. 38地区SK（南から） 2. 58地区SD2（西から） 3. 59地区SD1（北西から） 4. 71地区SK（東から）
5. 81地区SK（西から） 6. 85地区SK（南から） 7. 91地区北壁（南から） 8. 100地区東壁（西から）

図版8



水橋池田館遺跡

1. 112地区着手前（東から）
2. 113地区西壁（東から）
3. 113地区全景（北から）
4. 115地区北壁（南から）
5. 123地区北壁（南から）
6. 125地区遺物出土状況（西から）
7. 127地区着手前（南から）
8. 130地区全景（南から）



水橋池田館遺跡

SD 1 (12) SD 2 (3・6・13~23) SD 4 (1・24) SD 5 (10・26) SD 6 (25) SD 7 (27・28)
 SD 9 (31・32) SK11 (9) SX24 (41・42) SD39 (36) SE78 (29) SX79 (11・38~40)
 SE94 (33) 42地区 (2) 43地区 (4) 71地区 (5)

図版10



水橋池田館遺跡

S D 2 (44・50・68・70・71) S D 7 (46・69) S X24 (52・63) S E25 (64)
S D38 (66) S E65 (58) S X79 (47・48・53・54) S K93 (51)



水橋池田館遺跡

SD 1 (72) SD 2 (73·90~92) SD 6 (93) SD38 (99·101·103) SE65 (100)
SE78 (102) SX79 (95·96)

図版12



水橋池田館遺跡

S D 2 (77・78・80~82・123・132) S D 3 (74) S D 6 (108) S D 7 (84~86・118)
S D 39 (97・134) S X79 (135) S D 103 (107)



水桥池田馆遗物

S D 1 (139) S D 2 (124 · 125 · 131 · 137 · 142) S D 6 (128 · 130) S D 7 (129 · 141 · 156)
S D39 (157 · 158) S E78 (127) S X79 (126) S D102 (138)

図版14



水橋池田館遺跡

S E78 (145~149・153) S E82 (155) S K100 (151) S K101 (154) 43地区 (144)



水橋池田館 II 遺跡

1. 遺跡遠景（南東から） 2. 2地区全景（西から） 3. 4地区南壁（北から）
4. 13地区竪状構造検出状況（東から） 5. 19地区北壁（南から）

図版16



水橋中村遺跡

1. 2地区全景（南から） 2. 4地区着手前（西から） 3. 8地区人力掘削（北から） 4. 9地区全景（北から）
5. 10地区着手前（北から） 6. 10地区西壁（東から） 7. 12地区南壁（北から） 8. 12地区全景（東から）

報告書抄録

ふりがな	みずはしこだいせき・みずはしこだちにいせき・みずはしなかむらいせき はくつちょうさほうこく						
書名	水橋池田館遺跡・水橋池田館Ⅱ遺跡・水橋中村遺跡発掘調査報告						
副書名	県営農地整備事業水橋三郷北地区に伴う埋蔵文化財発掘報告						
巻次							
シリーズ名	富山県文化振興財团埋蔵文化財発掘調査報告						
シリーズ番号	第77集						
編著者名	金三津道子						
編集機関	公益財團法人富山県文化振興財團 埋蔵文化財調査課						
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL 076-442-4229						
発行年月日	西暦2020年3月19日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな所 在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 *** 度 分 秒	東經 *** 度 分 秒	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
水橋池田館遺跡	富山市 水橋池田町	16201 201052	36度 44分 12秒	137度 18分 14秒	20180806～20181102 20191001～20191024	1470.6 98.7	県営農地整備事業 水橋三郷北地区に 伴う事前調査
水橋池田館Ⅱ遺跡	富山市 水橋池田館	16201 201049	36度 44分 34秒	137度 18分 17秒	20191001～20191024	144.6	
水橋中村遺跡	富山市 水橋中村	16201 201051	36度 44分 12秒	137度 17分 44秒	20191001～20191024	50.6	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
水橋池田館 遺跡	集落	中世～近世	井戸 土坑 溝 堀	14基 95基 26条 2条	弥生土器、土師器、須 恵器、中世土師器、珠 洲、青磁、白磁、越中 瀬戸、唐津、伊万里、 近世陶器、木製品、石 製品、金屬製品	方形の屋敷地を二重に囲む塁 を確認した。	
水橋池田館 Ⅱ遺跡	散布地	～現代	竪状遺構	伊万里			
水橋中村遺跡	散布地						

2020（令和2）年3月4日 印刷
2020（令和2）年3月19日 発行

富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第77集

水橋池田館遺跡

水橋池田館Ⅱ遺跡 発掘調査報告

水橋中村遺跡

—県営農地整備事業水橋三郷北地区に伴う埋蔵文化財発掘報告—

編集・発行 公益財團法人富山県文化振興財團
埋 藏 文 化 財 調 査 課
〒930-0887 富山市五福4384番1号
TEL 076-442-4229

印 刷 株 式 会 社 チュエーツ
〒930-0057 富山市上本町3-16 上本町ビル
TEL 076-495-1300